

International College of Technology, Kanazawa

# 学生便覧

2019

国際理工学科適用



国際高等専門学校

## ●学生便覧・目次

### 1.2019 年度学年暦（白山麓キャンパス）

### 2.校章・校歌

### 3.沿革

### 4.建学綱領

理事長 泉屋 吉郎

### 5.教育目標

校長 ルイス・バークスデール

### 6.国際高等専門学校教育

### 7.学則・諸規則

国際高等専門学校学則／学習指導に関する実施規定／学生心得／生活規定／学生寮規定／  
学生寮・施設利用の手引き／学生会会則／特別奨学金給付規定

### 8.科目概要

### 9.修学について

#### 9.1 学年・学期・休業日について

#### 9.2 授業について

#### 9.3 試験について

#### 9.4 成績について

#### 9.5 ポートフォリオについて

#### 9.6 地域活動・プロジェクトについて

#### 9.7 進級・卒業について

### 10.クラブ活動について

### 11.主な学校行事について

### 12.事務局案内

事務局案内／各種証明書・届出書／奨学制度について／

リーダーシップアワード奨学制度について／学生の災害（ケガ）等について

### 13.学校生活について

こころの相談（カウンセリングセンター）／キャンパス・ハラスメントについて／

個人情報の保護について

### 14.資格試験案内

### 15.ティーチングスタッフ 2019





## 校章

この校章は、本学園の三大建学綱領、

●人間形成 ●技術革新 ●産学協同

三位一体の学園共同体、

●学生 ●理事 ●教職員

科学技術を学ぶ者への指針を示す、3つの“T”

●Truth ●Theory ●Technology

を、本学園のシンボルであるゴールデンイーグル(いぬ鷲)の翼をモチーフにデザインしたものです。

白山に棲息する天然記念物ゴールデンイーグルは、光に向かって進むとき頭部が金色に輝く特徴を持っており、鳥類の中では最も高空を飛翔する勇敢な鳥と言われます。そのゴールデンイーグルの力強いイメージの中に、勇気と信念を象徴しています。

## 校歌

力強く

1. お お ぎ が お か に そ び え た 一 つ  
 2. か え つ が や ま に ひ い で た 一 る  
 3. わ れ ら の め す る く に の は 一 え

い よ う か が や く ま な び や に  
 し ら ね の せ い を う げ も ち て  
 き け ん を こ ゆ る わ ざ す べ

*mf* *f*

せ い き の か ね は な り わ た り う ち ゆ う の し ん り き  
 が く の り ろ ん を お く ふ か く さ く り す す 一 ま ん ま  
 み が き き す か ん せ い し ゅ ん の つ き ん ち か ら は ひ

わ め ん と わ か き が く と の 一 ち は 一 お ど る  
 ど の べ に き ぼ う の ひ か り 一 さ や 一 か な り  
 と の よ に さ い わ い き よ う を 一 ひ ら 一 く な り

作詞 青山兵吉

作曲 山下成太郎

- 1 扇が丘に聳えたつ  
 偉容輝く学び舎に  
 世紀の鐘は鳴りわたり  
 宇宙の真理究めんと  
 若き学徒の血はおどる
- 2 加越の山に秀でたる  
 白嶺の精を享けもちて  
 学の理論を奥深く  
 探り進まん窓の辺に  
 希望の光りさやかなり
- 3 われらがめざる国の榮  
 気圏をこゆる技すべて  
 磨き築かん青春の  
 尽きぬ力は人の世に  
 幸 境を拓くなり

## 3.沿革

- 昭和32年 6月 1日●北陸電波学校開校
- 昭和33年 4月 1日●北陸電波専門学校開校
- 昭和34年 4月 1日●北陸電波高等学校開校
- 昭和37年 4月 1日●金沢工業高等専門学校開校電気工学科設置（定員135名3学級）  
初代校長に青山兵吉就任
- 昭和38年 4月 1日●機械工学科増設（定員90名2学級）
- 昭和39年 9月28日●体育館完成
- 昭和40年 4月 1日●金沢工業大学開学
- 昭和40年12月 4日●金沢工業高等専門学校第二代校長に竹村重武就任
- 昭和42年10月18日●第2種電気主任技術者免状交付申請校に認定
- 昭和43年 3月 1日●第2級無線技術士予備試験の免除校に認定
- 昭和43年11月 5日●能登半島国定公園に穴水湾自然学苑開苑
- 昭和44年 1月16日●情報処理センター（現情報処理サービスセンター）開設
- 昭和44年 4月 1日●教育工学研究所（現情報処理サービスセンター）開設
- 昭和48年 9月21日●扇が丘診療所開設
- 昭和52年 5月19日●天池自然学苑開苑
- 昭和53年 6月 1日●金沢工業高等専門学校第三代校長に新名健吉就任
- 昭和57年 6月 1日●ライブラリーセンター開館
- 昭和61年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第四代校長に佐久間亘就任
- 昭和62年 8月13日●工事担任者試験（電気通信事業法による）の一部免除校に認定
- 昭和63年 4月 1日●電気工学科1学級増
- 平成 2年 4月26日●第2体育館完成
- 平成 3年 4月 1日●金沢市久安2丁目270番地にて新校舎完成
- 平成 5年 7月 8日●夢考房開設
- 平成 7年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第五代校長に堀岡雅清就任
- 平成 7年 5月23日●シンガポール理工学院と協力協定調印
- 平成 7年 7月12日●米国セントマイケルズ大学と協力協定覚書調印
- 平成 8年 4月 1日●マルチメディア考房開設
- 平成 9年 4月 1日●創造技術教育研究所開設
- 平成10年12月14日●池の平セミナーハウス開設
- 平成14年12月17日●ニュージーランドオタゴ・ポリテクニクと協力協定覚書調印
- 平成15年 4月 1日●電気工学科を電気情報工学科に名称変更（定員45名1学級）
- 平成15年 4月 1日●国際コミュニケーション情報工学科増設（定員45名1学級）
- 平成16年 2月 7日●ニュージーランドオタゴ・ポリテクニクと協力協定調印
- 平成18年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第六代校長に山田弘文就任
- 平成19年 4月 1日●地域連携教育センター開設
- 平成21年 4月 1日●電気情報工学科を電気電子工学科に名称変更（定員40名1学級）
- 平成21年 4月 1日●国際コミュニケーション情報工学科をグローバル情報工学科に名称変更（定員40名1学級）
- 平成22年12月 9日●世界的工学教育組織「CDIO イニシアチブ」に加盟
- 平成26年 4月 1日●金沢工業高等専門学校第七代校長にルイス・パークスデール就任
- 平成27年 4月 1日●グローバル情報学科増設（定員40名1学級）  
グローバル情報工科学科学生募集停止
- 平成27年11月18日●マレーシアマラ工科大学と協力協定覚書調印
- 平成28年 4月13日●シンガポール工科大学と協力協定覚書調印
- 平成29年 3月 6日●ムハマディア大学ジョグジャカルタ校と協力協定覚書調印
- 平成30年 4月 1日●校名を国際高等専門学校に名称変更  
国際理工学科増設（定員90名2学級）  
電気電子工学科・機械工学科・グローバル情報工科学科学生募集停止

# 4.建学綱領

学校法人金沢工業大学 理事長  
泉屋 吉郎

## 本学園の使命

日本の学校教育法は「大学は、學術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする。」「高等専門学校は、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。」と述べています。

また、アメリカの故ケネディ大統領は、1963年6月10日アメリカン大学の卒業式において『平和の戦略』と題する演説を行いました。この演説はあの有名なリンカーン大統領の『ゲチスバーグ演説』に比すべき歴史的名演説といわれています。彼はその中で「この地上にあるもので大学ほど美しいものはないであろう。大学は無知を憎む人々が知ることとに努め、真理を知っている人々が、他の人々の眼を開かせようと努める場であるからである。」と、彼らしい格調の高い言葉を引用して大学の使命を語っています。

これら二つの表現において、学校教育法は学理的に、ケネディ大統領は高瞻的に、それぞれ大学の使命を定義づけています。たしかに、大学は學術の中心であって、常に高度の教育実践と斬新な研究活動を行い、日本及び世界學術の進歩と国際文化の向上に寄与することを使命とし、高等専門学校は、産業日本の発展を担う優秀な技術者を育成することを使命としているのであります。

## 教育原理の焦点

さらに、一般的教育とは、哲学者フィヒテの唱えるように、人間自身を形成することであり、人間を彼自身たらしめることであります。また、教育学者ナトルプのいうように人格を陶冶することでもあります。陶冶とは個人の完全なる形成を意味します。

それゆえ、学園の使命を具体的に挙げれば、人間形成、學術探究及び職業教育の三つの項目を数えることができます。この三つの項目は、いずれも重要な意義を持っていますが、窮極においては、人間形成に重点を置いているのであります。要するに、學術探究、職業教育によっても人間形成は可能ではありますが、人間形成を除外して、學術探究も職業教育もありえないのであります。したがって、使命の本質は、最高の知能と深奥な教養のある指導的人間の育成の場であると断言してよいと思うのであります。

このように、学園を人間形成の場として重視すれば、学生生活はただ単に教室、実験室及び図書館にのみあるのではなくて、その文化活動、体育奨励、寮生活の指導、厚生施設、衛生管理、生活相談及び就職斡旋などあらゆる部門、すなわち常任坐臥そのものが重要な意義を持つこととなります。

## 学園共同体の倫理

以上の観点に立てば、人間形成ということは、官学たると私学たるとを問わず、およそ共通の最大の使命であります。特に私学においては、教育の担当者は、ひとり教授のみならず、広く理事者及び職員をも含むべきことを理解せねばなりません。したがって、本学園においては理事、教職員及び学生の三位一体の学園共同体を築き上げることによって、真に人間形成の場となし、民主主義日本の期待する人間像の生まれ出る温床とすべきであります。

しかも、私学は官学と比較して、私立学校法によって一定の基準を守り、監督を受けねばならないとしても、複雑な法的規制や煩瑣な官僚統制を免れて、はるかに自由な立場にあります。戦前においては、私学に対する当局の監督統制は、今日よりは、はるかに厳格を極めていましたが、それにもかかわらず、私学は、それぞれ独自の伝統と堅実な学風を育て上げたのであります。

いずれの私学においても、その経営の企画と財政の確立のために多大の苦慮を払いながら、なおかつ香り高き矜持を失わないのは、実にこの自由の立場が存在するからであります。それゆえにこそ、本学園においては、技術時代に先駆する革新的な産学協同方策を高く旗標として掲げて、経営管理の最高責任者である理事会は、教育研究の直接担当者である教職員及び研究当事者である学生の全面的な協調を得て、その抱負経緯を実現するため、私学の特長を遺憾なく発揮して縦横自在な活動を行い、高邁な学風を築かんとするものであります。

見られよ。古き校史に彩られた私学の中には、その創設者の人格と識見によって建立され、長き歳月と烈しい風雪に耐えて鍛え上げられ、独自の伝統と質実な学風を誇っているものが数多く存在しているのであります。例えば早稲田大学における大隈精神、慶応義塾大学における福沢精神、また、同志社大学における新島精神のごときであります。本学園においても、ここに述べる建学綱領を基盤として日本の学界に垂範する崇敬に値する風格を樹立せねばなりません。

## われらの行く栄光の道

戦後におけるわが日本の経済的発展は、敗戦というおなじ運命を辿り、ともに復興の道を進んだ西ドイツの奇蹟的發展を、はるかに凌駕する神秘的発展を遂げたのであります。この偉大な成果は日本人の知能と技術と勤勉の総合的所産であります。

いまや、本学園はこの偉大な民族的栄光をバックボーンとして、郷土石川県、北陸三県、中部圏及び日本海沿岸地区の地域開発のための學術的母体と技術的基地の主役を演ずるとともに、さらに世界市場に挑戦する産業日本の要求する最優秀な技術者と最上級の経営者を養成すべき重責を双肩に担っているのであります。

進んで将来は、現代アメリカの科学技術の聖地ともいふべきマサチューセッツ工科大学の運営方針に学んで、日本の宇宙開発より産業社会学に至るまで、最高水準を誇る第一流の学園たらしめんとする大志を実現して、民主主義日本の学界に偉大な栄光を捧げんとするものであります。われわれは、この国家的至上使命を遂行するために本学園のあらゆる機能を結集して、その共同的総力を挙げて精進する決意を持たなければなりません。

昭和40(1965)年2月

## 三大建学旗標

金沢工業大学及び国際高等専門学校は、学生、理事、教職員が三位一体となり、学園共同体の理想とする工学アカデミアを形成し、学園創設理事である泉屋利吉翁が定めた三大建学旗標の具現化を目的とする卓越した教育と研究を実践し社会に貢献します。

**高邁な人間形成** 我が国の文化を探究し、高い道徳心と広い国際感覚を有する創造的で個性豊かな技術者・研究者を育成します。

**深遠な技術革新** 我が国の技術革新に寄与するとともに、将来の科学技術振興に柔軟に対応する技術者・研究者を育成します。

**雄大な産学協同** 我が国の産業界が求めるテーマを積極的に追究し、広く開かれた学園として地域社会に貢献します。



# 教育目標

～グローバルイノベーターの育成～

国際高等専門学校校長

ルイス・パークスデール

## 1. 沿革

日本は終戦からわずか十数年で、世界が驚くほどの経済発展を実現させました。その中心的役割を果たしたのは、日本が世界に誇る「ものづくり」の根幹を成す「技術」であったことはいまでもありません。

その驚異的な日本の発展のはじまりを背景として、高専教育制度が誕生しました。技術立国としての地位を確立することを願い、社会はできるだけ多くの実践的な能力を備えた技術者の養成を求め、その願いは当時生まれたばかりの日本各地の高専に託されたのです。

そのような社会状況の下、昭和 37 年、本校は全国で最も早く創設されました。それから 57 年、今日まで 15 才からの徹底した先進的実学教育を実践し、地域に密着した私立高専として歩んできました。「人間形成」、「技術革新」、「産学協同」を建学綱領として、現在までに 5,800 名を超える卒業生を社会に送り出してきました。

## 2. イノベーション時代に生きる教育

この 50 数年の間に私たちを取り巻く社会情勢も大きく変化しました。社会、産業、職場においては変化のスピードが増し続け、この世界の解明を目指す「科学」(サイエンス)と、世界を変える能力ともいえるべき「技術」(テクノロジー)が急速に発展し、社会における機会とニーズも目まぐるしく変化していきます。そのような中で、今日の若者たちが将来、世界を舞台に活躍するために、どのような技術や心構え、知識が必要になるかを、私たちが前もって正確に予測することは不可能です。一定の知識とスキルさえ習得させれば、学生たちの一生のキャリアは保証され、彼らは変容する社会に対応していけるのでしょうか。答えは否です。すでにそのようなことを期待できる世中ではありません。今日の世界においては、学生たちは学び適応し、機会を追求し、挑戦し打ち勝ち、自分たちの住む社会を大きな像でとらえ、そこで自らの役割を見出す、といったさまざまな能力を得て卒業することが必要です。それゆえに、若者たちは一生続いていく自分自身の学びと成長の舵取りを担う能力を身につけなければならないのです。

社会では総じて言えることですが、職場においても新しいことや予期せぬことに対応するべく革新的な手段が必要となり、またチャレンジすべきことも増えるでしょう。社会で上手く機能した貢献していくために、課題やニーズを適切に分析し、革新的な独自の解決方法を見つけ出せるようになることが、本校の卒業生に求められるようになるでしょう。絶え間なく変化している世界では、イノベーション(革新)を求める声が常に存在しています。イノベーションというのは心構えとスキルの両方から成り立つものです。イノベーションには寛容さと探究心が必要であり、何事にも疑問を持ち批判する態度と失敗から学ぶ精神的強さが求められます。また、問題を認識し分析する能力、研究し学ぶ能力、共有し協働する能力、そして創造する能力も要求されます。本校における私たちの目的は、積極的な変化を起こす機会を最大限に利用しながら、常に変化から学び、またそれに応えられる革新者を卒業生として輩出することなのです。

本校は教育におけるイノベーター（革新者）として、1）創造性：Creativity、2）グローバル化：Globalization、3）やる気：Motivation、3つのキーとなる分野に焦点を絞っていきます。

### 1) 創造性：Creativity

私たちの生活の根本を支えている「技術」とは、「創造性」なのです。それは私たちの環境と相互に作用して社会を築き、生活していくための、重要な方法なのです。それは私たち人間を人間とし得る一部でもあります。エンジニアリング（工学）の基本的な過程への洞察と、エンジニアリングの社会におけるさまざまな側面との関わり合いを注視することは、すべての人々にとって不可欠です。創造性は、技術者として社会に貢献し、また技術者自身が活動的で充実した人生を送るために、ますます重要な要素となってきています。

本校では、創造性と「ものづくり」を通した価値観を養うため、デザイン手法、世界規模で進む革新的工学教育「CDIO」と連動した体験重視の工学教育、目標達成型プロジェクト、学生中心の研究活動、ロボットコンテストやプログラミングコンテスト、デザインコンペティションなどのコンテスト参加、そして豊かな心を育む一般教養教育を実施しています。

### 2) グローバル化：Globalization

現在の世界経済は、世界中のほとんどすべての職場が他の職場と結ばれているといっても過言ではありません。今やその結びつきは特定の地域だけにとどまらず、ものの見方や考え方を一国のみの基準ではかることは難しくなっています。他の国々の産業との交流や協働からもたらされる機会を見逃すことはできません。そして、世界での共通言語として日本語を使用することは現実的ではなく、私たちは世界の経済、文化が動く場で最も使用されている英語の習得を避けることはできません。

本校では、コミュニケーションの手段としての英語を身につける少人数英語教育、外国人教員と英語で専門科目を学習する工学・英語協同学習、アメリカへの海外英語研修、ニュージーランドへの1年間留学、シンガポール修学旅行、シンガポール・ポリテクニク生を迎えてのマイルプログラム、海外インターンシップ、東南アジアで現地の人々と生活をともにし、ものづくりやデザインに取り組むラーニングエクスペリエンスなど、グローバル化を体感できるさまざまな活動の機会を提供しています。

### 3) やる気：Motivation

価値あることを学ぶには何事も時間と労力を要します。学習する者にとっては、学習に対する個人的な強い関心が欠かせません。そのような関心は、学ぶ予定の知識やスキルの実用性を理解すること、価値のある目標に向かって進んでいる感覚、そして継続することで得られる達成感から生まれます。本校では、学習する者のやる気を育て、維持するようなさまざまな機会を設けています。豊かな自然の中での集団生活を通し、人間性を育む研修活動、夢や目標を叶えるためのキャリアデザイン、資格取得支援、地域社会に貢献するボランティア活動、インターンシップ、そして部活動など、教室や教科書、黒板などを越えた豊かで興味深い学習・活動が用意されています。

### 最後に：Innovation again

革新（Innovation）は今日の世界を、若者たちが知識やスキルで絶え間なく成長し発展する革新者（Innovator）として競い合える未来へと力強く導いていきます。私たち国際高専も、絶え間ない革新を通じて、急速に近づきつつあるさまざまな課題に立ち向かう準備ができています。

# 6.国際高等専門学校教育

## 国際高専の教育目標

グローバルイノベーターの育成

### 3つの方針について

本校は、教育目標を達成するために、次の3つのポリシー（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）を設定しています。

### 入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

本校は教育目標を「グローバルイノベーターの育成」とし、学生・理事・教職員に対しては学園共同体が共有する価値に基づく信条である「KIT IDEALS」を常に意識、尊重することを求め、自身及び学園共同体の向上発展を目指している。また、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけるため、1・2年次は全寮制教育にて人間力の陶冶を行い、3年次には1年間の海外留学を義務づけている。

本校は、上記理念及び教育方法に共感し、次のような行動ができる人を求めている。

- ①しっかりと基礎学力を持ち、科学技術やデザイン（課題の発見・解決）、イノベーション（新しい価値の創造）に興味を持つ人
- ②グローバル社会での活躍に強い関心と探究心を持ち、英語でのコミュニケーション能力を高めようとする人
- ③主体的に社会や地域に貢献する意欲を持ち、且つ行動する人

本校では、推薦・一般入試以外に、多様な学生を募集するために留学生や帰国子女を対象とする入学試験を実施する。すべての入学試験にて、主体性や協調性、高い向上心を持つ学生を選抜するために個人面接を行う。選考にあたっては、学力試験、出願書類及び面接により多面的・総合的に評価する。

### 教育課程の編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本校は、グローバルイノベーターの素養をしっかりと身につけさせるために、下記を特色とする CDIO イニシアチブ※の理念をカリキュラムに織り込み、学生の主体的な体験を重視するカリキュラムを編成する。また、学修成果の評価については、成果物や試験以外に、活動プロセスや協働状況を評価するために学修ポートフォリオを活用する。

- ①課題発見・解決力を高める。  
高専入学時から、Open-ended、即ち決まった答えのない問題について解決策を探るプロジェクトを早い段階でスタートさせる。継続的にデザインシンキングを実践する機会を設けて、課題を発見・定義する経験を繰り返し、幅広い研究成果や調査技術を駆使し、課題の解決へと結びつける力を養っていく。
- ②科学的思考力、コミュニケーション能力を鍛える。  
他者と協働しながらアカデミックな探究の精神を養うこと、批判的・分析的思考の技術を磨くこと、ディスカッションやディベートを含む効果的なコミュニケーション能力を育成することに努める。
- ③よりよい社会づくりに積極的に参画する態度を養う。  
地域とのふれあいを意識し、地域社会や自然・環境を調査・研究対象としたプロジェクトを行い、地域貢献を通じて社会の一員としての自覚を醸成する。

- ④グローバルに活躍できる英語力を培う。  
特に数学、科学、工学における教育伝達的手段として1年次から英語を導入し、徐々に増やしていく。  
3年次以降はほとんどの授業を英語で行う。
- ⑤異なる文化や、多様な価値観を持つ人々と協働する力を身につける。  
文学と芸術に触れる機会や、世界の人々と協働する体験を通じ、創造性と、自身や社会並びに世界に対する深い理解を育む。

## 卒業認定方針（ディプロマ・ポリシー）

本校は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた実践的・創造的技術者を養成している。グローバルイノベーターとは、課題を発見する科学的思考力を持ち、最新の工学知識や洞察力を身につけ、創造的な解決策を用いて新しい価値を生み出す人材である。さらに、さまざまな分野の専門家たちと協働し、文化や価値観の多様性を受け入れ、グローバル社会で活躍する力を持ったプロフェッショナルでもある。新しい価値の発見者“イノベーター”は、工学原理、工学実践を幅広く理解していなければならない。つまり、工学教育改革を目指す国際的組織「CDIO イニシアチブ」の「Conceive、Design、Implement、Operate」というそれぞれの段階を理解し実践する者である。具体的には、次の能力及び行動規範を身につけることが求められる。

### I 社会に貢献するリーダーとしての人間力

- ①革新への挑戦  
信念(高い志・強靱な意志)を持って行動し、失敗に臆することなく粘り強く挑戦し続け、自身やチームを成功へと導くことができる。
- ②社会的使命感  
地域社会や自然環境に関心を持ち、社会的な課題の解決に使命感を持っている。
- ③リーダーとしての高潔  
グローバルな環境でリーダーシップを発揮する一方で、謙虚さや他者への尊敬、思いやりを持ち、信頼される人格を備えている。

### II グローバルに活躍できるコミュニケーション能力

- ①コラボレーション  
チームで目標を達成するために、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献する。
- ②多様性とアイデンティティ  
多様な文化や価値観を持つ人々と協働するための教養を備えつつ、自身の考えを持っている。
- ③心を動かす力  
自身の考えを論理的にまとめたうえで、相手の立場や気持ちを考慮しながら効果的に伝えることができる。

### III イノベーターに相応しい卓越した科学技術力

- ①価値創出  
幅広い学問領域の探求とデザイン思考の実践により、これまでにない価値を創出することができる。
- ②自然・社会・産業と結びつけた科学的思考  
科学技術を自然・社会・産業の面から理解・分析し、自分の考えを述べることができる。
- ③常に学び続ける姿勢  
科学・工学の基礎を土台として、常に新しい知識・技術を獲得する姿勢を持っている。  
これらの認識の下、本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得することが卒業の要件である。

# 国際高等専門学校学則

(平成 30 年度以降入学生適用)

## 第 1 章 目的及び使命

**第 1 条** 国際高等専門学校(以下「本校」という。)は、学校法人金沢工業大学建学綱領に定める建学の精神に則り、教育基本法及び学校教育法に基づき、理学・工学の幅広い学芸を教授し、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

2 本校は、前項の目的を実現するための教育を行い、その成果を広く社会に提供することにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを使命とする。

3 本校は、前 2 項の目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について点検及び評価を行うことに努めるものとする。

4 前項に関し、必要な事項は、別に定める。

## 第 2 章 修業年限、学年、学期及び休業日

**第 2 条** 本校の修業年限は、5 年とする。

**第 3 条** 学年は、4 月 1 日に始まり翌年 3 月 31 日に終る。

**第 4 条** 学年を分けて、次の 2 学期とする。

前学期 4 月 1 日から 9 月 30 日まで

後学期 10 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで

2 前項に定める学期の開始日及び終了日については、国際高等専門学校校長(以下「校長」という。)は、臨時に変更することができる。

3 各学期の授業実施日等は、別に定める学年暦による。

**第 5 条** 休業日は、次のとおり定める。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることができる。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和 23 年法律第 178 号)に定める休日

(3) 創立記念日 6 月 1 日

(4) 夏期休業

(5) 冬期休業

(6) 学年末休業

2 前項第 4 号から第 6 号の休業日は、学年暦による。

3 第 1 項各号に規定する休業日のほか、臨時の休業日は校長がその都度定める。

## 第 3 章 組織及び定員

**第 6 条** 本校に次の学科を置く。

国際理工学科

- 2 学科は、教育上有益と認められるときには、適切なコースの学級を編成することができる。
- 3 前項に規定するコースの取り扱いについては、別に定める。

**第6条の2** 国際理工学科は、グローバルに活躍するイノベーターの素養を身につけた創造的・実践的技術者の養成を目的とする。

- 2 コースの人材養成目的は、別に定める。

**第7条** 国際理工学科の学級数及び収容定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員	収容定員
国際理工学科	2	90人	450人

## 第4章 教育課程等

**第8条** 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

**第8条の2** 本校の授業科目は、その内容により、一般科目及び専門科目に分ける。

- 2 前項に定める授業科目のほか特別活動を実施する。
- 3 1年次及び2年次は、全寮制による教育を行う。

**第9条** 本校は、本校及び学科の教育目的を達成するために必要な授業科目を開設し、体系的に教育課程を編成する。

- 2 教育課程は、各授業科目を各学年に担当して編成する。
- 3 各授業科目の単位数と学年別配当は、別表第1のとおりとする。
- 4 各授業科目の単位数は、30単位時間(1単位時間は標準50分とする。次項及び第8項において同じ。)の履修を1単位として計算するものとする。
- 5 前項の規定にかかわらず、授業科目のうち別表第1に定める学修科目については、1単位の授業科目を45単位時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、1単位を15単位時間の授業をもって計算する。
- 6 前項の規定により計算することのできる授業科目の単位数の合計は、60単位を超えないものとする。
- 7 前3項の規定にかかわらず、インターンシップ及び課題学修については、その学修の成果を評価して単位の修得を認定することとし、その単位数については、別表第1による。
- 8 特別活動を、卒業までに90単位時間以上実施するものとする。

**第10条** 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が他の高等専門学校において履修した授業科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で本校における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

**第11条** 校長は、教育上有益と認めるときは、学生が行う大学における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本校における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

- 2 前項により、認定することができる単位数は、前条により本校において修得したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。
- 3 第1項の規定は、学生が、外国の大学又は高等学校に留学する場合及び外国の大学が行う通信教

育における授業科目を、我が国において履修する場合について準用する。この場合において認定することができる単位数の合計数は30単位を超えないものとする。

**第12条** 各学年の課程の修了及び卒業の認定は、学生の平素の学業成績のほか、特別活動の状況を併せて評価のうえ、校長が行う。

2 前項に規定する評価については、別に定める国際高等専門学校学習指導に関する実施規程による。

3 各学年の課程の修了又は卒業が認められなかった者は原学年に留める。

## 第5章 入学、転科、休学、退学、転学及び卒業

**第13条** 第3学年以下において原学年に留められた場合は、当該学年の修得単位を無効とし、その学年の授業科目及び特別活動の全てを再履修しなければならない。ただし、原学年に留められた者が進路変更するために退学を希望する場合には、当該学年の修得単位を有効とする。

2 第4学年又は第5学年において原学年に留められた場合は、当該学年の修得単位を有効とし、当該学年における未修得科目を履修しなければならない。ただし、当該学年で修得した科目についても再履修することができるものとする。

3 前項の規定により再履修を行う場合は、履修を許可された時点で当該授業科目についての既修得単位と成績評価は取り消される。

**第14条** 本校に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 中学校若しくはこれに準ずる学校を卒業した者

(2) 中等教育学校の前期課程を修了した者

(3) 外国において、学校教育における9年の課程を修了した者

(4) 文部科学大臣の定めるところにより、前3項と同等以上の学力があると認められた者

**第15条** 入学を志願する者は、入学願書に第29条に定める検定料及び所定の書類を添えて願い出なければならない。

**第16条** 校長は、入学志願者について、別に定めるところにより入学者を選考し、合格者を決定する。

**第17条** 合格通知を受けた者は、指定の期日までに第29条に定める入学金を納付するとともに、在学中の保証人と連署した誓約書及び校長が定める書類を提出しなければならない。

2 校長は、前項の入学手続を完了した者に対して、入学を許可する。

**第18条** 1学年後学期以降に入学を希望する者があるときは、校長は、その者が相当年令に達し、当該学年に在学する者と同等以上の学力があると認められ、かつ、定員に欠員がある場合に限り、相当学年に入学を許可することができる。

**第19条** 削除

**第20条** 病気その他やむを得ない理由により、休学しようとする者は、その事由を記して保証人と連署で休学を願い出て、校長の許可を受けなければならない。ただし、病気の場合には、願い書に医師の診断書を添付しなければならない。

2 休学は、原則として学期ごととし、休学の願い出は学期の始めまでに行わなければならない。

**第 21 条** 校長は、特殊の病気のため療養を要すると認められた者に対して、出席停止又は休学を命ずることができる。

2 校長は、伝染病にかかり、又はかかっている疑いがあると認められた者に対し、出席停止を命ずることができる。

**第 22 条** 休学期間は、通算して2年以内とする。

**第 23 条** 休学した者は、休学の理由がなくなったとき、校長の許可を受けて復学することができる。

**第 24 条** やむを得ない理由により退学しようとする者は、その理由を記して保証人と連署で願い出、校長の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により退学した者で再入学を希望する者があるときは、校長は、選考のうえ、相当年次に入学を許可することができる。

**第 25 条** 他の学校に入学、転学又は編入学を志望しようとする者は、校長の許可を受けなければならない。

**第 26 条** 学生は、1 学年及び2 学年においては、学生寮に入寮する。

2 学生は、3 学年においては、提携するニュージーランド国立オタゴポリテクニクに留学し、その授業科目を履修する。

3 前項に定める留学の期間は、原則として1 年以内とする。

4 留学期間は、在学年数に算入する。

5 留学について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校外国留学に関する規程による。

**第 26 条の 2** 校長は、前条第 2 項の規定により留学を認められた者に対し、別に定める授業科目について、インターネット等のメディアを利用して、遠隔授業を行うことができる。ただし、この場合において認定することができる単位数の合計は 10 単位を超えないものとする。

**第 27 条** 校長は、卒業を認定した者（次項において「卒業生」という。）に卒業証書を授与する。

2 卒業生は、準学士(工学)と称することができる。

## 第 6 章 学校納入金

**第 28 条** 本学則において学校納入金とは、検定料、入学金、授業料及び在籍料をいう。

2 本学則に定めるもののほか、学校納入金の取扱いについては、学校法人金沢工業大学学校納入金収納取扱規程の定めるところによる。

**第 29 条** 検定料及び入学金は、次のとおりとする。

検定料 15,000 円

入学金 200,000 円

**第 30 条** 授業料は、学年ごとに別表第 2 に定めるとおりとする。

2 1 学年及び2 学年の授業料には、学生寮への入寮に伴う寄宿費（食費を含む。）を含む。

3 3 学年における授業料とは別に、留学に係るニュージーランド国立オタゴポリテクニクの授業料、ホームステイ費用は別に徴収する。

**第 31 条** 休学を認められた者の当該休学期間に相当する学期の授業料は、これを徴収しない。ただ

し、休学期間に相当する学期の在籍料を納入しなければならない。

2 在籍料は、一学期につき3万円とする。

3 休学した者が復学するときの授業料は、その者の入学時に定められた当該学年の授業料の額とする。

**第32条** 授業料は、学期ごとに納入しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、年額を一括して納入することができる。

3 納入期限は、学校納入金明細書に記載する払込指定日とする。

**第32条の2** 納入された全ての学校納入金は、返還しない。

2 前項の規定にかかわらず、次の各号のいずれかに該当する場合は、当該授業料を返還する。

(1) 入学を許可された者が、所定の手続により4月1日までに入学辞退を申し出、かつ既に授業料を納入している場合

(2) 休学を認められた者が、休学する学期の授業料を既に納入している場合

(3) 退学又は除籍された者が、在籍しない学期の授業料を既に納入している場合

**第32条の3** 学期の途中で退学、休学、停学又は除籍された者の当該学期の授業料は、これを徴収する。

## 第7章 教職員

**第33条** 本校に、校長、教授、准教授、講師、助教、助手、事務局長、事務職員及び技術職員（次項を含め次条において「教職員」という。）を置く。

2 前項に定めるほか、本校に副校長、学科長を置くことができる。

**第34条** 校長は、校務を掌り教職員を監督する。

2 副校長は、校長の職務を助ける。

3 学科長は、学科に関する校務を掌る。

4 教授、准教授及び助教は、学生を教授する。

5 講師は、教授又は准教授に準ずる職務に従事する。

6 助手は、教育の円滑な実施に必要な業務に従事する。

7 事務局長は、校長を補佐し、学務に関する事務を統理する。

8 事務職員は、学務に関する事務に従事する。

9 技術職員は、技術に関する業務に従事する。

**第35条** 校長は、教授の中から教務主事、学生主事、進路指導主事、研究プロジェクト主事及び国際交流主事を任命する。

2 教務主事は、校長の命を受け、教育計画の立案、その他教務に関することを掌理する。

3 学生主事は、校長の命を受け、学生の厚生補導に関すること（進路指導主事の所掌に属するものを除く。）を掌理する。

4 進路指導主事は、校長の命を受け、学生の履修指導及び進路指導に関することを掌理する。

5 研究プロジェクト主事は、校長の命を受け、学生のプロジェクト活動及び教員の研究に関するこ

とを掌理する。

6 国際交流主事は、校長の命を受け、留学及び国際交流に関することを掌理する。

## 第8章 賞罰及び除籍

**第36条** 校長は、学生として表彰に値する行為があるときには、表彰することができる。

**第37条** 校長は、学生が本校の規則に違反し、又はその本分に反する行為があるときは懲戒する。

**第38条** 前条に定める懲戒の種類は、訓告、謹慎、退学とする。

**第39条** 校長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して退学を命ずる。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由なくて出席が常でない者
- (4) 学校の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者
- (5) 第12条第3項の規定により、原学年に留められた者で、再履修後も引続き進級できない者

**第40条** 校長は、次の各号のいずれかに該当する者を除籍する。

- (1) 学校納入金を滞納し、督促を受けても納入しない者
- (2) 在学期間が10年を超えた者
- (3) 第22条に規定する休学期間を超えた者
- (4) 長期間にわたり行方不明の者

## 第9章 外国人留学生

**第41条** 校長は、本校に留学を志願する外国人があるときは、選考の上、外国人留学生として入学を許可することができる。

**第42条** 削除

**第43条** 削除

## 第10章 研究生及び科目等履修生

**第44条** 校長は、本校学生以外の者で、本校の特定の専門事項について研究することを希望するものがあるときは、本校の教育研究に支障のない場合に限り、選考のうえ、研究生として入学を許可することができる。

2 研究生について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校研究生規程による。

**第45条** 削除

**第46条** 校長は、本校学生以外の者で、本校が開設する一又は複数の授業科目を履修することを希望するものがあるときは、本校の教育に支障のない場合に限り、選考のうえ、科目等履修生として入学を許可することができる。

2 科目等履修生のうち、履修する授業科目についての単位の取得を希望しない者を聴講生という。

3 科目等履修生について必要な事項は、別に定める国際高等専門学校科目等履修生規程による。

## 第 47 条 削 除

## 第 11 章 図 書 館 等

第 48 条 本校に、図書館及びその他教育研究に必要な施設を置く。

## 第 49 条 削 除

## 第 12 章 公 開 講 座

第 50 条 本校に、公開講座を開設することができる。

## 第 51 条 削 除

## 附 則

- 1 この学則は昭和 37 年 4 月 1 日から実施する。
- 2 昭和 38 年 4 月 1 日、一部改正同日から実施する。
- 3 この学則は昭和 42 年 4 月 1 日から実施する。
- 4 この学則は昭和 44 年 4 月 1 日から実施する。
- 5 この学則は昭和 47 年 4 月 1 日から実施する。
- 6 この学則は昭和 48 年 4 月 1 日から実施する。
- 7 この学則は昭和 49 年 4 月 1 日から実施する。
- 8 この学則は昭和 50 年 4 月 1 日から実施する。
- 9 この学則は昭和 52 年 4 月 1 日から実施する。
- 10 この学則は昭和 53 年 4 月 1 日から実施する。ただし、この学則実施前に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 11 この学則は昭和 54 年 4 月 1 日から実施する。
- 12 この学則は昭和 55 年 4 月 1 日から実施する。
- 13 この学則は昭和 56 年 4 月 1 日から実施する。
- 14 この学則は昭和 58 年 4 月 1 日から実施する。
- 15 この学則は昭和 59 年 3 月 23 日から実施する。
- 16 この学則は昭和 59 年 4 月 1 日から実施する。
- 17 この学則は昭和 60 年 4 月 1 日から実施する。
- 18 この学則は昭和 61 年 4 月 1 日から実施する。
- 19 この学則は昭和 62 年 4 月 1 日から実施する。ただし、この学則実施前に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 20 この学則は昭和 63 年 4 月 1 日から実施する。ただし、この学則実施前に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 21 この学則は平成元年 4 月 1 日から実施する。
- 22 この学則は平成 2 年 4 月 1 日から実施する。

- 23 この学則は平成3年4月1日から実施する。
- 24 この学則は平成3年10月1日から実施する。
- 25 この学則は平成4年4月1日から実施する。ただし、この学則実施前に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 26 この学則は平成5年4月1日から実施する。
- 27 この学則は平成6年4月1日から実施する。
- 28 この学則は平成7年4月1日から実施する。ただし、この学則実施前に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 29 この学則は平成8年4月1日から実施する。
- 30 この学則は平成9年4月1日から実施する。
- 31 この学則は平成10年4月1日から実施する。
- 32 この学則は平成11年4月1日から実施する。
- 33 この学則は平成12年4月1日から実施する。
- 34 この学則は平成13年4月1日から実施する。
- 35 この学則は平成14年4月1日から実施する。
- 36 この学則は平成15年4月1日から実施する。ただし、この学則実施前に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 37 この学則は平成16年4月1日から実施する。ただし、平成11年度入学生について、改正前の金沢工業高等専門学校学則第30条別表第2は、なおその効力を有する。
- 38 この学則の改正条項は、平成17年4月1日から施行する。
- 39 この学則の改正条項は、平成19年4月1日から施行する。
- 40 この学則は、平成20年4月1日から改正施行する。
- 41 この学則は、平成21年4月1日から改正施行する。ただし、改正後の第6条の規定にかかわらず、電気情報工学科及び国際コミュニケーション情報工学科は、平成21年3月31日に該当学科に在学する者が当該学科に在学しなくなるまでの間、存続するものとする。
- 42 この学則は、平成25年4月1日から改正施行する。
- 43 この学則は、平成27年4月1日から改正施行する。ただし、改正後の第6条の規定にかかわらず、グローバル情報工学科は、平成27年3月31日に当該学科に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとし、この学則実施前に現に在学する者にかかる教育課程については、なお従前のおりとする。
- 44 この学則は、平成30年4月1日から改正施行し、同日をもって校名を「金沢工業高等専門学校」から「国際高等専門学校」に名称変更する。ただし、平成30年3月31日現在において、改正前の第6条に定める電気電子工学科、機械工学科及びグローバル情報学科に現に在学する者については、名称変更後の校名を用いることを除いて、当該者が当該学科に在学しなくなるまでの間は、なお従前の例による。
- 45 この学則は、平成31年4月1日から改正施行し、改正後の第13条の規定は平成31年3月31日

に国際理工学科に現に在学する者についても適用する。

46 附則 44 ただし書きの規定にかかわらず、平成 31 年 4 月 1 日に電気電子工学科、機械工学科及びグローバル情報学科に現に在学する者の学年は、当該日から 2 学期とし、この場合において学期は 第 4 条第 1 項に定めるところによる。

別表第1 教育課程表

一般科目（各コース共通）

平成30年度以降入学生適用

授業科目	学年	配当年次	単位数		学年別配当					備考	
			必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年		
一般科目 （全コース共通）	人文科学	国語表現ⅠA	1前	1		1					
		国語表現ⅠB	1後	1		1					
		国語表現ⅡA	2前	1			1				
		国語表現ⅡB	2後	1			1				
		英語表現ⅠA	1前	1		1					国語表現に替わる留学生用の科目
		英語表現ⅠB	1後	1		1					
		英語表現ⅡA	2前	1			1				
		英語表現ⅡB	2後	1			1				
		文学Ⅰ	1前		1	1					
		文学Ⅱ	2後		1		1				
		世界文学Ⅰ	1前		1	1					文学に替わる留学生用の科目
		世界文学Ⅱ	2後		1		1				
		アカデミックライティング	4前		1				1		
		歴史文化ⅠA	1前	1		1					
		歴史文化ⅠB	1後	1		1					
		歴史文化ⅡA	2前	1			1				
		歴史文化ⅡB	2後	1			1				
		歴史文化（英語）ⅠA	1前	1		1					歴史文化に替わる留学生用の科目
		歴史文化（英語）ⅠB	1後	1		1					
		歴史文化（英語）ⅡA	2前	1			1				
		歴史文化（英語）ⅡB	2後	1			1				
		グローバルスタディーズ	3前	2				2			
		社会科学	4前		2				2		学修単位
		人文科学	4後		2				2		学修単位
心理学	5前		2					2	学修単位		
生活と文化	3通	4				4					
解析基礎A	1前	2		2							

一般科目 (全コース共)	自然科学	解析基礎B	1後	2		2								
		微分・積分A	2前	2			2							
		微分・積分B	2後	2			2							
		基礎数学A	1前	2		2								
		基礎数学B	1後	2		2								
		代数・幾何学A	2前	2			2							
		代数・幾何学B	2後	2			2							
		数理統計	4前	2					2					学修単位
		物理ⅠA	1前	1		1								
		物理ⅠB	1後	2		2								
		物理ⅡA	2前	2			2							
		物理ⅡB	2後	2			2							
		化学ⅠA	1前	1		1								
		化学ⅠB	1後	2		2								
		化学ⅡA	2前	2			2							
		化学ⅡB	2後	2			2							
		生物ⅠA	1前	1		1								
		生物ⅠB	1後	1		1								
		生物ⅡA	2前	1			1							
	生物ⅡB	2後	1			1								
	第二言語	リーディング・ライティングⅠA	1前	1		1								
		リーディング・ライティングⅠB	1後	1		1								
		リーディング・ライティングⅡA	2前	1			1							
		リーディング・ライティングⅡB	2後	1			1							
		リスニング・スピーキングⅠA	1前	2		2								
		リスニング・スピーキングⅠB	1後	1		1								
		リスニング・スピーキングⅡA	2前	1			1							
		リスニング・スピーキングⅡB	2後	2			2							
ブリッジングリッシュ		1前	2		2									
日本語ⅠA		1前	5		5								リーディング・ライティング、リスニング・スピーキング、ブリッジングリ	
日本語ⅠB	1後	2		2										
日本語Ⅱ	2前	2		2										

	日本語コミュニケーション	2後	3		3				ッシュに替わる留学生用の科目
	ファンクショナルイングリッシュ	3通	3			3			3年次留学先科目
	総合英語ⅠA	4前	1				1		
	総合英語ⅠB	4後	1				1		
	総合英語ⅡA	5前	1					1	
	総合英語ⅡB	5後	1					1	
	テクニカルイングリッシュ	3通	4			4			3年次留学先科目
	テクニカルコミュニケーション	4前		2			2		学修単位
	海外英語研修	2休		4	4				
保健体育・他	保健体育ⅠA	1前	1		1				
	保健体育ⅠB	1後	1		1				
	保健体育ⅡA	2前	1			1			
	保健体育ⅡB	2後	1			1			
	保健体育ⅢA	4前	1				1		
	保健体育ⅢB	4後	1				1		
	ビジュアルアーツⅠ	1後		1	1				
	ビジュアルアーツⅡ	2前		1		1			
	パフォーマンスアーツⅠ	1後		1	1				
	パフォーマンスアーツⅡ	2前		1		1			
一般科目合計	必修科目修得単位計		79	—	29	29	13	6	2
	選択科目開設単位計		—	19	3	7	0	7	2
	選択科目修得最低単位計		—	4	1	1	0	2	0
	修得最低単位合計		83		30	30	13	8	2

専門科目 (国際理工学科)

平成 30 年度以降入学生適用

授業科目		学年	配当年次	単位数		学年別配当					備考
				必修	選択	1年	2年	3年	4年	5年	
全 コ ー ス 共 通 専 門 科 目	共 創 科 目	エンジニアリングデザインⅠA	1前	2		2					
		エンジニアリングデザインⅠB	1後	2		2					
		エンジニアリングデザインⅡA	2前	2			2				
		エンジニアリングデザインⅡB	2後	2			2				
		エンジニアリングデザインⅢ	3通	8				8			3年次留学先科目
		エンジニアリングデザインⅣA	4前	2					2		
		エンジニアリングデザインⅣB	4後	2					2		
		エンジニアリングデザインⅤA	5前	2						2	
		エンジニアリングデザインⅤB	5後	2						2	
		エンジニアリングコンテキストⅠA	1前	1		1					
	エンジニアリングコンテキストⅠB	1後	1		1						
	エンジニアリングコンテキストⅡA	2前	1			1					
	エンジニアリングコンテキストⅡB	2後	1			1					
	工学基礎実技	3通	3				3			3年次留学先科目	
	インターンシップⅠ	4休		1				1			
	インターンシップⅡ	5休		1					1		
	アントレプレナーシップ	5後		1					1		
	I T リ テ ラ シ ー	コンピュータスキルズⅠA	1前	1		1					
		コンピュータスキルズⅠB	1後	1		1					
		コンピュータスキルズⅡA	2前	1			1				
コンピュータスキルズⅡB		2後	1			1					
必修科目修得単位計				35	0	8	8	11	4	4	
選択科目開設単位計				0	3	0	0	0	1	2	

専門科目・電気電子コース	3年次留学先科目	電気回路Ⅰ	3通		4			4		3年次留学先科目 (内、3科目履修)	
		電子工学	3通		4			4			
		電力工学	3通		4			4			
		数理工学	3通		4			4			
		コンピュータ工学基礎	3通		4			4			
		プログラミング基礎	3通		4			4			
		ネットワーク概論	3通		4			4			
	専門基礎科目	応用数学ⅠA	4前	2					2		学修単位
		応用数学ⅠB	4後	2					2		学修単位
		応用数学ⅡA	5前	2						2	学修単位
		応用数学ⅡB	5後	2						2	学修単位
		制御数学	5前		2					2	学修単位
		応用物理ⅠA	4前	2					2		学修単位
		応用物理ⅠB	4後	2					2		学修単位
		応用物理ⅡA	5前	2						2	学修単位
		応用物理ⅡB	5後	2						2	学修単位
		応用化学ⅠA	4前		2				2		学修単位
		応用化学ⅠB	4後		2				2		学修単位
		応用化学ⅡA	5前		2					2	学修単位
	応用化学ⅡB	5後		2					2	学修単位	
	スペシャリストフォーカス	電気回路ⅡA	4前	2					2		学修単位
		電気回路ⅡB	4後	2					2		学修単位
		過渡現象	5前		2					2	学修単位
		電子回路基礎	4後	2					2		学修単位
		電子回路	5前	2						2	学修単位
		電気磁気学A	4前	2					2		学修単位
		電気磁気学B	4後	2					2		学修単位
電気電子材料		5前	2						2	学修単位	
物性工学		5後		2					2	学修単位	
電気製図		5前		1					1		
電気電子機器		5後	2						2	学修単位	

	電気電子計測工学	5 後	2					2	学修単位	
	コンピュータアーキテクチャ	4 後	2				2		学修単位	
	プログラミングA	5 前	2					2		
	プログラミングB	5 後		2				2		
	課題学修								単位数は別に定める	
	必修科目修得単位計		38	0	0	0	0	20	18	
	選択科目開設単位計		0	45	0	0	28	4	13	

専門科目・機械工学コース	3 年 次 留 学 先 科 目	工業力学	3 通		4			4		3年次留学先科目 (内、3科目履修)
		機械設計製図法	3 通		4			4		
		熱伝導工学	3 通		4			4		
		流体力学	3 通		4			4		
		数理工学	3 通		4			4		
		電気基礎	3 通		4			4		
		コンピュータ工学基礎	3 通		4			4		
		プログラミング基礎	3 通		4			4		
	専 門 基 礎 科 目	応用数学ⅠA	4 前	2					2	学修単位
		応用数学ⅠB	4 後	2					2	学修単位
		応用数学ⅡA	5 前	2					2	学修単位
		応用数学ⅡB	5 後	2					2	学修単位
		制御数学	5 前	2					2	学修単位
		応用物理ⅠA	4 前	2					2	学修単位
		応用物理ⅠB	4 後	2					2	学修単位
		応用物理ⅡA	5 前	2					2	学修単位
		応用物理ⅡB	5 後	2					2	学修単位
		応用化学ⅠA	4 前		2				2	学修単位
		応用化学ⅠB	4 後		2				2	学修単位
		応用化学ⅡA	5 前		2				2	学修単位
応用化学ⅡB	5 後		2				2	学修単位		

	応用生物 I	4 前		2			2		学修単位
スペシヤリストコース	材料力学 I	4 後	2				2		学修単位
	材料力学 II	5 前	2					2	学修単位
	機械製図	4 前	2				2		
	機械要素設計	4 後		2			2		学修単位
	熱力学	4 後		2			2		学修単位
	熱工学	5 前		2				2	学修単位
	流体力学	4 後		2			2		学修単位
	機械工作	4 前	2				2		
	計測工学	5 前	2					2	学修単位
	材料工学	5 後		2				2	学修単位
	電子回路基礎	4 後		2			2		学修単位
	制御工学	5 後	2					2	学修単位
	コンピュータアーキテクチャ	4 後	2				2		学修単位
	プログラミング A	5 前	2					2	
	プログラミング B	5 後		2				2	
	課題学修								
必修科目修得単位計			34	0	0	0	0	16	18
選択科目開設単位計			0	56	0	0	32	14	10

専門科目・情報フロンティア	3 年次留学先科目	コンピュータ工学基礎	3 通		4		4		3年次留学先科目 (内、3科目履修)
		プログラミング基礎	3 通		4		4		
		プログラミング	3 通		4		4		
		Webデザイン	3 通		4		4		
		ネットワーク概論	3 通		4		4		
		ビジネスコンピューティング	3 通		4		4		
		システム分析基礎	3 通		4		4		
		マーケティング基礎	3 通		4		4		
		マネジメント	3 通		4		4		
		数理工学	3 通		4		4		
	専門	応用数学 I A	4 前	2				2	学修単位

	応用数学ⅠB	4後	2					2		学修単位	
	応用数学ⅡA	5前	2						2	学修単位	
	応用数学ⅡB	5後	2						2	学修単位	
	制御数学	5前		2					2	学修単位	
	応用物理ⅠA	4前		2				2		学修単位	
	応用物理ⅠB	4後		2				2		学修単位	
	応用物理ⅡA	5前		2					2	学修単位	
	応用物理ⅡB	5後		2					2	学修単位	
	応用化学ⅠA	4前		2				2		学修単位	
	応用化学ⅠB	4後		2				2		学修単位	
	応用生物Ⅰ	4前		2				2		学修単位	
スペシヤリストオフィス	情報数学Ⅰ	4前	2					2		学修単位	
	情報数学ⅡA	5前	2						2	学修単位	
	情報数学ⅡB	5後	2						2	学修単位	
	プログラミング演習A	4前		2				2			
	プログラミング演習B	4後		2				2			
	コンピュータシステムA	4前	2					2		学修単位	
	コンピュータシステムB	4後	2					2		学修単位	
	ネットワークシステム演習	5後		2					2		
	ソフトウェア工学	4後	2					2		学修単位	
	ソフトウェア工学演習	5前	2						2		
	データベース	5後	2						2	学修単位	
	データ構造とアルゴリズム	4後	2					2		学修単位	
	オペレーティングシステム	5前		2					2	学修単位	
	メディア情報	5後		2					2	学修単位	
	ビジネス概論	5前	2						2	学修単位	
	企業会計	5後	2						2	学修単位	
	ビジネス特論	5後		2					2	学修単位	
	課題学修										単位数は別に定める
	必修科目修得単位数計			30	0	0	0	0	14	16	
選択科目開設単位数計			0	68	0	0	40	14	14		

専門科目・応用化学コース	3年次留学先科目	数理工学	3通		4			4		3年次留学先科目 (内、3科目履修)
		材料科学	3通		4			4		
		コンピュータ工学基礎	3通		4			4		
		プログラミング基礎	3通		4			4		
		プログラミング	3通		4			4		
		Webデザイン	3通		4			4		
		ネットワーク概論	3通		4			4		
	専門基礎科目	応用数学ⅠA	4前	2					2	学修単位
		応用数学ⅠB	4後	2					2	学修単位
		応用数学ⅡA	5前	2					2	学修単位
		応用数学ⅡB	5後	2					2	学修単位
		制御数学	5前		2				2	学修単位
		応用化学ⅠA	4前	2					2	学修単位
		応用化学ⅠB	4後	2					2	学修単位
		応用化学ⅡA	5前	2					2	学修単位
		応用化学ⅡB	5後	2					2	学修単位
		応用生物Ⅰ	4前	2					2	学修単位
		応用生物Ⅱ	5後	2					2	学修単位
		スペシャリスト	化学と安全	4前	2					2
	応用化学実験・演習A		5前	3					3	学修単位
	応用化学実験・演習B		5後	3					3	
	物質の状態と反応		4前	2					2	学修単位
	化学工学		4後	2					2	学修単位
	材料工学		5後		2				2	学修単位
	エネルギー電気化学		4後		2				2	学修単位
	電気電子材料		5前		2				2	
	物性工学		5後		2				2	学修単位
	分析化学		4後	2					2	学修単位
	環境化学		5前		2				2	学修単位
	高分子化学		5後	2					2	学修単位
	コンピュータアーキテクチャ		4後	2					2	学修単位

フ ォ ー カ ス	プログラミングA	5前	2					2		
	プログラミングB	5後		2				2		
	課題学修								単位数は別に定める	
	必修科目修得単位数計			40	0	0	0	0	20	20
	選択科目開設単位数計			0	42	0	0	28	2	12

学 年		単位数	学年別配当					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
修得最低単位数								
合 計	一般科目修得最低単位数	83	30	30	13	8	2	
	専門科目修得最低単位数	84	8	8	19	24	25	
	修得最低単位数	167	38	38	32	32	27	
特別活動		○	90 単位時間以上実施					

別表第2 学校納入金

授業料

(単位:円)

	1年	2年	3年	4年	5年
前学期	1,500,000	1,500,000	125,000	800,000	800,000
後学期	1,500,000	1,500,000	125,000	800,000	800,000

# 学習指導に関する実施規程

## (趣旨)

**第1条** この規程は、国際高等専門学校学則（以下「学則」という。）第12条第2項の規定に基づき、国際高等専門学校（以下「本校」という。）における学業成績の評価、進級及び卒業の認定に必要な事項について定めるほか、授業科目の履修、授業科目の出欠等について定める。

## (科目の履修)

**第2条** 学生は学則第9条別表第1教育課程表に基づき、授業科目を履修する。

2 各授業科目とも、当該年度に開講した授業時間数の5分の4以上出席した者は、当該科目の履修を修了したものとする。

## (履修の制限)

**第3条** 1年間に履修することができる授業科目の単位数の上限は、次の各号に掲げる授業科目を除き44単位とする。

- (1) 課題学修
- (2) 校長が認めた科目

## (履修制限の特例)

**第4条** 前条の規定にかかわらず、次の各号に掲げる者は、履修科目の単位数の上限を超えて授業科目を履修することができる。

- (1) 平成30年度以降入学生にあつては、別表第1の学業成績の評価に定めるGPAの累積が3.00以上の者
- (2) 相当な理由により、校長が特に認めた者

## (再履修)

**第5条** 原学年に留められた場合の再履修等の取扱いについては、学則第13条の規定による。

## (欠席等)

**第6条** 欠席等は次の各号に掲げる場合をいう。

- (1) 欠席とは、出席すべき日に登校しない場合
- (2) 欠課とは、各授業時間に不在であった場合
- (3) 遅刻とは、各授業時間の開始に遅れた場合
- (4) 早退とは、各授業時間の途中で退出し、戻らない場合

## (公認欠席等の取扱い)

**第7条** 前条に定める欠席等が、次の各号に掲げるいずれかの理由によるものであるときは、出席として取り扱う。

- (1) 天災又は交通機関の事故等、本人の責任によらないことが明らかなきとき。
  - (2) 校長が認めた資格試験又は就職試験を受験するとき。
  - (3) 校長が認めた対外試合、対外行事に参加するとき。
  - (4) 忌引のとき。
  - (5) 親族の慶弔事に出席するとき。
  - (6) 学校保健安全法に定める伝染病又はそれに類する病気の発症等により、校長が出席停止の必要を認めたとき。
  - (7) その他校長が認めたとき。
- 2 前項第4号に定める忌引により出席として取り扱うことができる日数は、次のとおりとする。
- (1) 父母 7日
  - (2) 祖父母、兄弟、姉妹 3日
  - (3) 曾祖父母、伯父、伯母、叔父、叔母、従兄弟、従姉妹 1日
  - (4) その他校長が特に認めたもの 1日

3 第1項第5号に定める親族の慶弔事により出席として取り扱うことができる日数は、次のとおりとする。

- (1) 兄弟、姉妹の結婚式 1日
- (2) 父母、兄弟、姉妹の慶弔事で校長が特に認めたもの 1日

4 第1項第1号から第3号、第6号及び、第7号により出席として取り扱うことができる授業科目の時間数又は日数は、その都度校長が定める。

## (試験の種別と実施)

**第8条** 試験の種別は、定期試験、追試験、再試験、単位追認試験及びその他の試験とし、その実施は次の各号に定めるところによる。

- (1) 定期試験は、各学期末に行う。
- (2) 追試験は、やむを得ない理由により定期試験を受けることができなかつた者について行うことができる。
- (3) 再試験は、定期試験を実施した授業科目の評点が不合格であつた者について行うことができる。
- (4) 単位追認試験は、進級が認められた者のうち、当該学年までに取得すべき授業科目の単位を取得できなかつた者について行うことができる。
- (5) その他の試験は、科目担当が必要と認めた場合に適宜行うものとする。

## (試験の欠席)

**第9条** 正当な理由なく試験を欠席した者、又は懲戒処分のため試験を欠席した者については、当該授業科目の試験の成績を0点とする。

### (不正行為の取扱い)

**第10条** 試験において不正行為を行った者については、当該試験期間に行われるすべての授業科目の試験の成績を0点とする。

2 不正行為により試験の成績を0点とした者には、追試験、再試験等の試験は実施しない。

### (成績の判定方法)

**第11条** 各授業科目の成績は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況等を勘案して、学習支援計画書の評価方法に則り、総合的に判定する。

2 試験以外の方法によって成績を評価し得る授業科目については、前項の規定にかかわらず、試験を行わない場合がある。

### (成績評価)

**第12条** 各授業科目の成績は、前条の判定結果に基づき点数化し、100点を満点とする評点により評価する。

2 授業科目の成績は、当該年度に開講した授業時間数の5分の4以上出席している者について評価するものとする。出席が5分の4に満たない者は出席不良とし、評点を0点とする。

3 追試験により再評価する授業科目の評点は、元の定期試験の評価に準ずるものとする。

4 再試験による再評価で合格とする授業科目の評点は、前条の規定にかかわらず、平成27年度以降入学生にあつては60点、平成26年度以前入学生にあつては50点とする。

5 単位自認試験等により、前年度以前に履修し未修得であつた単位を取得した場合の当該授業科目の評点は、前条の規定にかかわらず、平成27年度以降入学生にあつては60点、平成26年度以前入学生にあつては50点とする。

### (成績の評定)

**第13条** 各授業科目の成績の評定は、別表第1の学業成績の評価によるものとする。

### (単位修得の認定)

**第14条** 第12条の規定による成績の評点が、平成27年度以降入学生にあつては60点以上、平成26年度以前入学生にあつては50点以上の場合、当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

2 前項の基準に満たなかった授業科目においては未修得科目とし、当該授業科目の単位を翌年度以降に修得した場合には、原学年において履修したものと取り扱う。

3 出席不良のため未修得となった授業科目の単位の修得には、不足授業数の補講を受講しなければならない。

### (成績への異議申し立て)

**第15条** 定期試験終了後、学生は科目担当教員に成績を問い合わせ、通知された成績の内容に疑義がある場合、科目担当教員に異議を申し立てることができる。

2 前項の異議申し立ての期間は、年度ごとに学務会議の議を経て、決定する。

### (進級又は卒業の要件)

**第16条** 校長は、次の各号のすべてを満たす者について、進級又は卒業を認め、当該学年の修了を認定することができる。

- (1) 進級又は卒業の要件となるすべての授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 平成29年度以前入学生にあつては、当該学年の特別活動の単位が認定されていること。
- (3) 平成30年度以降入学生にあつては、卒業までに特別活動に90時間以上参加していること。
- (4) 当該学年における欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

### (進級の特例)

**第17条** 校長は、前条第1号に規定する要件のみを満たすことができなかつた者のうち、第1学年から第3学年までは、次に掲げる第1号及び第2号、第4号学年にあつては、次の各号すべての要件を満たす者に限り、進級を認め、当該学年の修了を認定することができる。

- (1) 別表第2の当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 修得単位数が、別表第3の進級に必須となる累積単位数を満たしていること。
- (3) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位がすべて認定されていること。

### (在学制限)

**第18条** 同一学年に2年を超えて在学することはできない。ただし、休学による場合は、この限りでない。

### (進級又は卒業の認定)

**第19条** 進級又は卒業の認定は、学務会議の議を経て、校長が行う。

## 附 則

- 1 本実施規程に必要な内規は、別に定める。
- 2 本規程は、昭和37年4月1日から実施する。
- 3 本規程は、昭和47年4月1日から実施する。
- 4 本実施規程は、昭和56年4月1日から実施する。

- 5 本実施規程は、平成元年4月1日から実施する。
- 6 本実施規程は、平成4年4月1日から実施する。
- 7 この規程は、平成19年4月1日改正施行する。
- 8 この規程は、平成27年4月1日から改正施行する。
- 9 この規程は、平成30年4月1日から改正施行する。
- 10 この規程は、平成31年4月1日から改正施行する。

**別表第1 学業成績の評価**

(平成27年度以降入学生適用、第13条関係)

評 点	評 定	評 価 ポイント
100～90	S (秀)	4
89～80	A (優)	3
79～70	B (良)	2
69～60	C (可)	1
59～0	D (成績不可)	0
0	F (出席不良)	0

$$GPA = \frac{\text{(評価ポイント} \times \text{単位数) の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものである。GPAによる成績評価は、今後の修学指導における基礎資料とするばかりでなく、就職指導や大学への進学指導(大学への編入学推薦出願資格)における基礎資料とする。なお、GPAは、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとする。

**別表第2 当該学年修了に必須となる授業科目**

(平成30年度以降入学生適用、第17条関係)

学 科		国際理工学科
科 目	1年	エンジニアリングデザインⅠA及びⅠB
	2年	エンジニアリングデザインⅡA及びⅡB

**別表第3 進級又は卒業に必須となる累積単位数**

(平成30年度以降入学生適用、第17条関係)

学年 \ 学科	国際理工学科
1年	26 (38)
2年	72 (76)
3年	100 (108)
4年	133 (140)
5年	167 (167)

注1) ( ) は修得最低単位数合計

# 学生心得

## 第1章 総則

第1条 この心得は、国際高等専門学校学則に基づき、学生の守るべき事項について定めるものである。

## 第2章 言語及び態度

第2条 学生は、徳性を涵養し、知性を錬磨し、良識ある行動をとり、有能な技術者となるべく努めなければならない。

第3条 学生は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の学生としての品位と誇りをもって行動しなければならない。

第4条 学生は、教職員、上級生には敬意を払い、学友間においても礼儀をわきまえ、互いに人格を尊重し、助け合い、親しみ合わなければならない。

第5条 学生は、言語と動作はその人間を表すことをわきまえ、言葉使いを慎み、常に謙虚に振る舞わなければならない。

## 第3章 服装及び所持品

第6条 学生は、本校学生としての品位を損なわぬ服装に心がけ、常に清潔、簡素及び端正なものを着用しなければならない。

第7条 学生は、定められた以外の服装をするときには、「異装願い」を提出し、校長の許可を得なければならない。

第8条 学生は、学生証を常に所持しなければならない。

## 第4章 諸届願

第9条 学生は、欠席、欠課、遅刻又は早退をするとき、その届け出をしなければならない。

第10条 白山麓キャンパスの学生は、外泊、外出延長をするときは、担任、クラブ顧問教員、学生主事、校長の許可を得なければならない。

第11条 白山麓キャンパスの学生は、キャンパス外へ出るときは、所定の手続きを行わなければならない。ただし、教員が引率する授業や学校行事、白山麓キャンパス付近へ場合はその手続きを省略することができる。

第12条 学生は、対外運動競技、文化関係行事、その他の会合へ参加するときは、クラブ顧問教員の承認を経て、校長の許可を得なければならない。

第13条 学生は、学校が指定する地域連携活動に参加するときは、学級担任及び研究プロジェクト主事の承認を経て、校長の許可を得なければならない。

第14条 学生は、改姓、改名、その他学生の戸籍上の身分が異動したときは、住民票記載事項証明書を添えて、事務局に届けなければならない。

第15条 学生は、学生の住所及び地名が変更になったときは、直ちに事務局に届けなければならない。

第16条 学生は、学生の保護者に変更があったときは、速やかに事務局に届け出なければならない。

## 第5章 生活態度

第17条 学生は、日常の生活においては別に定める国際高等専門学校生活規定を守らなければならない。

第18条 学生は、校外においては本校学生としての品位を保つよう行動しなければならない。

第19条 学生は、校地、校舎、教室、実験室等の美化清掃に積極的に協力し、学校を明るい環境にするよう努めなければならない。

第20条 学生は、設備備品等の取扱いや整理整頓に十分配慮をなし、その異状を発見したときは、速やかに教職員に申し出なければならない。

## 附 則

- 1 この心得は昭和37年4月1日より施行する。
- 2 この心得は平成2年4月1日より施行する。
- 3 この心得は平成3年4月1日より施行する。
- 4 この心得は平成4年4月1日より施行する。
- 5 この心得は平成16年4月1日より施行する。
- 6 この学生心得は平成19年4月1日から改正施行する。
- 7 この学生心得は平成30年4月1日から改正施行する。

# 生活規程

## 第1章 総則

**第1条** この生活規定は、国際高等専門学校学生心得に基づき、学校生活において学生が守るべき事項について定めるものである。

**第2条** 学生は、規則正しい生活をし、日ごろから健康管理に努め、欠席、欠課、遅刻、早退をしない。

2 白山麓キャンパスに於いては、点呼当番が点呼を取りレジデント・アドバイザーに連絡する。

## 第2章 交通

**第3条** 1、2年生は、原動機付自転車(50cc以下のモーターバイク)の運転免許を取得してはならない。

**第4条** 原動機付自転車で通学する者は、校長の許可を受けなければならない。

**第5条** 原動機付自転車による通学者は、次のことを守らなければならない。

- (1) 交通規定を守り、事故に遭わない運転を心がけること。
- (2) ヘルメット(キャップ型は除く。)を常に着用すること。
- (3) 運転に支障がある場合を除き、サングラスを着用すること。

**第6条** 休憩時間中に原動機付自転車に乗ってはならない。

**第7条** 50ccを超える自動2輪車の運転免許は、取得してはならない。

**第8条** 自動車による通学はしてはならない。

## 第3章 その他

**第9条** 喫煙・飲酒をしてはならない。

**第10条** 本校では課外活動を奨励している。1、2年生は全員がクラブに加入し、活動に励まなければならない。

**第11条** 夏季、冬季、学年末休業以外は、アルバイトをしてはいけない。夏季、冬季、学年末休業のアルバイトは、保護者の同意と、学校の許可を受けなければならない。

2 学生に対し、学校が指定する地域連携活動に参加したことで支払われる報酬については、校長及び保護者の許可を得た上で学生本人が受け取ることができる。

**第12条** その他、学校生活において学生が守るべき事項の細部については教職員の指導に従わなくてはならない。

## 生活規定補則

この補則は、生活規定に準ずるものであり、これを尊重し国際高等専門学校の誇りうる学生となるために定めるものである。

- (1) 原動機付自転車や普通自動車の運転免許を取得するために、学生の本分である勉学に影響があってはならない。
- (2) 自転車で通学する者は、届出をしなければならない。
- (3) 始業のチャイムが鳴ったときには、直ちに自分の席に着席する。
- (4) 校内の美化や清掃に協力し、ゴミは所定のゴミ箱に捨てる。
- (5) 休憩時間中に校外へ出てはいけない。
- (6) 歩きながら飲食をしてはいけない。
- (7) 物を大切に扱い、貴重品は十分に管理して盗難、紛失を避ける。
- (8) 放課後、教室及びロッカー内には教科書などを置かない。
- (9) 学生として相応しくない場所に入出入りしてはならない。

## 附 則

1 この生活規定は昭和41年4月1日より施行する。

2 この生活規定は昭和61年4月1日より施行する。

(中略)

9 この生活規定は平成30年4月1日から改正施行する。

10 この生活規定は平成31年4月1日から改正施行する。

# 学生寮規程

## 第1章 総則

### (趣旨)

第1条 この規程は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の白山麓キャンパス学生寮（以下「学生寮」という。）の管理運営等について必要な事項を定め、もって学生寮の円滑かつ適正な運用を図るとともに、次条の目的を達成するために定める。

### (学生寮の目的)

第2条 学生寮は、国際高等専門学校学則第48条に基づき設置する本校の教育施設であって、学生に対して学校生活への適応を促進するとともに、共同生活を営むことにより友情、互助、寛容等の精神を養い、人間的成長を助長することを目的とする。

## 第2章 学生寮の管理運営

### (管理運営責任者)

第3条 学生寮の管理運営責任者は、国際高等専門学校校長（以下「校長」という。）とする。ただし、施設部の所掌に係る事項は除く。

2 校長は、管理運営責任者の職務を学生主事に行わせることができる。

### (管理運営実施者)

第4条 学生寮の日常的な管理運営の実施に当たるため、管理運営責任者の統括のもとに管理運営実施者を置く。

2 管理運営実施者は、白山麓高専事務室長をもって充てる。

### (学生寮委員会)

第5条 学生寮の管理運営を含む全般的事項を審議するため、本校に国際高等専門学校学生寮委員会（以下「学生寮委員会」という。）を置く。

2 学生寮委員会は、次に掲げる者を委員として構成する。

校長、副校長、学生主事、高専事務局長、白山麓高専事務室長、施設部部長、安全衛生委員会委員長

3 学生寮委員会の委員長は、校長とする。

4 学生寮委員会は、委員長が必要に応じ随時に招集する。

5 委員長は、必要があると認めるときは、委員以外の者を学生寮委員会に招請し、意見を聴くことができる。

### (教職員の配置)

第6条 学生寮の管理運営、学生の教育及び生活指導等を行うため、学生寮に次の各号に掲げる業務を担当する教職員のほか、必要に応じその他の教職員を配置する。

(1) ラーニング・メンター（LM）は、学生寮における学生の夜間学習指導を担当する。

(2) レジデント・アドバイザー（RA）は、学生寮における学生の生活指導を担当する。

## 第3章 学生寮生活

### (入寮)

第7条 本校の1年次学生及び2年次学生（以下「寮生」という。）は、学生寮に入寮しなければならない。

2 入寮に当たっては、定められた期限までに、指定された書類を校長に提出しなければならない。

3 校長は、入寮を許可した者が前項の手続きを完了しないとき、又は虚偽の記載が判明したときは、入寮許可を取り消すことができる。

### (順守義務)

第8条 入寮した1年次学生及び2年次学生は、本校が定める諸規則、学生寮利用の手引き、寮生心得等を順守するほか、教職員の指示に基づき行動しなければならない。

### (退寮)

第9条 校長は、寮生が次に掲げる各号のいずれかに該当したときは、当該寮生に対し一次的な又は完全な退寮を命ずることができる。

(1) 国際高等専門学校学則、その他本校が定める諸規則に違反したとき。

(2) 疾病その他の事由により保健衛生上、共同生活に適しないと認めるとき。

(3) 休学を許可されたとき、又は退学（除籍を含む。）若しくは停学を命ぜられたとき。

(4) 共同生活の秩序又は風紀を乱す行為があったとき。

(5) その他学生寮の管理運営上、著しく支障をきたす行為があったとき。

2 退寮に当たっては、居室を原状復帰し、レジデント・アドバイザーの検認を受けなければならない。

### (学生寮における教育)

第10条 寮生は、在学期間中、学生寮においても教育を受けるものとする。

#### (授業期間外の諸経費)

第11条 授業期間外においても学生寮に在寮するときは、食費その他生活に必要な経費は、寮生の負担とする。

2 寮生は、授業期間外の諸経費について、本校が定める額を本校が指定する方法で所定の期日までに納めなければならない。

#### (ユニット・リーダー)

第12条 学生寮には、寮生から選考したユニット・リーダー（UL）を置く。

2 ユニット・リーダーはレジデント・アドバイザーを補佐する。

3 ユニット・リーダーの選考、任期等については別に定める。

#### (集会等)

第13条 寮生が学生寮内又は学生寮外において集会・催し物等（以下「集会等」という。）を行おうとするときは、レジデント・アドバイザーの許可を受けなければならない。

2 集会等責任者は、集会等終了後速やかにレジデント・アドバイザーに経過を報告しなければならない。

3 集会等の内容が本校の教育方針に反する場合、又は一般的な社会通念に反すると思われる等の場合は、レジデント・アドバイザーは集会等を中止させることができる。

#### (掲示物)

第14条 寮生が学生寮内に掲示物を掲示しようとするときは、レジデント・アドバイザーの許可を受けなければならない。

2 掲示の場所、期間、様式等については、レジデント・アドバイザーの指示に従わなければならない。

3 掲示責任者は、掲示期間満了後速やかに掲示物を撤去しなければならない。

4 寮生以外の者が学生寮内に掲示物の掲示を希望するときは、レジデント・アドバイザーの許可を受け、その指示に従わなければならない。

#### (施設等の保全)

第15条 寮生は、居室、ユニット、共同施設その他学生寮の施設、設備及び備品を常に正常な状態に保全するよう努めなければならない。

2 寮生は、故意又は過失により施設、設備及び備品を滅失、破損又は汚染したときは、その原状回復を図り、又は原状回復に要する経費を弁済しなければならない。

#### (所持品)

第16条 寮生は、定められたもの以外のものを学生寮に持ち込んではいならない。

2 寮生は、所持品の自己管理を徹底しなければならない。

#### (盗難・事故)

第17条 寮生は、盗難その他事故の発生防止に努めなければならない。

2 寮生は、盗難その他事故の発生を知ったときは、速やかにレジデント・アドバイザーに通報しなければならない。

#### (災害防止)

第18条 寮生は、火災その他の災害防止について、常に細心の注意を払わなければならない。

2 寮生は、本校が行う防火訓練、その他の災害防止対策に積極的に参加しなければならない。

#### (健康の維持・増進)

第19条 寮生は、自身の健康の維持・増進を図るよう努めなければならない。

2 校長は、必要があると認めるときは、寮生に対する健康診断又は予防接種を実施するものとする。

#### (環境整備)

第20条 寮生は、学生寮内外の清掃を実施し、清潔整頓を旨として、快適な環境の保持に努めなければならない。

#### (生活区域)

第21条 寮生は、相互に異性の学生寮生活区域に立ち入ってはならない。

2 寮生が、前項に掲げる区域に立ち入る必要が生じたときは、レジデント・アドバイザーに申し出て、その指示に従わなければならない。

#### (居室立入)

第22条 教職員は、学生指導又は管理運営上の必要があるとき、又は緊急やむを得ないとき等の場合は、寮生の居室に入室することができる。

#### (閉寮)

第23条 校長は、夏期休業、冬期休業等の長期休業期間に学生寮を閉寮する期間を設けることができる。

2 寮生は、校長が許可したときを除いて、閉寮期間中は学生寮に立ち入ることができない。

## 第4章 雑則

#### (寮外者の立入)

第24条 寮生との面会、施設の見学等のため学生寮内への立ち入りを希望する者は、レジデント・アドバイザーの許可を受け、その指示に従わなければならない。

**(寮外者による施設等の利用)**

**第25条** 寮生以外の者が、学生寮の施設、設備及び備品の利用を希望するときは、校長の許可を受け、レジデント・アドバイザーの指示に従わなければならない。

**(事務担当)**

**第26条** 学生寮に関する事務は、白山麓高専事務室が担当する。

**(その他の事項)**

**第27条** この規程に定めるもののほか、学生寮に関し必要な事項は、別に定める。

**附 則**

1 この規程は、平成30年4月1日から施行する。

# 学生寮・施設利用の手引き

## I 学生寮運営の基本方針

本校では、以下の基本方針のもと人間形成の場（教育寮）として学生寮を運営します。

### 1. 学生寮とは

本校の学生寮は教育寮であり、「学園共同体が共有する KIT IDEALS を行動規範とし、様々な価値観を持つ人々を尊重し互いの成長と学びを支え合う教育施設」です。

学生寮は、「Antares」「Regulus」「Aldebaran」「Fomalhaut」の4棟で構成されており、男女は棟により分けられています。棟の名称となっている4つの星は、幸運を呼ぶ星「ロイヤルスター」と呼ばれており、方角・位置を表しています。学生生活を送る学生達には白山麓の夜空を楽しみ、自身も輝いて欲しいという願いが込められています。

### 2. 学生寮の運営体制

寮生の安全を確保するとともに規律ある学生生活を維持するために、学生寮には RA (Resident Adviser) が常駐します。週末や祝日等 RA 不在時には、警備員や教職員が代行する場合があります。各寮の玄関には、防犯カメラの他、カード認証による防犯装置を設置し、寮生の安全に配慮しています。警備員はキャンパス内を24時間見回り、警備します。指導または管理上必要な場合、RA や教職員、警備員が居室に立入る場合があります。また、学生寮での生活を安全・安心・快適に過ごすため、寮生自らが寮の運営に携わります。

#### 【RAの役割について】

RAは学生主事と綿密な連携のもと、寮生の生活指導、支援、アドバイスを行います。日常生活を安全に送るうえで寮生からの様々な活動報告を受ける窓口となりますので、分からないことや困ったことがあれば、相談してください。

### 3. 寮での生活指導等

規律ある生活習慣を身につけ、自主・自立及び自律の精神を培うことを指導方針とします。また、多様な価値観、文化の中で、互いの役割と自分の役割を認識し、主体的に行動できるようガイダンスや生活指導を必要に応じて行います。また、主体的な生活態度を育成するため、寮行事の創造・活性化を通して全ての寮生の自律・責任意識の向上を図ります。

### 4. 寮則違反等の対応

本校の規則、学生寮規程、この手引き等に従えない寮生で、指導等によって改善が見込まれない場合は退学等の処分を行います。

## II 学生寮での生活

寮室内のリビングを共有する個室で形成される空間をユニットと呼びます。ユニットメンバーの中から1名のユニットリーダーを決め、ユニットリーダーはユニットメンバーの安全・安心・快適な生活の確保に努めます。

### 1. 学生生活の日課

#### (1) Roll Call

寮生の所在と安全確認のために、1日3回、Roll Callを行います。

① 朝：7:30 日曜・祝日：9:00

Roll Call 当番はユニットメンバーの体調確認を行うため、Roll Call を行いRAに報告します。状況に応じて、検温を実施する場合があります。

② 夕：18:30～19:00（敷地外からの帰着と食事の確認）

Learning Mentor (LM) がユニットメンバー全員の所在確認のため、レストラン「Golden Eagle Cafeteria」で、Roll Call を行います。なお、LM以外の担当教職員が行う場合があります。

③ 夜：月～金 21:30 土曜・日曜・祝日 23:00

月曜～金曜はLMがLiving CommonsでRoll Callを行います。土曜・日曜・祝日はRoll Call 当番がユニットメンバーの所在確認のため、Roll Call を行いRAに報告します。（以降、就寝）

#### (2) 食事

レストラン「Golden Eagle Cafeteria」にて、定められた時間内に食事をしてください。時間を過ぎると食事を提供できない場合があります。

朝食（平日：7:30～8:30、日曜・祝日：8:00～9:00）

昼食（平日：11:50～12:40、日曜・祝日：12:00～13:00）

夕食（18:30～19:30）

夕食時に、夜食用の軽食が準備されます。必要な方は食事後各自持ち帰ることができます。

#### (3) KIOSK 利用時間（8:00～20:00）

「Golden Eagle Cafeteria」横の「KIOSK」では、簡易な生活日用品や文房具などを購入することができます。

#### (4) ラーニングセッション（19:30～21:30）

ラーニングセッションの時間は、全員が必修とするアクティブラーニングの時間です。「Living Commons」及び「Library & Work Commons」に集まり、

LMが当日の振り返り、翌日以降の学習準備のほか、寮生同士のチーム学習などを必要に応じてサポートします。確実な学習の定着、能力獲得に向け、有効に利用してください。

#### (5) シャワー・入浴

各ユニット内にシャワールームが設置されています。ユニットメンバーの迷惑にならないよう、消灯までに済ませてください。

入浴を希望する場合は、キャンパス内にある天然温泉「はくさん比咩の湯温泉」を無料で利用することができます。受付で学生証を提示し、施設の利用規定を守り利用してください。

#### 【はくさん比咩の湯温泉】

営業時間：(月～土) 14:00～21:00 木曜日休日

(日祝祭日)12:00～21:00 \*受付終了 (20:30)

#### (6) 消灯と就寝

居室以外は23:00 消灯です。消灯後も勉強を続けたい場合は、各自の居室で行ってください。睡眠は健康上とても重要であることから、翌日に影響が出ないように心掛けるとともに、ユニットメンバーの就寝を妨げないようにしてください。

#### (7) 外出・外出延長・外泊

外出延長・外泊をする場合は、事前に担任、クラブ顧問教員、学生主事、校長の許可を受けてください。外出をする場合は、所定の用紙に必要事項を記入し外出してください。帰寮時間は18:45を厳守してください。急なトラブルで帰寮できない場合には、必ず警備室へ連絡をし、事情を説明してください。

外出、外出延長、外泊する前に以下の確認を行ってください。

- ① 外出可能な時間帯は、6:00 から 18:45 までであること。
- ② 授業、学校行事、担当する係や当番などへの影響がないこと。
- ③ 行先、帰寮時間、連絡方法が明らかになっていること。
- ④ 朝のRoll Call 前に外出する場合は所定の用紙に記入の上、警備室へ申し出ること。

#### (8) 清掃

居室はもちろん、ユニット内の共有スペースや、洗面・脱衣、トイレ、その他共有キッチンなど、寮生が利用するスペースは寮生自身で清掃しなければなりません。

#### (9) 当番

学生寮では寮生が種々の役割を分担します。寮生活の円滑な進行をするために係りを設け、当番制で役割を担います。

#### (10) 寮関連の諸行事

寮生が主体となり、催し物を計画・実行することができます。実施するには、内容・詳細をもとにRAの許可を得てください。

## 2. 寮への持込品

(1) 個人の持込品は、各自の物であることが分かるようにしておいてください。

(2) 集団生活の場であることを考えて、大型のものや他人の迷惑になるもの、設置や取り付けに工事が必要となるもの、高価なもの、生活家電製品のほか、発熱・火災の心配のあるものなどは持ち込まないでください。また、自動二輪、原動機付自転車も持ち込みできません。持ち込み不可と判断されたものは、各自で自宅などへ送るか、処分するなど、費用が発生する場合がありますので、持込可否の不明な物品については、必ず事前に白山麓高専事務室へ確認してください。

#### 【持込禁止品 (例)】

- ① 原動機付自転車及び自動二輪車。
- ② 家電製品 (テレビ、冷蔵庫、洗濯機、大型のオーディオ製品)。
- ③ 熱を発する家電製品 (炊飯器、オーブントースター、電気ポット、コーヒーメーカー、コタツ、ストーブ、足温器、電気毛布、布団乾燥機、アイロン等)。
- ④ ナイフ等の人に危害を加える恐れのあるもの。
- ⑤ ガソリン、シンナー等の引火性のある薬品類、お香や花火など。
- ⑥ その他上記以外に、周囲の人、施設・設備等に災害・危険が生じると判断されるもの。

#### (3) 現金

現金等は、紛失事故等を未然に防ぐために、現金は必要ときに必要最小限の金額を最寄りの郵便局等のATMで引出し、自己管理を徹底してください。

尾口郵便局 石川県白山市瀬戸申27-1

窓口営業：平日9:00～17:00

ATM：平日9:00～17:30、土曜9:00～14:00、日曜休日9:00～15:00

※銀行ATMは、近隣にはありません。

#### (4) 貴重品の管理

財布や保険証などの貴重品は、施錠できる引き出しに入れ、必ず施錠して保管してください。また、居室を離れる場合は必ず施錠を行うなど、各自で管

理してください。

### 3. 宅配便について

学生寮に届いた荷物は、掲示または個別に連絡しますので、本人が事務室に申し出て受け取ってください。なお、代引き、着払い等、受け取りの際に料金の支払いが発生するものは原則として取り扱いできません。

### 4. 病気・怪我等の緊急時について

病気、ケガなどの場合は、RA・警備室に連絡してください。医療機関にかかる場合には保険証が必要になります。

#### 【最寄りの医療機関】

白山医療企業団 公立つるぎ病院 吉野谷診療所

石川県白山市佐良ニ124番地 TEL: 076-255-5019

医療法人ホスピターGROUP 河内うらた医院

石川県白山市河内町きりの里62 TEL: 076-273-3777

白山医療企業団 公立つるぎ病院

石川県白山市鶴来水戸町ノ1番地 TEL: 076-272-1250

## III 寮の施設・設備とその利用法

### 1. 居室の使用について

居室内のワードローブやベッドの配置を変えないでください。備え付けの物品は大切に使用し、万一破損や、汚損、紛失したときは直ちにRAに報告してください。

前学期と後学期の部屋替えや退寮時には居室を元の状態に戻してください。

入居時に、各居室の破損・汚損状況を確認し、破損・汚損箇所があれば、速やかにRAに申し出てください。

居室には本人以外を宿泊させることはできません。また、寮生であっても、23:00以降に他の居室やユニットへの出入りはできません。

各居室の鍵は、本人のみが所有し、各自で管理するとともに、紛失した場合は速やかにRAに申し出てください。また、鍵の複製も禁止です。

### 2. インターネットの利用について

寮内ではインターネットの利用ができます。利用に際しては、情報倫理に関する学習「INFOSS」を受講し合格する必要があります。関連する法律、ルール、マナーを守り利用してください。

他の利用者へ迷惑となる利用や、ルールを守れない場合は、インターネットの利用制限や利用禁止の対象となります。なお、ネットワークセキュリティ確保のため、インターネット接続には制限があります。

### 3. 寮生活での共同設備等の利用について

#### (1) RA室

RAの居室です。救急・急病時はすぐに連絡してください。各ユニットと内線電話によって繋がっています。

#### (2) 共用ホール、共用キッチン

寮生は、各棟各階のコミュニケーションスペースに設置された、テレビ、テーブル、椅子、調理コーナーを利用することができます。

#### (3) ランドリールーム

各棟には洗濯機と乾燥機が設置されています。洗濯物の放置は他の利用者の迷惑になるので、洗濯が済んだ後は速やかに引き上げてください。

#### (4) 靴箱

靴箱は各ユニット玄関にあります。ユニット内は土足禁止となっているので、室内用のスリッパに必ず履き替えてください。

#### (5) ごみ庫

「Regulus」棟1階に設置されています。ごみは、各自で指定の分別方法に従って出してください。粗大ごみを処分する場合はRAに申し出てください。

#### (6) リネン庫

「Regulus」棟1階に設置されています。シーツ類は毎週月曜日に回収します。毎週末に各自で交換してください。

#### (7) 自転車置場

「Regulus」棟1階に自転車置き場があり、貸出用自転車があります。利用後は必ず施錠し返却してください。

#### (8) 保健室

保健室は、イノベーションハブの1階にあります。看護師の在室時間は平日7:00~18:30、土曜8:30~13:00です。

#### (9) カウンセリングセンター高専分室

イノベーションハブ1階の保健室隣にカウンセリングルームがあります。水曜日14:00~17:00の間、カウンセラーが在室しています。

#### (10) ボルダリングウォール

ボルダリングウォールは、イノベーションハブ1階にあります。利用案内をよく読んで安全に利用してください。利用時間は8:30~18:00です。

#### (11) 各施設の利用時間について

校舎棟及び体育館の利用時間は7:00～23:00です。それ以外の時間は各ドアにロックがかかり校舎棟及び体育館への進入はできません。また、利用時間内であっても、学生証を持参していなければ建屋に入ることはできません。カードを持参していない場合は、イノベーションハブ1階警備室へ申し出て下さい。なお、寮棟1階の出入口は、学生証利用により24時間利用可能です。

#### 4. 閉寮期間について

夏期休業期間、冬期休業期間などの長期休業期間に閉寮期間が設定されます。閉寮期間は学生寮への立ち入りできません。

### IV 費用について

授業料に含まれる費用とそれ以外に必要な費用は主に以下のようになっています（年度により変更される場合があります）。

#### 1. 授業料に含まれる費用等について

- ・授業期間中の居住費
- ・授業期間中の食費
- ・電気、水道などの光熱費

#### 2. 授業料に含まれない費用等について

##### (1) 休業期間中の食費

休業期間中の食事は有料です。所定の期日までに、事前に申請をしてください。詳細については、別途ご連絡いたします。

##### (2) 保護者が来訪した際の食事について

保護者が来訪した際に、食事が必要となる場合は、有料にて準備することが可能です。1週間以上前にお問合せください。

##### (3) 欠食（食事をとらなかった場合）について

授業期間中の欠食は、返金しません。ただし、休業期間中の申請済み食事については、所定の日までに欠食を届け出た場合に限り、返金対応をします。

# 学生会会則

## 第1章 総則

第1条 本会は国際高等専門学校学生会と称する。

第2条 本会は学校の指導のもとに学生が自発的な活動を行い、それを通して自治的精神の向上を図り、人格を陶冶し、高等専門教育の目的達成に資することを目的とする。

第3条 本会は、国際高等専門学校（以下「本校」という。）の全学生（以下「会員」という。）をもって構成する。

## 第2章 役員

第4条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長 1名
- (2) 副会長 2名
- (3) 書記 2名
- (4) 会計 2名
- (5) 監査委員 3名

第5条 役員は会員中より選挙によって選出される。

第6条 役員の任期は、1年とし毎年11月1日から翌年の10月31日までとする。ただし、補充された役員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 役員は、任期が満了しても次期役員が就任するまではその任務を続けなければならない。

第7条 役員（監査委員を除く。）は、学生会議会（以下「議会」という。）の議員の3分の2以上の要求があれば辞職しなければならない。

第8条 役員は病気又はその他の理由により職務を執行できないときは辞職しなければならない。

第9条 役員に欠員が生じた場合には2週間以内に、補欠選挙を行わなければならない。

第10条 会長は、本会を代表し会務を総理する。ただし、校外の他の団体と関連ある場合には、本校の学生主事の指導承認を受けなければならない。

第11条 副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその任務を代行する。

第12条 書記は議会の書記を兼任し、記録書類の整備保管に当たり、その庶務的事務を取り扱う。

第13条 会計は本会の会計に関する事務を取り扱い、本校の学生主事との連絡のもとに本会の財務管理に当たり、出納については本校の事務局長に委任する。

## 第3章 学生会議会

第14条 議会は、本会の最高議決機関であり、役員、次条に定める議員及び第29条に定める専門委員会の委員長をもってこれを組織する。ただし、議決権は議員のみに与えられる。

第15条 各学級より選出された学級委員2名が兼任する。

2 議員の任期は半年とし、前期は4月1日から同年10月15日まで、後期は10月16日から翌年3月31日までとする。

第16条 議員は議会で行った演説、討論又は表決について議会外で責任を問われない。

第17条 部の部長及び主務は、必要に応じて議会に出席することができる。ただし、発言権のみを有するものとする。

第18条 定例議会は、毎年5月及び11月に開催し、議長が招集する。

第19条 臨時議会は、次の場合に開かなければならない。

- (1) 執行委員会が必要と認めたとき。
- (2) 総議員の3分の2以上の要求があったとき。

2 臨時議会は議長が招集する。

第20条 議会は、総議員の3分の2以上の出席により成立する。

2 議会在欠席する場合は、委任状を提出しなければならない。

第21条 議会の議事は出席議員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

第22条 議会の招集期日、場所、議題は、議会開会の3日以前に公示しなくてはならない。ただし、臨時議会の場合はこの限りでない。

第23条 議長は議員の互選によって選出され副議長は議長が指名する。

第24条 議長、副議長の任期については、第15条第2項の規定を準用する。

## 第4章 執行委員会

第25条 本会の最高の執行機関は、執行委員会とする。

第26条 執行委員会は、第4条に定める役員（監査委員を除く。）及び第29条に定める専門委員会の委員長をもって組織する。

第27条 執行委員会は、本会に必要な事項の原案を作り議会に提出する。

第28条 執行委員会は議会の決議事項を執行する。

## 第5章 専門委員会

第29条 本会には執行委員会の職務を補佐するために、次の専門委員会を設置する。

- (1) 学級委員会
- (2) 文化委員会
- (3) 体育委員会
- (4) 公安委員会
- (5) 特教委員会
- (6) 部活動委員会

第30条 学級委員会は、学級委員によって組織し、学生会の運営に協力する。

第31条 文化委員会は、文化委員によって組織し、文化的行事の運営に協力する。

第32条 体育委員会は、体育委員によって組織し、体育的行事の運営に協力する。

第33条 公安委員会は、公安委員によって組織し、学生主事との連絡のもとに校紀校風の刷新向上にあたる。

第34条 特教委員会は、特教委員によって組織し、学校行事の運営に協力する。

第35条 部活動委員会は、各部の部長によって組織し、各部の健全な活動向上にあたる。

第36条 各専門委員会に委員の互選により選任された委員長1名、副委員長1名を置く。

第37条 その他必要に応じ議会の承認を得て特別専門委員会を設けることができる。

## 第6章 部

第38条 本会には、会員の健全な趣味、豊富な教養、強健な体力を養うとともに集団協力の態度を培うために、別表に掲げる部及び同好会を置く。

第39条 部には、部長及び主務を置く。

第40条 部の新設、合併及び廃部は、部活動委員会で協議議決した後、議会で協議可決し、校長の承認を得て決定する。

第41条 会員の同好者をもって構成する同好会の新設は、部活動委員会の議決、議会の承認及び校長の決定により認めるものとする。

## 第7章 監査委員会

第42条 監査委員会は、本会の監査機関である。

第43条 監査委員会は、3名の監査委員をもって組織する。

## 第8章 選挙管理委員会

第44条 選挙管理委員会は、各学級から2名ずつ選出された委員をもって組織し、役員選挙の管理に当たる。

第45条 選挙管理委員会は、委員の互選によって選出された委員長、副委員長各1名を置く。

## 第9章 会計

第46条 本会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

第47条 本会の経費は、会費、寄付金、その他をもってこれに当てる。

第48条 本会の予算、決算は、議会の承認を受けるものとする。

## 第10章 校長の権限

第49条 校長は、本会の最高顧問として本会の議決が学校行政や学生指導に障害を及ぼし、若しくは校長の法的責任を侵すと認めるときは、これを拒否することができる。

## 第11章 顧問

第50条 本会には、校長によって任命された学生会顧問教員を置く。

第51条 部には、校長によって任命された部顧問教員を置かなければならない。

## 第12章 改正

第52条 この会則の改正は議会の総議員の3分の2以上の賛成で議決され、校長の承認を得て施行される。

## 附 則

- 1 本会の運営に必要な事項は細則で定める。
- 2 この会則は、昭和41年4月1日から改正施行する。

- 3 この会則は、昭和61年4月1日から改正施行する。
- 4 この会則は、平成11年4月1日から改正施行する。
- 5 この会則は、平成12年4月1日から改正施行する。
- 6 この会則は、平成19年4月1日から改正施行する。
- 7 この会則は、平成30年4月1日から改正施行する。

# 特別奨学金給付規程

## (趣旨)

**第1条** この規程は、学校法人金沢工業大学特別奨学金規則第5条の規定に基づき、国際高等専門学校（以下「本校」という。）に配分された特別奨学金の給付に関して必要な事項を定める。

## (対象)

**第2条** 本校は、本校の新たな教育研究ブランド力の向上を目指した、グローバルリーダーの養成に資する「ICT リーダーシップアワード奨学金制度」を実施するため、学生のうち多様な活動においてリーダーシップを発揮し学業成績が優秀な者を特別奨学生とし、特別奨学金を給付するものとする。

## (期間)

**第3条** 特別奨学生として特別奨学金を給付する期間は1年とする。ただし、年度ごとの評価及び選考により、継続して給付することを妨げない。

## (特別奨学金の種別と給付条件)

**第4条** 特別奨学金の種別は、次の各号のとおりとし、当該各号に定める条件を満たす者から選考により給付する。

(1) リーダーシップGolden Eagle 奨学金

第1学年から第2学年までの取り組みを評価し、次の条件を全て満たす者

- ① 本校が定めるSDGs スタートアッププロジェクトに継続的に参画していること。
- ② 2年間を通じた修学でGPAが3.0以上、TOEFL(iBT)70点以上又はIELTS5.5以上、若しくは英検準1級以上のいずれかを有していること。
- ③ 自身が取り組むプロジェクトを通じた状況や成果を、自身の成長に関して、本校が認める方法で学内外に発信していること。

(2) リーダーシップアワードGold 奨学金

学年ごとに1年間の取り組みを評価し、次の①及び②の条件を満たし、かつ③、④又は⑤の条件のいずれかを満たす者

- ① 受講する全ての科目の成績の平均値がGPA3.0以上であること。
- ② 修学生活、寮生活等を通じて、自身の成長に関して、本校が認める方法で学内外に発信していること。
- ③ 学内外のプログラムに参加し、積極的なリーダーシップを発揮していること。
- ④ 各種活動を通じて培った知識やスキルを活用し、地域社会に貢献していること。
- ⑤ 他の学生の模範となる行動をしていること。

(3) リーダーシップアワードSilver 奨学金

学年ごとに1年間の取り組みを評価し、次の①及び②の条件を満たし、かつ③、④又は⑤の条件のいずれかを満たす者

- ① 受講する全ての科目の成績の平均値がGPA2.5以上であること。
- ② 修学生活、寮生活等を通じて、自身の成長に関して、本校が認める方法で学内外に発信していること。
- ③ 学内外のプログラムに参加し、積極的なリーダーシップを発揮していること。
- ④ 各種活動を通じて培った知識やスキルを活用し、地域社会に貢献していること。
- ⑤ 他の学生の模範となる行動をしていること。

(4) CWIE 海外コーオペ教育奨学金

第4学年又は第5学年において、本校が定める海外インターンシップ(Global Cooperative Education Program)に参加し、かつ次の全ての条件を満たす者

- ① 前年度までの修学でGPAが2.5以上、TOEFL(iBT)80点以上又はIELTS6.0以上、若しくは英検準1級以上のいずれかを有していること。
- ② 世界産学連携教育協会(WACE)が定める革新的思考を養成するための共創教育(CWIE)の趣旨を理解し、企業での課題に積極的に取り組んでいること。
- ③ 他の学生の模範となることが期待できること。

## (特別奨学金の給付額等)

**第5条** 特別給付金は、授業料等に充当するものとし、給付額（一人当たり年額）、給付人数及び給付金充当費目は、前条に定める種別ごとに次の各号に定めるとおりとする。

(1) リーダーシップGolden Eagle 奨学金

1,400,000円、3名以内の者、第3学年の留学先授業料に充当

(2) リーダーシップアワードGold 奨学金

300,000円、各学年10名以内の者、次年度の授業料に充当（特別奨学生候補者が第5学年の場合は、次年度の金沢工業大学編入時の授業料に充当）

(3) リーダーシップアワードSilver 奨学金

250,000円、各学年10名以内の者、次年度の授業料に充当（特別奨学生候補者が第5学年の場合は、次年度の金沢工業大学編入時の授業料に充当）

(4) リーダーシップアワードCWIE 奨学金

300,000円、4名以内の者、受入先授業料に充当

2 特別奨学金の給付額は、為替レートの変動等に応じ変更することができる。

#### (選考委員会)

第6条 特別奨学生を選考するため、校長を委員長とする国際高等専門学校特別奨学生選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置する。

- 2 選考委員会の委員は、教務主事、学生主事、学科長、一般教科主任とする。
- 3 選考委員会の委員長は、選考委員会の選考結果について速やかに理事長に報告しなければならない。

#### (特別奨学生の決定)

第7条 理事長は、選考委員会の委員長から報告があった選考結果に基づき、特別奨学生を決定する。

#### (資格の喪失)

第8条 校長は、特別奨学生が次の各号のいずれかに該当すると認めるときは、直ちにその資格を取り消すものとする。

- (1) 学則に違反し又は学生としての本分に反する行為があったとき。
- (2) その他特別奨学生として不適当であると認められたとき。

#### (給付金の返還)

第9条 前条に定める事由により、特別奨学生の資格が取り消された者は、既に給付された当該年度の給付金を返還するものとし、第5条各号に定める給付金充当費目（授業料等）を支払わなければならない。

#### (事務)

第10条 この規程に関する事務は、国際高等専門学校事務局が行う。

#### 附 則

- 1 この規程は、平成30年6月1日から施行する。ただし、平成30年4月1日以後に入学し在学する者について、その効力を有する。

# 8.科目概要

(国際理工学科)

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般科目 人文社会	国語表現ⅠA	基本的な国語の能力「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「伝え合う力」を高め、思考力を伸ばし、最終的には自分自身の考えを広げ深め、理想とするあり方を文章化できる言語感覚を磨く。相手や場面、目的に応じて自分の考えを効果的に伝えることを目標として、語彙力やレトリックなど文章表現の基礎を固めながら、メモ・ノートの取り方から発表・スピーチの方法まで実践的な学習活動を行い、主体的に表現する姿勢を身につける。	
	国語表現ⅠB	基本的な国語の能力「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」「伝え合う力」を高め、思考力を伸ばし、最終的には自分自身の考えを広げ深め、理想とするあり方を文章化できる言語感覚を磨く。本や雑誌、インターネットなどからの確かな情報を収集・整理して、分析・判断する力を身につけるとともに、テーマ型小論文に取り組み、読み手が理解しやすい構成を意識し、事実や根拠などを明らかにした論理的な文章を書く力を身につける。	
	国語表現ⅡA	人間の行動や思考・創造の在り方に対して認識を深め、表現力・思考力を伸ばし、他者と関わりながら豊かな知的活動を行う態度を育てる。複雑、多様化する人間、自然、社会の諸相に関する小説、評論、エッセイなどを読み、テキストの要約および批評に取り組む。そして分析的・批判的に検討を加えて問題を発見し、必要な情報を収集・整理して、レポート・小論文を作成し、発表と討論を重ねながら問題の本質を探究し、その解決を図る力を身につける。	
	国語表現ⅡB	人間の行動や思考・創造の在り方に対して認識を深め、表現力・思考力を伸ばし、他者と関わりながら豊かな知的活動を行う態度を育てる。会議、ディベート、ブレインストーミング、ロール・プレイングなどさまざまな話し合いの形態を実践的に学ぶなかで、相手や場面、目的に応じた説明や意見の述べ方を習得する。さらには、積極的に地域社会に出て行き、そこに生きる人々との交流を深めるなかで、社会生活に役立つ表現力、理解力と社会生活を充実させる態度を身につける。	
	英語表現ⅠA	英語を書くための高等な英文法を学ぶ。知識や試験のための文法ではなく、書くというコミュニケーションに必要な英語の文法、即ちルールを学ぶ。名詞、代名詞、動詞、形容詞、副詞、前置詞、接続詞、主部と述部、自動詞、他動詞、語順、句、節、英語の誤用、叙法、態など、用法を学び効果的な英文を書くことを可能にする。将来、英語で論文を作成することを念頭に、自らの考えを正しい英語で論理的にまとめあげるコミュニケーション技術を身につける。	国語表現ⅠAに替わる留学生用の科目
	英語表現ⅠB	英語表現ⅠAで学んだ英文法に加えて、美しく読み易い英文を書くために不可欠なPunctuations即ち句読法を学ぶ。終止符、疑問符、感嘆符、ダッシュ、コロン、括弧、セミコロン、コンマ、アポストロフィ、引用符、大文字、ハイフンなどの正しい使用法をさまざまな例文を学習しながら身につけていく。句読法とともに英語のスペリングのルールについても学ぶ。句読法とスペリングを学ぶことで、英文表現のルールとともに、自らの考えを効果的に読者に伝える作文技術を身につける。	国語表現ⅠBに替わる留学生用の科目
	英語表現ⅡA	英文パラグラフの作成とその発展方法を学習する。文法、スペリング、句読法の次のステップとして、ある程度の英文の固まりをパラグラフ発展のルールに従って展開させていく。パラグラフの概念および、それを発展させるためのトピックセンテンスについて学び、さらにトピックセンテンスを強め発展させるためのサポーティングセンテンスについて学習する。例を述べる、詳細を述べる、比較する、原因と結果を書くなどの発展方法を学ぶことで、エッセイや論文を書くための技術を修得し、論理的かつ効果的な英語での著作を書けるようになる。	国語表現ⅡAに替わる留学生用の科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	人文社会	英語表現ⅡB	英語表現学習の集大成として、本格的なペーパー作成に挑戦する。英語による本格的な著作を仕上げることを目的に、英文でエッセイやペーパーなどを書くという経験を継続して積むことによって、論理的に自らの考えを読者に伝えるというコミュニケーション技術を強化する。 ペーパーのアウトライン、プロセスなどを学び自らがテーマを決め、執筆する。このペーパーを書き上げるプロセスにおいて、定期的に担当教員の指導を受け、常に正確な英語が使われているかを確認することが要求される。	国語表現ⅡBに替わる留学生用の科目
		文学Ⅰ	多岐にわたる豊饒な日本文藝の作品群の読解、鑑賞を通して、その作品から喚起される「感動」を的確に受け止める豊かな感受性を涵養する。また、それらの作品に内包される「感動」の源泉となる作者の思考基盤を自ら思索・分析し、それらの思考過程を基軸としながら論文・エッセイ・プレゼンテーション、さらには作品の「感動」によって触発された創作といったさまざまな表現形態によって自らの心象を形象化することができるようになる。また、テキストの分析に際してはさまざまな学域を援用し、多角的な観点を身につける。	
		文学Ⅱ	「文学Ⅰ」の発展形態として世界文藝の読解、鑑賞を行う。文化の全く相違する世界文学の作品群の読解を通して、日本文学の鑑賞の際に得られたと同様な人間に対する真摯な態度・考察に対する「感動」を的確にとらえる思考力・感受性を涵養する。また、作品に喚起された「感動」を研究論文・エッセイ・プレゼンテーション・創作といったさまざまな表現形態によって形象化することができるようになる。また、テキストの分析に際してはさまざまな学域の知の集積を援用し、多角的視野を身につける。	
		世界文学Ⅰ	シェークスピアの代表的な作品を読んで、その作品に表れる作家の人間観察と劇作の技術を研究する。劇作家の最高峰として世界中の人々に愛読されるシェークスピアの「ロミオとジュリエット」を読み込む。作品を読みながらさまざまな場面での登場人物の気持ちや時代背景などを自らの考えを織り交ぜながらクラスで発表できるようになることを目標とする。その発表を通してクラスメートに自らの考えを効果的に伝える技術をも修得する。	文学Ⅰに替わる留学生用の科目
		世界文学Ⅱ	日本文学の中から日本人の心情を理解することができる代表的な作品を英語で読んで鑑賞する。また、その作品の中に登場する日本文化、日本人とその精神、歴史、古き習慣、視点、そして日本人の根底にある美意識を見出すことを主目標とする。日本の古典文学から清少納言の随筆「枕草子」を選んで読んでいく。自身が生まれ育った文化、習慣、或いは美意識などと比較しながら平安期に書かれた随筆に親しむことで、学生は、他の文化や価値観を理解し教養を深めるとともに自らの考えを持てるようになる。	文学Ⅱに替わる留学生用の科目
		アカデミックライティング	レポート、論文作成に際して必要不可欠な客観的・論理的思考を涵養する。「問題の立て方(テキスト・クリティック)」「資料の集め方(コーパス)」「論文の組み立て方」を的確に身につけ、自ら設定したテーマの具体的な意味内容を効果的に表現する言語選択・編集を通して、論理的に展開、記述できるようになることを目的とする。さらにはこの記述に際しての客観的・論理的な思考プロセスを身につけることにより、よりの確・有効的なかたちでプレゼンテーションにも応用する。	
		歴史文化ⅠA	世界の歴史・文化に対する学びを通じて、人間社会に存在する価値観の多様性と、その相克の過程とを理解し、歴史的な視野をもって現代社会を捉え直す素養を身につける。ここでは特に中近世のヨーロッパを中心に社会の在り方を概観し、西洋に変革をもたらした偉人たちの事跡を追って、各時代に求められた英雄像についての考察を深めるとともに、社会構造の形成過程、すなわち歴史上に出現した多様な政治形態について正しく理解する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般科目 人文社会	歴史文化ⅠB	世界の歴史・文化に対する学びを通じて、人間社会に存在する価値観の多様性と、その相克の過程とを理解し、歴史的な視野をもって現代社会を捉え直す素養を身につける。ここでは特に近代ヨーロッパに始まる国民意識の形成と国民国家の出現、列強の誕生と植民地支配、帝国主義による2度の世界大戦の顛末を概観し、その延長線上に現代社会を捉え直す。以上の学びを通じて、今日の国際社会における日本の立ち位置を客観的に把握する。	
	歴史文化ⅡA	地域社会はさまざまな構成要素によって成り立っている。学生が学ぶ生活する白山地域の歴史、文化、信仰、生活習慣、産業、地形、自然などを総合的に学ぶことにより、地域社会への興味・関心を高め、地域とのふれあいを意識し、地域社会と協働する取り組みに向けた基礎力を身につける。また、地域社会のテーマを学習することを通して、学習の方法を修得することにより、多様な社会やそこに存在する問題にもアプローチできるスキルを身につけ、社会的課題解決に向けての使命感を養う。	
	歴史文化ⅡB	日本の歴史上の先人たちの活躍や生涯を学習することを通して、日本の歴史や文化について理解を深め、その時代の特徴を理解することにより、人間の生き方を考える機会とする。日本の歴史における各時代の政治や文化において顕著な活躍をした人物を中心に取り上げ、学習を進めていく。こうした学習を通して得た知識や経験を自らの人生の糧とし、自らを振り返り、アイデンティティーの確立を目指し、他から尊敬される人格を養うと共に、今後直面する課題解決の一助とする。	
	歴史文化(英語)ⅠA	世界の歴史・文化に対する学びを通じて、人間社会に存在する価値観の多様性と、その相克の過程とを理解し、歴史的な視野をもって現代社会を捉え直す素養を身につける。ここでは特に中近世のヨーロッパを中心に社会の在り方を概観し、西洋に変革をもたらした偉人たちの事跡を追って、各時代に求められた英雄像についての考察を深めるとともに、社会構造の形成過程、すなわち歴史上に出現した多様な政治形態について正しく理解する。	歴史文化ⅠAに替わる留学生用の科目、共同
	歴史文化(英語)ⅠB	世界の歴史・文化に対する学びを通じて、人間社会に存在する価値観の多様性と、その相克の過程とを理解し、歴史的な視野をもって現代社会を捉え直す素養を身につける。ここでは特に近代ヨーロッパに始まる国民意識の形成と国民国家の出現、列強の誕生と植民地支配、帝国主義による2度の世界大戦の顛末を概観し、その延長線上に現代社会を捉え直す。以上の学びを通じて、今日の国際社会における日本の立ち位置を客観的に把握する。	歴史文化ⅠBに替わる留学生用の科目、共同
	歴史文化(英語)ⅡA	地域社会はさまざまな構成要素によって成り立っている。地域の地形、自然、歴史、文化、宗教、生活習慣、産業などを総合的に学ぶことにより、地域社会への理解を深め、地域社会への興味・関心を高め、地域社会と協働する取り組みに向けた基礎力を身につけることを目的とする。また、この様な地域社会をテーマに学習することを通して、学習の方法を修得することにより、多様な社会やそこに存在する課題に向けてアプローチできるスキルを身につけ、社会的な課題解決の使命感を養う。	歴史文化ⅡAに替わる留学生用の科目、共同
	歴史文化(英語)ⅡB	日本の歴史における各時代の政治や文化の主たる事象を中心に取り上げ、学習を進めていく。これにより日本の歴史や文化についての理解を深め、時代の特徴や人物の生き方を理解することを通して、異なる国の文化、価値感とふれ合う機会を得るとともに、異なる文化、価値感を理解するための基本的な教養を養う。また、こうした学習を通して国際社会で活躍するリーダーに相応しい人間の生き方を考えると共に、自らを振り返る機会とする。	歴史文化ⅡBに替わる留学生用の科目、共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	人文社会	グローバルスタディーズ	この科目では、1年間のニュージーランド留学（オンキャンパス、オフキャンパス）を充実したものにするため、留学に必要な書類作成を含めた事前準備をする。円滑にホームステイまたは寮生活を送るために必要な英語力や異文化理解、他者への尊敬と思いやりの気持ちを養う。現地の地理的、文化的な様子やキャンパスでのアクティビティの状況を自ら調査し、現地での生活をより快適にまた、活発にするために活用する。カルチャーショックなど精神的な問題の対処方法の意見交換を行い、それに備える。現地で受講する科目の予習も行う。  (オムニバス方式/全30回, 2クラス)  (3 向井 守/全9回, 6 大原 しのぶ/全9回) 日本文化や世界事情を学習し、異文化生活に備える。現地の地理的・文化的な様子を知る。  (5 宇都宮 隆子/全18回, 23 宮野 肇/全18回) 留学に必要な資料の作成方法を習得する。カルチャーショックなど精神的な問題の対処方法を知る。現地で受講する科目の予習を通じて、学習の方法を身につける。  (31 グレース・ガーナー/全3回, 36 ジェームス・テイラー/全3回) 現地での生活や諸活動に必要な英語力を身につける。	オムニバス方式, 集中
		社会科学	古代から現代に至るまでの国家・地域間の対立を、地理的要素を考慮しながら政治等の現象を考える地政学を駆使し、人間社会のあり方や支配構造の問題について考える。地政学の概念を学ぶとともに、地政学の基本的な理論を通して世界の移り変わりを俯瞰していくことにより、現代社会の進む方向性を志向していく。学生同士のディスカッションも導入し、世界に対する深い理解を育み、人間社会のもつ問題点を的確に捉え、今後の社会の在り方を自ら学び続ける習慣を身につける。	
		人文科学	現代社会には多様な価値観が存在し、その相克はときには国際問題へと発展するが、多くの場合その根底には諸民族のもつ神話ないし宗教に対する相互の無理解がある。そこでまずは世界の主要な宗教・神話について概略を把握し、自国のものと比較することにより「日本」という国の特質を正しく理解する。かかる学びを通じて異文化に対する理解を深めるとともに、日本人としての自覚を促し、国際人として社会に寄与し得る素養を身につける。	
		心理学	心理学の全体像を学び、人の心のはたらきを理解するための基本的な視点を身につけ、心理学を応用していく力を獲得する。感覚・知覚・記憶・認知・学習・思考など人の情報処理に関わる分野のほか、感情や個人と社会との関係、及び心理学が「心」をどのようにとらえ、どのように科学的な研究を行ってきたのか、という心理学の歴史や研究手法について、それぞれの基本的な事柄を概括的に学ぶ。	
		生活と文化	ニュージーランドの生活様式、衣食住、風俗習慣、遊びや仕事、自然や史跡など多種多様な文化に対する関心を深め、異文化理解の楽しさや難しさを意識しながら、積極的に多様な人々と関わり合い、学びや生活を充実させる態度を身につける。さらには、自己とは異なる文化背景を持つ他者との交流を通じて、価値観や考え方の多様性を探求し、対応していく能力を育成する。また、自文化を相対的に捉える視点を養い、自他双方を尊重する自己表現力の向上に役立てる。	
自然	解析基礎A	主に基礎的な解析系の分野を学習し、関数の解析に必要とされる内容を習得すること、具体的には、数と式についてはその計算ができること、方程式と不等式についてはその解を求めること、2次関数についてはその性質を理解し、グラフを描くことで問題解決ができるようになることを目的とする。これらの知識とスキルを身につけることで、微分と積分、科学や工学の内容を学習する際に必要となる科学的思考と知識の土台を構築することを目指す。	共同	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
科学	解析基礎B	主に基礎的な解析系の分野を学習し、関数の解析に必要とされる内容を習得すること、具体的には、整式の除法、分数式、複素数の計算ができること、剰余の定理、因数定理を活用できること、指数関数、対数関数についてはその性質と演算則を理解し、グラフを描くことができるようになることを目的とする。これらの知識とスキルを身につけることで、微分と積分、科学や工学の内容を学習する際に必要となる科学的思考と知識の土台を構築することを目指す。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般科目 自然科学	微分・積分A	主に発展的な解析系の内容を学習し、詳細な関数の解析に必要とされる内容を習得すること、具体的には、弧度法、三角関数の性質の理解とそのグラフを描くこと、さらには整関数、三角関数、指数関数、対数関数の微分の計算ができるようになることを目的とする。また、関数と極限などについても学び、これらの知識とスキルを習得することで、科学や工学との関連づけを行いながら、発展的な数学の内容を身につけるための科学的思考と知識といった数学的素養のさらなる向上を目指す。	
	微分・積分B	主に発展的な解析系の内容を学習し、詳細な関数の解析に必要とされる内容を習得すること、具体的には、整関数、三角関数、指数関数、対数関数の微分・積分の計算と、極大・極小、最大・最小、グラフの描画、面積と回転体の体積の計算への応用ができるようになることを目的とする。これらの知識とスキルを習得することで、科学や工学との関連づけを行いながら、発展的な数学の内容を身につけるための科学的思考と知識といった数学的素養のさらなる向上を目指す。	
	基礎数学A	主に基礎的な非解析系の分野を学習し、空間構造や図形の解釈に必要とされる内容を習得すること、具体的には、集合の表記法とその性質、図形の性質、図形と方程式の関連性を理解できるようになること、さらには、場合の数と確率についても学び、それらの計算ができるようになることを目的とする。これらの知識とスキルを身につけることで、代数と幾何、科学や工学の内容を学ぶ際に必要となる科学的思考と知識の土台を構築することを目指す。	共同
	基礎数学B	主に基礎的な非解析系の分野を学習し、空間構造や図形の解釈に必要とされる内容を習得すること、具体的には、三角比の性質、また、正弦定理・余弦定理などのさまざまな三角比の活用法について学び、それらの計算ができるようになることを目的とする。さらには、平面ベクトル、空間ベクトルについても理解し、これらの知識とスキルを身につけることで、代数と幾何、科学や工学の内容を学ぶ際に必要となる科学的思考と知識の土台を構築することを目指す。	共同
	代数・幾何学A	主に発展的な非解析系の内容を学習し、空間構造や図形に関わる詳細な内容を習得すること、具体的には、行列の性質を理解し、その計算ができること、逆行列を利用して連立方程式の解を求めること、さらには、1次変換を利用して図形への応用ができるようになることを目的とする。これらの知識とスキルを習得することで、科学や工学との関連づけを行いながら、発展的な数学の内容を身につけるための科学的思考と知識といった数学的素養のさらなる向上を目指す。	
	代数・幾何学B	主に発展的な非解析系の内容を学習し、空間構造や図形に関わる詳細な内容を習得すること、具体的には、数列の性質を理解し、その一般項を求めること、行列の性質を理解し、1次変換を利用して図形への応用ができること、2次曲線の性質とその方程式を理解すること、極座標・媒介変数を用いて図形を図示できるようになることを目的とする。これらの知識とスキルを習得することで、科学や工学との関連づけを行いながら、発展的な数学の内容を身につけるための科学的思考と知識といった数学的素養のさらなる向上を目指す。	
	数理統計	自然界における偶然性は数学的には確率を用いて表現され、観察や実験から得られたデータは、この確率の概念を用いて解釈・処理されることによって、はじめて実用に耐えうる推定や検定を行うための道具となることができる。本科目では、理工学の分野において、偶然性に左右される現象を取り扱う際に必要となる統計的な知識・概念・スキルを学習することにより、自然・社会・産業などのさまざまなデータを統計的に解析・処理し、科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般科目 自然科学	物理ⅠA	物理学は、自然科学および工学を学ぶ上で重要となる現象を系統的論理的に考えていく能力を養い、現象を科学的に解明するための基本的な見方や考え方ができるようになる。また、実験を通して他と協働することでコミュニケーション能力を高め、装置や実験手順の工夫により新しい知識技術を得ることができる。本科目では、物理学すべての基礎となる力学を身につけるために、力と運動についての知見を深めることができる。また、数学的処理の基礎を身につけることができる。	共同
	物理ⅠB	物理学は、自然科学および工学を学ぶ上で重要となる現象を系統的論理的に考えていく能力を養い、現象を科学的に解明するための基本的な見方や考え方ができるようになる。本科目では、物理学ⅠAで学習した力と運動をさらに発展させ、力と運動を結びつける法則を無理のない思考や実験を通して理解することができる。また、力学的エネルギーという概念を導入し、複雑な運動も理解することが出来るようになる。これらにより力学以外の熱や電気などの現象と結びつけることができるようにする。	共同
	物理ⅡA	物理学は、自然科学および工学を学ぶ上で重要となる、講義や実験を通して、現象を系統的論理的に考えていく能力を養い、現象を科学的に解明するための基本的な見方や考え方を、身につけることを目標とする。本科目では、物理Ⅰで学習したエネルギーをキーワードにして、熱や気体、波動、音、光の現象について、様々な実験を通してその結果から得られた知見を、1年次に学習した力学を基礎とするモデルを用いて理解することができる。	共同
	物理ⅡB	物理学は、自然科学および工学を学ぶ上で重要となる、講義や実験を通して、現象を系統的論理的に考えていく能力を養い、現象を科学的に解明するための基本的な見方や考え方を、身につけることを目標とする。本科目では、エネルギーをキーワードにして、電気・磁気の現象について、様々な実験を通して、1年次に学習した力学を基礎とするモデルを用いて理解することができる。また、原子物理についても扱い、原子力エネルギーへの正しく理解することができる。	共同
	化学ⅠA	化学を学習することは理工系の学生にとって必須である。その理由は、化学はその他全ての科学科目と重なり合う科目であるため、多くの物理学者、生物学者、環境科学者、エンジニアなどの研究者たちは、自分たちの研究に化学的手法を用いている。本科目では、学生たちはマクロとミクロの両視点における物質とエネルギーについて学習する。現実世界の中で起こる事象を理解することにより、自然と産業とを結びつける科学的思考を身につけるのに役立つ。	
	化学ⅠB	化学を学習することは理工系の学生にとって必須である。その理由は、化学はその他全ての科学科目と重なり合う科目であるため、多くの物理学者、生物学者、環境科学者、エンジニアなどの研究者たちは、自分たちの研究に化学的手法を用いている。本科目ではミクロ的視点での物質とエネルギーについて学びを広げる。物質を構成する単位としての原子構造を理解する。さらにそれを発展させ、化学結合や相互作用の仕組みを理解する。これによりさまざまな世の中に存在する化合物の特性を理解することができる。	
	化学ⅡA	化学はその他全ての科学科目と重なり合う科目であるため、化学を学習することは理工系の学生全てにとって必須の科目である。本科目では、まず物質を定量する方法としてモルを学習する。その上で、さまざまなタイプの化学反応における量的関係を説明できるようになる。また、反応物が作り出される際のプロセスが理解できる。次にまた、物質を構成する粒子の運動理論を用いて、物質の状態、溶液理論、化学反応論について説明できるようになる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	自然科学	化学ⅡB	化学はその他全ての科学科目と重なり合う科目であるため、化学を学習することは理工系の学生全てにとって必須の科目である。本科目は、これまで学習した化学反応のタイプを大きく分類したものを学習する。酸、塩基、塩が関係する中和反応や酸化還元、それを応用した電気化学について学習する。さらに、材料、食品、薬品など化合物の大半を占める有機化合物の物理的、化学的特性について学習する。これらのことを学習することで、新たな化学物質の創成に役立つ。	
		生物ⅠA	生物は、生物や生命現象を科学的に解明していく科目で、バイオ工学の基礎となる。日常生活や社会との関連も学習に取り入れていくことで、白山の自然がもつ力を理解することができ、そして、それを利用するきっかけができる。本科目では、生命体の基本単位である細胞のはたらきと生命活動を維持するさまざまな現象の基礎を実験や観察を通して理解できること、また、生命の連続性に関わる生殖や発生、遺伝子について理解できることを目的とする。	
		生物ⅠB	生物は、生物や生命現象を科学的に解明していく科目で、バイオ工学の基礎となる。日常生活や社会との関連も学習に取り入れていくことで、白山の自然がもつ力を理解することができ、そして、それを利用するきっかけができる。本科目では、生命体の基本単位である細胞のはたらきと生命活動を維持するさまざまな現象の基礎を実験や観察を通して理解できること、また、生命の連続性に関わる生殖や発生、遺伝子について理解できることを目的とする。	
		生物ⅡA	生物は、生物や生命現象を科学的に解明していく科目で、バイオ工学の基礎となる。日常生活や社会との関連も学習に取り入れていくことで、白山の自然がもつ力を理解することができ、それを利用するきっかけができる。本科目では、生命の営みとしての消化と吸収、血管と血液そして心臓までの循環器について、呼吸器系について学習し、人間を含めた多くの動物たちのからだの仕組みについて理解する。また、ピロリ菌やサイレントキラーの高血圧など、現代病とも言われる内臓系の病気も紹介する。	
		生物ⅡB	生物は、生物や生命現象を科学的に解明していく科目で、バイオ工学の基礎となる。日常生活や社会との関連も学習に取り入れていくことで、白山の自然がもつ力を理解することができ、それを利用するきっかけができる。本科目では、身の回りの生物、生物種としての人間を理解するため、生物の分類の仕方、微生物とウイルス、菌類、植物、無脊椎動物、脊索動物について学習する。また、今住んでいる白山の生物環境についても取り上げ、生物資源の活用、他の生物群との共存など、白山が抱える問題点の発見のきっかけとする。	
	第二言語	リーディング・ライティングⅠA	全般的なリーディング、ライティング力の向上だけでなく、英語で実施される数学・科学の授業理解の助けとすることも目標とする。ある程度、英語の語順に慣れた上で、リーディングはパラグラフ1つの長さから始め、徐々にその量を増やし、タイトルや挿絵から内容を推測、要旨を理解する読み方のスキミング、情報を得る読み方のスキニングができるようになる。ライティングはリーディングや数学、科学で学習した要旨をセンテンスレベルで書けるようになる。パッセージを理解するため必要な文法事項や単語も習得する。	
リーディング・ライティングⅠB		全般的なリーディング、ライティング力の向上だけではなく、英語で実施される数学・科学の授業理解の助けとすることも目標とする。リーディングでは学習したスキミングやスキニングの速度を上げる練習を取り入れる。ライティングではリーディングや数学、科学で学習した要旨を100字程度のパラグラフレベルで書けるようになる。パッセージを理解するため必要な文法事項や単語も習得する。また、ペアワークやグループワークを通じて、自分の役割を認識し積極的に貢献することも学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	第二言語	リーディング・ライティング II A	全般的なリーディング、ライティング力の向上だけでなく、英語で実施される数学・科学の授業理解の助けとすることも目標とする。リーディングでは、内容理解にとどまらず多様な文化や価値観を理解するためクリティカルリーディングの読み方で色々な考え方に対する理解を深める思考トレーニングをする。ライティングではリーディングの内容あるいは、数学、科学で学習した内容を100～150字程度で表現できるようになる。パッセージを理解するため必要な文法事項や単語も学習し、特に単語は、語源を意識する。	
		リーディング・ライティング II B	全般的なリーディング、ライティング力の向上だけでなく、英語で実施される数学・科学の授業理解の助けとすることも目標とする。リーディングでは多様な文化や価値観を理解するためのクリティカルリーディングを発展させ、自分の意見を持ち、広い視野での意見を持つことができるようになる。ライティングではリーディングの内容あるいは、数学、科学で学習した内容を150～200字程度で表現できるようになる。単語は引き続き語源を意識しながら数学、科学で使用される意味と一般的に使われている意味の違いにも着目する。	
		リスニング・スピーキング I A	英語圏での生活（英語での授業を含む）をスムーズに送れるようになるだけでなく、英語での数学や科学の授業を効果的に学ぶために必要とされるオーラルコミュニケーション能力を向上させる。ノートテキング、リサーチ、クラス内での質問の仕方等、さまざまなスタンディーズスキル/テクニックを使い、自分の好きなもの、嫌いなもの、趣味などを話したり、人物、物事、出来事、場所を描写したりすることができるようになる。また、これらのトピックの理解や使用される語彙を向上させる。	
		リスニング・スピーキング I B	英語圏での生活（英語での授業を含む）をスムーズに送れるようになるだけでなく、英語での数学や科学の授業を効果的に学ぶために必要とされるオーラルコミュニケーション能力を向上させる。問題点を議論すること、自分の意見を表現すること、アドバイスを与えたり求めたりすること、過去と現在のでき事を伝えること、将来のでき事を予期すること、即興に応じることができるようになる。また、語彙力を伸ばし、これらのトピックの理解度を深めることができるようになる。	
		リスニング・スピーキング II A	英語圏での生活（英語での授業を含む）を社交的にそして職場で上手な人付き合いができる技術を習得し、英語で実施される数学や科学の授業を効果的に学ぶのに必要なオーラルコミュニケーション能力を向上させる。スキミングやスキヤニングのようなテクニックを駆使できるようになり、課題をさまざまな形態のグループや個人で完成させること、その場にふさわしいスマールトークをすること、説得力のある話し方をする、上手に交渉すること、情報に基づく感想を述べるようになる。	
		リスニング・スピーキング II B	英語圏での生活（英語での授業を含む）を社交的にそして職場で上手な人付き合いができる技術を習得し、英語で実施される数学や科学の授業を効果的に学ぶために必要なオーラルコミュニケーション能力を向上させる。アンケートの準備をした上での作成、実施したアンケートからのデータ収集、収集したデータ分析に基づく効果的なプレゼンテーションができるようになる。さらに、英語で履歴書を書き、インタビューの成功の鍵を理解できるようになる。	
		ブリッジイングリッシュ	1年次・2年次の英語での理数系科目の補助となる科目で、テーマベースでの言語教育に重点を置く。理数系科目で学生が直面するであろう困難（理科系の専門的な用語・言回し・表現・概念など）を事前に学習させることにより、理数系科目でより良い結果に繋がることを目的としている。加えて、理数系科目で扱われるテーマに類似した内容を学習させることでそれぞれの分野への背景知識を向上させ、言語力と科目知識を確実に身につけ、理数系科目への向上心を兼ね備える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
一般科目 第二言語	日本語 I A	日本での生活上の最低限のニーズを満たすために必要なコミュニケーションができることを目指して、ひらがな・カタカナ・発音と、よく使われる日常定型表現、基本的な単文の語順や助詞の使い方などを4技能に渡って学ぶ。漢字については、テキストで用いられるものを読めるようにする。また、日本の文化・生活習慣を取り入れた場面の会話練習や体験学習を通して、日本文化・社会について学ぶと共に、自分自身や他国の文化・社会の在り様と比較してグローバル社会での多様性についても理解を深める。	リーディング・ライティング I A, リスニング・スピーキング I A, ブリッジングリッシュに替わる留学生用の科目
	日本語 I B	一般的に想定される日常生活の場面において、あるものの状態を簡単に描写したり、自分の過去の体験を説明したり、許可を求めて質問したりするなど、言葉を用いて簡単な目的を達成するために必要な表現や構文・文法・語彙を学び、4技能の演習を行う。またテキストで用いられる漢字表記は、読んで書けることを目指す。加えて、日本語母語学生とより親密な関係を築けるように、テキストで用いられる「です・ます」体と日常会話で用いられる「る・た」体との使い分けについても実践的に学習する。日本を中心としたさまざまな文化の多様性についても、継続して学習する。	リーディング・ライティング I B, リスニング・スピーキング I Bに替わる留学生用の科目
	日本語 II	日常生活の場面で、受身表現や可能形など初級後半レベルの表現を使いながら、ものの在りかや時間・特徴について質問してその内容を理解したり、簡単なことながら自分の意見や考えを述べたり、やや複雑な課題(タスク)を遂行できるようになることをめざす。テキストで用いられる漢字表記の読み書きに加えて、キャンパス内の掲示物など日常生活内で頻繁に見かける漢字表記の意味と読みを理解する。日本を中心としたさまざまな文化の多様性についても、継続して学習する。	リーディング・ライティング II A, リスニング・スピーキング II Aに替わる留学生用の科目
	日本語コミュニケーション	初中級レベルの語彙や構文を用いて書かれた日本文化や科学技術などに関する文章を読み、その内容および論理構造を理解して簡単な日本語か英語で説明できるようになることをめざす。またその学習を通して、中級レベルの表現・構文などを学ぶ。さらに、既習の文型や語彙知識を活用し、あるものの構成/構造・あることからの作業プロセスなどについて、発話テンプレートなどを用いた定型スタイルでの口頭説明/ミニプレゼンテーションに取り組む。数学や理科・IT科目などで頻繁に用いられる日本語表現についても理解を深める。	リーディング・ライティング II B, リスニング・スピーキング II Bに替わる留学生用の科目
	ファンクショナルイングリッシュ (Functional English)	ニュージーランドでの生活や現地授業において、学生たちが順調に過ごすために必要なスキルを身につける。流暢な英語の話し方を学び、日々の生活の中で、各自が効果的にコミュニケーションを図れるようにしていく。学生たちは異文化環境の中で順応しながら、慣れ親しんだ状況、またそうでない状況においても、他者を理解し自分の意見や考えを表現できるようにしていく。チームで協働し、コミュニケーション力、交渉力、考えを発展させる力を身に付け、多文化チームプロジェクトにおいても協力し合うことを学ぶ。	3年次の留学先での科目
	総合英語 I A	さまざまなトピックのリーディング教材を扱い、内容理解のみにとどまらず、アカデミックな文章がどのように構成されているかを学習していく。リーディングを通して、多様な価値観が存在することを学び、トピックに対する自身の意見を英語ライティングでも行っていく。ライティングの基礎を復習しつつ、読み手を意識した、首尾一貫性のある英語の文章を書けるようにしていく。意見交換、相互評価も行いながら、物事を多面的に考える力も身につける。アカデミックな語彙を増やすことも目標とし、自発的な学習を求める。	
	総合英語 I B	実際のTED Talkのプレゼンテーションを取り上げたテキストを使用し、多様な価値観に触れながら、自らの考えをまとめ、それを他者に対し論理的に説明するスキルを習得していく。テキスト内のボキャブラリー、重要表現を習得しながら、TED Talkのリスニングも行う。各学生にクラスの前でプレゼンテーションを行う機会を設ける。また、決められたテーマに対し、賛成、反対の立場に分かれ意見を交わすディベートのルールを理解し、実践する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	第二言語	総合英語ⅡA	総合英語ⅠAと同様に、比較的易しいアカデミックリーディングを、さまざまなトピックを選んで読み進める。内容理解にとどまらず、多様な価値観の存在、また多面的な物事のとらえ方を学んでいく。トピックに対する考えを、個人またはグループとしてライティングしてまとめる機会、またそれを発表する機会を設ける。関心のある事柄に対し自らリサーチする力、他者の意見に耳を傾ける力、そして自らの考えを論理的にまとめ伝える力を身につける。アカデミックな英語表現や語彙を増やすため、自発的な学習を常に求める。	
		総合英語ⅡB	総合英語ⅠBで養ったプレゼンテーション技術をベースに、更なるスキルの習得を目指す。テキスト内のボキャブラリーの習得とTED Talkのリスニングを継続しつつ、自分のアイデンティティを反映させた意見を英語で論理的に説明し、なおかつ効果的に聴衆に伝えられるプレゼンテーションスキルを実践する。またディベートの訓練を行う中で、説得力のある話し方、議論の進め方を習得し、さまざまな立場を理解する姿勢と力を身につける。	
		海外英語研修	2年生の夏休み、希望者に実施するアメリカ・バーモント州セントマイケルズ大学での1ヶ月間の英語研修。現地では、英語学習の4技能（聴く・話す・読む・書く）を強化するだけでなく、現地のアメリカ人学生との毎日の交流を通じて異なる知、文化、価値観、言語を持つ人々と触れ合う機会が与えられ、多様な価値観を理解するための基礎的な教養を構築し、自らの考えを確立できるようになる。大学内の学生寮での生活では、自分の役割と提供できる価値を認識し、積極的に貢献することを学ぶ。	集中、共同
		テクニカルイングリッシュ (English for Specific Purposes)	ニュージーランドでの専門科目授業およびプロジェクトで活用できるスキルを身につける。テキストで必要な情報を探し出し整理する力、また内容を要約する力を養う。さまざまな考えや知識を統合し、それらを自ら問い直す力、また首尾一貫した根拠に基づく結論を述べる力も身につけていく。さらに、文書または口頭での技術的な指導を理解し、その指示を正確に実行できる能力を養成。適切な形式に沿った文書もしくは口頭発表で、専門分野の知識や情報を伝えることができるようになる。	3年次の留学先での科目
		テクニカルコミュニケーション	学生達はエンジニア、技術関係の職場で必要とされるコミュニケーションや専門的な技術を向上させる。この科目の最終的な目的は学生達が色々な国の人々に日本の企業についてプレゼンテーションを出来るようになることである。インターネットやテレビ、新聞等、幅広い情報源から得られるオーセンティックな教材を使用しながら進められる。この授業を受講後、学生達は異文化の職場の違いに気づき、産業（会社）を調査し、メモを書き、レポートをし、効果的なプレゼンテーションをすることができるようになる。	
	保健体育・他	保健体育ⅠA	生涯スポーツの観点から、次の3つを目標とする。1.健康の維持増進と体力の向上。2.現代社会において求められる「コミュニケーション能力」をスポーツの実践を通して向上させる。3.グローバル化の社会において求められる「リーダーシップ」をスポーツの実践を通して身につける。また、これらの目標を達成するために、自然豊かな白山の地域性を生かしながら、下記のことを実施する。 (1) 集団行動、(2) 体力測定、(3) 駅伝競技、(4) 低山での登山、(5) 白山登山。	
保健体育ⅠB		生涯スポーツの観点から、次の3つを目標とする。1.健康の維持増進と体力の向上。2.現代社会において求められる「コミュニケーション能力」をスポーツの実践を通して向上させる。3.グローバル化の社会において求められる「リーダーシップ」をスポーツの実践を通して身につける。また、これらの目標を達成するために、自然豊かな白山の地域性を生かしながら、下記のことを実施する。(1) トレーニング、(2) クロスカントリースキー。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	保健体育・他	保健体育ⅡA	生涯スポーツの観点から、次の3つを目標とする。1.健康の維持増進と体力の向上。2.現代社会において求められる「コミュニケーション能力」をスポーツの実践を通して向上させる。3.グローバル化の社会において求められる「リーダーシップ」をスポーツの実践を通して身につける。また、これらの目標を達成するために、自然豊かな白山の地域性を生かしながら、下記のことを実施する。(1)体力測定、(2)ニュースポーツ(ソフトバレーボール)、(3)白山登山。	
		保健体育ⅡB	生涯スポーツの観点から、次の3つを目標とする。1.健康の維持増進と体力の向上。2.現代社会において求められる「コミュニケーション能力」をスポーツの実践を通して向上させる。3.グローバル化の社会において求められる「リーダーシップ」をスポーツの実践を通して身につける。また、これらを達成するために、自然豊かな白山の地域性を生かしながら、下記のことを実施する。 (1)ニュースポーツ(インディアカ)、(2)クロスカントリースキー。	
		保健体育ⅢA	生涯スポーツを実践するため、社会で実践する機会の多いスポーツのルールを理解し、試合を実施することができることを目標とする。この目標を達成するために次のことを実施する。(1)ソフトボールの基礎技術(キャッチボール、バッティング、ピッチング、連係プレー)を実践できる、(2)ソフトボールのルールを説明できる、(3)ソフトボールのゲームを実施できる、(4)テニスの基礎技術(ストローク、サーブ、ボレー、スマッシュ)を実践できる。	
		保健体育ⅢB	生涯スポーツを実践するため、社会で実践する機会の多いスポーツのルールを理解し、試合を実施することができることを目標とする。この目標を達成するために次のことを実施する。(1)テニスのサーブ、スマッシュ、ボレーができる、(2)テニスのルールを説明できる、(3)テニスのダブルスの試合ができる、(4)テニスのリーグ戦ができる、(5)バドミントンの試合のルールが説明できる、(6)バドミントンの試合ができる、(7)バドミントンのリーグ戦ができる。	
		ビジュアルアーツⅠ	美術、工芸、デザインなどに触れ、芸術分野の知識を深めるとともに感性を高め、芸術による活動を通し、発想力・表現力を養う。手で考えるプロセスによる新たな気づきは、更なる創造性を喚起し、思考の深化の展開を図る。多くの視点からモノ・コトを観察し、組み合わせることで、思考バランス感覚の優れた創造性豊かな表現ができることを目標とする。2次元～3次元のビジュアル表現手法による具現化を通して、手で考える基礎的な姿勢を学ぶ。	
		ビジュアルアーツⅡ	芸術分野の作品鑑賞を通し、作品に込められた作者の意図あるいは制作に至った経緯、制作行程などから芸術の創造に対する思慮を深め、観察力・洞察力を養う。それらを体験した学生は、次に自己が表現者となり、個々の表現物についての言語化を図りながら、論理的思考能力を養う。最終的には、ビジュアル表現による変換をもって、理論と感性の調和による高度な成果の創出ができることを目標とする。エンジニアとして幅広い視野をもち、創造性の発揮と自己解決に至るため、気づき能力と具現化能力の育成を行う。	
		パフォーマンスアーツⅠ	エンジニアは数学、科学そして工学の知識と技術、そしてそれぞれの独創性を用いて新しいものを創出することが要求される。創出を社会や人々に発表する際には表現が不可欠となる。本科目ではイノベーションを起こすエンジニアのための表現力を学ぶ。表現力養成のためにさまざまなテクニックすなわち、発声、呼吸法、姿勢、マイム、話し方、台詞練習、演技、ダンスなどの練習を行い音楽、演劇、舞踊などの芸術の世界に親しむ。人前で話し、演技をする時は失敗を経験するものである。その失敗から学び成功の鍵を見つけるための挑戦的態度を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
一般科目	保険体育他	パフォーミングアーツⅡ	パフォーミングアーツⅠで学んださまざまな表現力の基礎をさらに体験する。音楽、演劇、舞踊などの芸術の世界で表現力がどのように生かされているかを観察し表現力の重要さとそのさまざまな形態を学ぶ。パフォーミングアーツⅠと同様に発声、呼吸法、姿勢、マイム、話し方、台詞練習、演技、ダンスなどの技術の習得も行う。授業の後半には簡単な発表会も計画する。努力し挑戦を続けることで人を感動させる表現力を身につけるとともに、自らあるいはチームで各自の技術を改善する。	
専門科目	共創科目（全コース共通科目）	エンジニアリングデザインⅠA	将来、食糧問題、環境汚染、経済格差、人口爆発などのさまざまな困難を乗り越えるイノベーションを実現する技術または製品を開発するグローバルイノベーターにとって、工学やモノづくりの楽しさを理解することは不可欠である。本科目では、物理や工学の基礎概念を理解できる実験や、機械加工、電子回路製作、デジタル加工等のモノづくり活動を実施する。基礎的な専門知識と技術を身につけながら、自然・社会・産業と結びつけた科学的思考を養い、新たな価値を創出するための素養を涵養する。	共同
		エンジニアリングデザインⅠB	将来、食糧問題、環境汚染、経済格差、人口爆発などのさまざまな困難を乗り越えるイノベーションを実現する技術または製品を開発するグローバルイノベーターにとって、工学やモノづくりの楽しさを理解することは不可欠である。本科目では、物理や工学の基礎概念を理解できる実験や、機械加工、電子回路製作、デジタル加工等のモノづくり活動を実施する。基礎的な専門知識と技術を身につけながら、自然・社会・産業と結びつけた科学的思考を養い、新たな価値を創出するための素養を涵養する。	共同
		エンジニアリングデザインⅡA	将来、食糧問題、環境汚染、経済格差、人口爆発などのさまざまな困難を乗り越えるイノベーションを実現する技術または製品を開発するグローバルイノベーターは、自由な発想のみならず、モノとコトにフォーカスした発想ができる必要がある。本科目では、プロジェクト活動を通じて、発想に必要な知識や表現を実現するためのツールの活用を学び、2D/3Dのデジタルオブジェクト制作、ロボット等の製作を行う。これらの活動を通じて発想を視覚化し、形あるものへと具現化する能力を身につける。	共同
		エンジニアリングデザインⅡB	将来、食糧問題、環境汚染、経済格差、人口爆発などのさまざまな困難を乗り越えるイノベーションを実現する技術または製品を開発するグローバルイノベーターは、自由な発想のみならず、モノとコトにフォーカスした発想ができる必要がある。本科目では、プロジェクト活動を通じて、発想に必要な知識や表現を実現するためのツールの活用を学び、2D/3Dのデジタルオブジェクト制作、ロボット等の製作を行う。これらの活動を通じて発想を視覚化し、形あるものへと具現化する能力を身につける。	共同
		エンジニアリングデザインⅢ (Engineering Project)	本科目では、キャップストーンプロジェクト(Capstone Project)を実践することで、技術的、工学的知識を総合的に理解していることを証明する。自分たちが選んだ分野で、教員や学生たちと協議を重ねながら設計概要をまとめ、それに沿った製作活動、システム作成を行う。製作目的や製作過程の説明文書を作成するとともに、プロトタイプ、コンピューターモデル、コンピューターシステム制作を行う。さまざまなプレゼンテーション技術を用い、プロジェクトの成果を学生、教員または企業の方々に英語で発表も行う。	3年次の留学先での科目
		エンジニアリングデザインⅣA	未知の世界に挑む技術または製品の開発では、先入観を持たずに今ある事象を捉え、世の中の動向やトレンドを理解することが必要である。本科目では、地域社会や産業分野への理解を深めながら、異なった専門分野のエンジニアと基礎的な工学知識や技能を發揮した協働作業を行い、より幅広い視野をもって何が社会に必要なかを捉え解決策を提案する。この活動を通じて、取り組むべき課題の本質を理解し、価値を創出するために創造的な問題解決策を考案する分析力、構想力、コミュニケーション力を涵養する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 共創科目（全コース共通科目）	エンジニアリングデザイン IVB	未知の世界に挑む技術または製品の開発では、先入観を持たずに今ある事象を捉え、世の中の動向やトレンドを理解することが必要である。本科目では、地域社会や産業分野への理解を深めながら、異なった専門分野のエンジニアと基礎的な工学知識や技能を發揮した協働作業を行い、より幅広い視野をもって何が社会に必要なかを捉え解決策を提案する。この活動を通じて、取り組むべき課題の本質を理解し、価値を創出するために創造的な問題解決策を考案する分析力、構想力、コミュニケーション力を涵養する。	
	エンジニアリングデザイン VA	本科目では実社会の問題を取り上げ、使命感をもって学生が主体的・自主的に、計画立案、調査、分析、実験、考察、発表を通して、問題発見から解決にあたる過程と方法を実践しながら学ぶ。その成果は作品や論文として報告する。この主体的な活動により、これまでに修得した個人の突出した知識や技能を發揮し、グローバルイノベーターとして協働しながら新たな価値創出へ挑戦し続ける姿勢およびモノ・コトとして形にする能力を身につける。	
	エンジニアリングデザイン VB	本科目では実社会の問題を取り上げ、使命感をもって学生が主体的・自主的に、計画立案、調査、分析、実験、考察、発表を通して、問題発見から解決にあたる過程と方法を実践しながら学ぶ。その成果は作品や論文として報告する。この主体的な活動により、これまでに修得した個人の突出した知識や技能を發揮し、グローバルイノベーターとして協働しながら新たな価値創出へ挑戦し続ける姿勢およびモノ・コトとして形にする能力を身につける。	
	エンジニアリングコンテキスト IA	グローバルイノベーターは、ユーザーの置かれている状況や背景を読み取り、専門的知識を自分なりの判断で理解し、必要となるサービスを判断したり、予測したり、的確に提供することが必要である。そのために本科目では、自然・社会・産業の結びつきに着目しながら、エンジニアとして身につけておくべきさまざまなリテラシーや工学の基礎的な内容を学習する。また学習や体験を通して理解した内容や状況・環境について発表をする際に、他者の理解を促進させる資料やモデル等の作成方法についても学習する。	共同
	エンジニアリングコンテキスト IB	グローバルイノベーターは、ユーザーの置かれている状況や背景を読み取り、専門的知識を自分なりの判断で理解し、必要となるサービスを判断したり、予測したり、的確に提供することが必要である。そのために本科目では、自然・社会・産業の結びつきに着目しながら、エンジニアとして身につけておくべきさまざまなリテラシーや工学の基礎的な内容を学習する。また学習や体験を通して理解した内容や状況・環境について発表をする際に、他者の理解を促進させる資料やモデル等の作成方法についても学習する。	共同
	エンジニアリングコンテキスト IIA	グローバルイノベーターとして働くために必要な国内外に関する環境や経済に関する幅広い知識、技術者倫理に基づいた行動力、危機管理能力などを身につけるために、社会および地域におけるエンジニアの関わり方や役割を学習する。また地域の課題を捉え、価値創出の機会を発見するためにデザインシンキングを活用したチーム活動を実施する。プロジェクトマネジメントやチーム活動を促進するツールの活用法についても学び、自然・社会・産業と結びつけた科学的思考と基礎的な工学知識や技能を活かした価値提案能力を涵養する。	共同
	エンジニアリングコンテキスト IIB	グローバルイノベーターとして働くために必要な国内外に関する環境や経済に関する幅広い知識、技術者倫理に基づいた行動力、危機管理能力などを身につけるために、社会および地域におけるエンジニアの関わり方や役割を学習する。また地域の課題を捉え、価値創出の機会を発見するためにデザインシンキングを活用したチーム活動を実施する。プロジェクトマネジメントやチーム活動を促進するツールの活用法についても学び、自然・社会・産業と結びつけた科学的思考と基礎的な工学知識や技能を活かした価値提案能力を涵養する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	共創科目（全コース共通科目）	工学基礎実技 (Introduction to Engineering Practice)	統合的プロジェクトベースラーニング(Project Based Learning)がどのようなものであるかを紹介していく。工学で用いる数学や物理の復習を行いつつ、CAD、3Dモデリング、プロジェクトを通して、これらの数学、物理の知識を実際に応用していくことを学ぶ。プロジェクトでは、学生たちはチームで活動を行う。チームでの役割分担、また効果的な協働を学び、発表も行う。チームとして指導を受けるとともに、プロジェクト成果を口頭発表、そしてテクニカルライティングを通して審査員に発表する。	3年次の留学先での科目
		インターンシップ I	各自の専攻や将来のキャリアに関連した県内外または海外の企業で実習を行い、就職に対する意識の醸成、職業適性や自身のキャリアプランについて考え、学校の授業だけでは修得できない工学の各専門分野における高度な知識・技術に触れることによって、専門的知識を向上させ、工学を学ぶ意味、技術者としてのあり方を学ぶ。さらに将来社会に貢献できる技術者となるための基礎となる人間力を身につけるため、社会人のマナー、自主性、責任感も養う。	集中
		インターンシップ II	インターンシップ I に引き続き、各自の専攻や将来のキャリアに関連した県内外または海外の企業で実習を行う。インターンシップ I よりもさらに高度な知識・技術に触れることによって、専門的知識を向上させ、工学を学ぶ意味、技術者としてのあり方を学び、将来社会に貢献できる技術者リーダーとなるための社会人のマナー、自主性、責任感、倫理観も学ぶ。さらにチームワークの大切さとチームワークを支えるコミュニケーション能力を養う。	集中
		アントレプレナーシップ	「ビジネスマネジメント力」の育成を目指し、国内外で活躍する起業家の方々の講演および学生同士の討議などを介して、イノベーションを遂行する当事者として重要な役割を演じるアントレプレナー（起業家）について理解する。さらには、社会に出たときに遭遇するさまざまな困難に対峙する力を身につけることや、各自の適性や能力に応じたやりかたで社会に貢献する志を抱くことも目的とする。	
ITリテラシー科目（全コース共通科目）	コンピュータスキルズ I A	現代では、あらゆる場面でコンピュータが利用されており、新たな価値を創出するためにはコンピュータを手足のように操る必要がある。本科目では、コンピュータの仕組みとその能力・可能性を理解することを目的とする。その上で学生として、また社会人となってコンピュータを活用するための管理能力を修得する。最初にタッチタイピングと情報倫理を学び、コンピュータの正しい利用方法を知り入力操作を円滑にすることから始める。その後、文書作成ソフトウェア、プレゼンテーションソフトウェア、表計算ソフトウェアの基礎を学ぶ。	共同	
	コンピュータスキルズ I B	イノベティブなアイデアや個人の才能を実効あるものにするには世界に伝えなければいけません。インターネットは誰もが簡単に自分のウェブページを作ることができることで、これを可能にしました。このクラスは、自分のプロジェクトや創造物を紹介する個人的なポートフォリオのウェブサイトを立ち上げるという最終的な目標に向けて学生を導きます。学生は自分のオリジナルのウェブサイトをデザインし、プロジェクトや課題からの得た資料・マテリアルをコンテンツとして整理します。これにより、学生は自分のコースの成果を視覚化し、自分の成長と学習をどのように表現するかによって自分自身を表現することができます。	共同	
	コンピュータスキルズ II A	計算機的思考は、情報技術者に限らず、あらゆる分野のエンジニアリングにおいて問題を分解したり柔軟なソリューションを考案するために不可欠です。このコースでは、コンピュータプログラムがどのようにタスクを処理するかを学びながら、プログラミングの観点からコンピュータ思考の経験を積むことができます。特に、生徒は、逐次処理、繰り返し、パラメータ化などのアルゴリズムの基本概念を使用して、プログラミング問題の解決をモデル化して実行します。	共同	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  電 気 電 子 コ ー ス	ITリテラシー科目（全コース共通科目）		
	コンピュータスキルズⅡB	現代社会では大量のデータがネットワークを介してやりとりされる。グローバルイノベーターとして世界を股にかけて活躍するためには、大量のデータを格納し素早く検索するためのデータベース、ネットワークの歴史や構造、TCP/IPの基礎について理解することが必要である。本科目ではそれらの基礎知識をグループ単位で協働しながら学習するとともにデータを適切に処理するための数値計算手法やその成果するためのソフトウェアの基礎を学ぶ。これらの知識を活用し、社会のさまざまな問題を発見し自ら解決する素地を養う。	共同
	電気回路 I (Electrical Principles)	一般的な電気回路や電力回路の基礎的な理論およびその実用的技術の修得を目指す。直流回路、交流回路、対称三相回路の基礎理論を理解し、実用的技術として応用する。また、一般的な電気計測機器使用における操作方法および適用技術を修得する。なお、授業は座学で学んだ工学理論を技術や技能に変える実習も含まれる。例えば、代表的な電子素子の基本動作を学ぶ電気電子回路作成実験や住宅電気工事を模した配線実習などである。	3年次の留学先での科目
	電子工学 (Electronic Principles)	電子工学の要素技術の修得を目指す。この科目の履修で学生は鳳-テブナンの定理や重ねの理などの基礎的な回路理論、ダイオードやFETなど代表的素子の特性と応用を学ぶ半導体電子工学、ロジック回路やレジスタなどのデジタル電子工学、整流回路、3端子レギュレータやオペアンプなどのアナログ電子工学、初歩的なシーケンス制御、各種電気電子計測機器による実学的な測定技術を修得する。なお、授業は座学で学んだ工学理論を技術や技能に変える実習も含まれる。	3年次の留学先での科目
	電力工学 (Elements of Power Engineering)	三相交流理論、漏電遮断および保護回路技術を学修する。本科目の学修内容は、1) 3および4線式YおよびΔ結線の電流、電圧および位相の計算、2) 単相および三相回路電力の解析と計算方法、3) 平衡および不平衡回路を含む単相および三相回路の力率の計算、4) 単相および三相回路の有効電力、無効電力および皮相電力の解析と計算、5) 漏電遮断器による電力線の保護と接地方式である。なお、本科目の履修学生は三相交流回路理論の修得と応用、交流送電の基礎的技術がわかるようになる。	3年次の留学先での科目
	数理工学 (Engineering Mathematics)	一般的な数学の基礎を理解し、工学の問題を解決するための適切な工学数学技術を身につける。グラフを分析し、代数の表現や方程式を扱ったり解いたりし、複素数を適用したり、問題を解くために行列を使用したり、工学の問題を解くために微分や積分の数学的技法を適用したり、微分方程式を導いたり解いたりする。	3年次の留学先での科目
	コンピュータ工学基礎 (Engineering Computing)	コンピュータの基礎的理解を深め、エンジニアリング方式でその理解した基礎的な事柄を使用する能力を向上させる。工学数学や解析パッケージを駆使して、エンジニアリングの問題を解決することを学んだり、特有の問題を解くためにアルゴリズムをコード化したり試したり、工夫してより明確なプログラムを作成することを学ぶ。また、エンジニアリング解を導くため、スプレッドシートやデータベースなどを含むソフトウェアパッケージを使用することを学ぶ。	3年次の留学先での科目
プログラミング基礎 (Programming1)	システム設計とプログラミングの基礎概念を紹介する。基本的なプログラミングの構造制御構文を使用し、複雑ではないデータ構造を理解し、そして利用すること、音声を扱うプログラミング演習をすること、論理的描写手法を使用し、それらを実力にふさわしいレベルの課題として適用すること、プログラミング言語で描写された課題を実装すること、関数や手続きとしての処理を的確に理解し実装すること、そしてアプリケーション内からファイル入出力を行う共通の方法についての利用方法を学ぶ。	3年次の留学先での科目	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ネットワーク概論 (Introduction to Networks)	ネットワークの基礎概念とテクノロジーを紹介する。基本的な理論と簡単なネットワーク構成に必要とされる技術を扱う。データネットワークでの通信のレイヤー構造を説明し、設計し計画する際のネットワークの通信規約モデルを使うこと、サブネットマスクとアドレスを適用すること、ルーターとスイッチを用いて容易なイーサネットネットワークを構築すること、装置を繋ぐための配線とネットワーク設計、基本的なルーターやスイッチの設定と検証を行うこと、トランスポート、ネットワーク層プロトコル等の特徴と分析手法を学ぶ。	3年次の留学先での科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 電気電子コース	応用数学ⅠA	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、斉次や非斉次の1階と2階の線形微分方程式の一般解と特殊解を求めること、また、理学や工学において頻出する運動方程式や状態方程式を、習得した微分方程式の解法を利用して解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学ⅠB	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、偏微分の計算、偏微分を活用しての極値判定や接平面への応用、変数変換を用いての2重積分の計算、2重積分を活用して2曲面で囲まれる立体の体積等への応用ができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学ⅡA	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、行列の計算、行列・行列式を用いて連立方程式を解くこと、線形変換、固有値を用いた行列の対角化・三角化、行列の三角化を用いて微分方程式を解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学ⅡB	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、ベクトルの内積、外積、勾配、発散、回転を求めること、ベクトル関数とその微分法、ベクトルの導関数を用いて空間内の曲線や曲面などを解析することができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	制御数学	工学の分野に必要とされる数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、複素数・複素空間とその性質、複素数と複素空間、ラプラス変換とそれを用いた微分方程式の解法、フーリエ級数を求めることとフーリエ変換など、とくに制御に関わる分野に必要とされるものを学ぶことを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用物理ⅠA	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、普段の生活においても起こり得る自然現象や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。本科目では1～3年生までの間に学んだ基礎的な物理や数学を基に、物体の運動や運動の法則などの目に見えない物理現象を図や式などの見える形で表現し、工学、産業と結びついたより実際に近い問題を解決するための科学的思考と表現スキルを養う。	
	応用物理ⅠB	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、普段の生活においても起こり得る自然現象や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。本科目では1～3年生までの間に学んだ基礎的な物理や数学を基に、物体に働く力や行う仕事などの目に見えない物理現象を図や式などの見える形で表現し、工学、産業と結びついたより実際に近い問題を解決するための科学的思考と表現スキルを養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 電気電子コース	応用物理ⅡA	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、自然や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。応用物理Ⅱではこれまでに学んだ物理や数学、応用物理Ⅰを基に、より高度な自然現象に対して微分方程式を用いて理解を深めると共に、数値解法や解析といったさまざまな問題に対するアプローチや実際の開発にも用いることが可能な手法を習得し、科学的思考の素養を培う。本科目では波動を中心に音や光を対象に扱う。	
	応用物理ⅡB	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、自然や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。応用物理Ⅱではこれまでに学んだ物理や数学、応用物理Ⅰを基に、より高度な自然現象に対して微分方程式を用いて理解を深めると共に、数値解法や解析といったさまざまな問題に対するアプローチや実際の開発にも用いることが可能な手法を習得し、科学的思考の素養を培う。本科目ではより高度に実現象を運動学と捉えて扱う。	
	応用化学ⅠA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠAでは、これまでに学習したことをもとに、物理化学の基礎を学習する。これにより、量子論の視点で見る化学結合の本質、熱化学の考え方と利用方法、化学反応を定量的に扱う方法、電池・電気分解を定量的に扱う方法などを理解することで、化学工学への応用にもつながる。	
	応用化学ⅠB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠBでは、これまでに学習したことをもとに、無機化学を学習する。これにより、周期表を手がかりとして、元素の性質・無機化合物を系統的に理解することができ、さらに金属材料や非金属材料の特徴や応用を説明できる。また、生体物質として重要なはたらきをする有機金属錯体についても取り上げる。	
	応用化学ⅡA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅡAでは、有機化学の基礎について学習する。有機化合物は、構成する元素の数が少ないが、その種類は非常に多い。本科目では、有機化学の基礎として、炭化水素を中心に、有機化合物の分類、命名法、性質、諸反応を理解し、有機合成の予測ができるようになる。	
	応用化学ⅡB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅡBでは、ⅡAに引き続き有機化学の基礎について学習する。本科目では、酸素を含む有機化合物の分類、命名法、性質、諸反応を理解し、有機合成の予測ができるようになる。さらに、生命活動に重要な役割を果たす炭水化物、アミノ酸、タンパク質、脂質についても学習する。	
	電気回路ⅡA	本科目は電気系科目の中で基礎となる重要な科目であり、電気回路に関する基礎知識を修得し、その物理学的・数学的考察によって、電気回路の特性解析および設計を行うことができるエンジニアとしての能力を養う。「電気回路Ⅰ」で学んだ電気回路理論の復習を含め、抵抗(R)、インダクタンス(L)あるいは静電容量(C)およびそれらを組み合わせた基本回路からやや複雑な交流回路までを扱う。交流回路の計算では、フェーザと複素数を用いた計算方法を学ぶ。また記号法による回路解析手法を修得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 電気電子コース	電気回路ⅡB	電気電子回路を解析や設計するときの基礎となる計算方法について学ぶ。電気回路の計算方法をよく理解することで電気工学を広く理解できるようになる。電気回路Ⅰ、ⅡAに続き、電気工学の基礎である回路網理論および計算法の基礎を学ぶ。交流のフェーザ表示、直交形式、極形式を利用しながら最大電力、フェーザ軌跡、相互誘導回路、2端子対回路を学習する。自ら問題の意図を考え、解決方法を見出すことをこころがけることにより、科学的思考力の醸成となる。	
	過渡現象	本科目は交流理論を学んだ後に学習する基礎科目である。定常状態の解析とともに過渡状態の修得は欠かせないものである。電気的な過渡現象を回路方程式および初期条件を用いて解析することが、本科目の目的である。過渡状態の振る舞いを表わす回路方程式は微分方程式となるため、定常状態の解法より複雑になる。そのため数学的な準備が必要になる。また回路方程式の解がどのような意味を持つかを考察する。自ら問題の意図を考え、解決方法を見出すことをこころがけることにより、科学的思考力の醸成となる。	
	電子回路基礎	電子回路はエレクトロニクスの技術者にとって、非常に重要な学問である。本科目では、最初にダイオードやトランジスタの基本動作を主体としたアナログ電子回路の基礎について学習する。次にバイポーラトランジスタを用いた基本増幅回路を理解することにより、アナログ電子回路の考え方や設計法を身につける。さらにFETやオペアンプの回路についてもその動作原理と回路を具体的に学習する。また、デジタル電子回路の基礎となる論理回路についても学習する。	
	電子回路	電子回路はエレクトロニクスの技術者や研究者にとって、非常に重要な学問である。本科目ではデジタル電子回路における基礎的な論理代数や論理回路について学習し、各種論理回路の動作原理を理解することを目標とする。講義においては、AND、OR回路などによる組み合わせ論理回路のほか、フリップフロップ、カウンタ等の順序回路、A/D変換器などのデジタル機能回路について学び、それらの動作原理について説明できる力を養う。	
	電気磁気学A	電気工学を学ぶ上で最も基本となる電気、磁気の物理的性質を学ぶ。電気、磁気の物理現象を数学的に表現し、その概念を理解することで、問題を定量的に計算することができる。主に静電界における電荷、電界、電位、静電容量の基本法則（クーロンの法則、ガウスの法則、コンデンサの理論等）を理解することで、「電気磁気学B」の理解に必要な学力を身につける。また、電気磁気学の分野で必要となる数学についても学習する。本科目を通して電気分野の科学的思考力と常に学び続ける姿勢の向上を図る。	
	電気磁気学B	電気磁気学Aに引き続き電気工学を学ぶ上で最も基本となる電気、磁気の物理的性質を学ぶ。電気、磁気の物理現象を数学的に表現し、その概念を理解することで、問題を定量的に計算することができる。主に電界と磁界の相互作用（アンペアの法則、電磁誘導の法則等）について、ベクトル解析や微積分などの数学的手法を用いて理解する。また、現代の技術には欠かせない電磁波についても電気磁気学の点から理解する。本科目を通して電気・磁気分野の科学的思考力と常に学び続ける姿勢の向上を図る。	
	電気電子材料	1) 電気電子材料の基礎、2) 導電材料・抵抗材料、3) 半導体、4) 誘電体および圧電体、5) 磁性体、6) 光学材料を学ぶ。1) では固体中の電子状態、量子統計や帯理論、2) では超電導材料を含む物質の構造や電子の性質に基づく物質の導電率、3) ではpn接合やヘテロ接合理論、4) では強誘電体および圧電体材料とその応用、5) では硬質・軟質強磁性体の基本特性、磁気記録、6) ではpn接合の発行原理や光通信について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	電気電子コース	物性工学	電子素子の動作原理を理解するために、誘電体、磁性体、半導体の基礎物性を学修する。誘電体では圧電性や焦電性の基礎物性と応用、磁性体では硬質および軟質強磁性体の基礎物性と応用、半導体では量子物理に従い結晶中の電子の挙動を学修する。特に、水素原子についてのシュレーディンガー波動方程式の解の物理的意味、バンド理論を用いた固体の電気伝導、各種半導体の構造と電気伝導機構を学修する。また、無機・有機材料に対する理解を深めるために量子化学に従い化学反応と電子軌道の関係を学修する。	
		電気製図	物の形状や仕様を伝える図面は、ものづくりに必要不可欠であり、正しく図面を読み取り、描くことは電気技術者に必須の能力である。また、多くの設計現場でCADシステムが導入されコンピュータ支援による設計・製図が常識化している。本科目では、製図と規格、線の用法などの製図の基礎を学ぶとともに、基礎的な機械要素の製図、電気回路や電気機器の設計で必要となる回路図の製図を行い、製図の読み方、描き方について修得する。	
		電気電子機器	電気を安定かつ効率的に供給するためには発生、輸送および負荷の特性を理解することが重要である。電気電子機器は、電気を有効かつ効率的に利用するために電気エネルギーを他のエネルギーに変換する機器であり、その構造および特性を知ることは技術者にとっては欠かすことができない。本科目では電磁エネルギー変換機器の直流機、変圧器、誘導機、同期機の構造および特性を理解することが目標である。電気機器は日頃接することが少ないが、積極的に実物に触れ、理論を理解することで産業と連携した科学的思考力が醸成できる。	
		電気電子計測工学	電気電子計測は、適切な計測器を使って電気的な種々の量（電圧、電流、抵抗など）を測る手立てであり、電気技術者にとって必須な知識である。本科目では、電気や電子計測の基礎が理解できるように、単位や測定用語の意味と使い方を学び、主要な電気電子計器の構成と測定原理などを学習する。具体的には、はじめに計測の基礎としての単位系と測定誤差について学習し、次にアナログ計器とデジタル計器の原理と特徴、最後に電気諸量の基礎計測と応用計測について学習する。	
		コンピュータアーキテクチャ	コンピュータはハードウェアとソフトウェアが一体となり情報処理を行う。コンピュータアーキテクチャとは、どの処理をハードウェアで実現し、どの処理をソフトウェアで実行するかといった分担を定義するものである。本科目では、コンピュータが情報処理をどのように行うかを理解するために、コンピュータの基本構成と動作原理を習得する。また、過去から現在の最先端のコンピュータシステムの歴史もふれて、コンピュータシステム技術者として常に最先端技術を取り入れる重要性についても学ぶ。	共同
		プログラミングA	プログラムを作る作業をプログラミングと言い、現代のあらゆる分野のエンジニアにとって必要とされる重要な能力の1つである。本科目では変数、制御文、配列、関数などプログラミングの基礎概念と文法を演習を通して学習する。また、実践力を身につけるために、プログラム開発ツールの利用法等もプログラミング演習を通して学ぶ。このような演習を通して、プログラミング開発環境が提供している標準ライブラリを適切に利用し、基本的な制御構造を適切に組み合わせた基本的なプログラムを作成できる能力を身につける。	共同
		プログラミングB	工学の領域において、計算機は多種多様な問題を解決するために必須の道具となっている。機械工学の分野では解析・計測評価において有効であり、電気電子工学の分野では制御などで重要な役割を果たしている。あらゆる分野の技術者は、プログラミングを体系的に学び、計算機を各自の工学の分野で応用する力が必要である。本科目では、これまでに学習したプログラミングの知識と実装能力を基礎に、基本的なデータ構造とアルゴリズムを実装する力、自らが考え設計したプログラムの仕様を実現できる能力を身につけることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目  機 械 工 学 コ ー ス	工業力学 (Engineering Mechanics)	学生が力学の基礎的な理論と法則を理解することを目指す。学生は力に関する基本的な理論と法則、およびこれらの工学応用との関連を学ぶ。また、運動解析、力と運動、仕事とエネルギー、そしてこれらの工学応用との関連についても学習する。さらには流体の原理も学習する。機械力学の基礎を身につけた上で、新しい知識・スキル獲得の姿勢を育てながら、自立したエンジニアとなる意識を養い、これまでにない価値の創出を目指していく。	3年次の留学先での科目
	機械設計製図法 (Engineering Design and Drawing)	学生が実際のケースにおける工学設計、製図演習、モデリングを理解することを目指す。設計プロセスの段階を俯瞰すること、エンジニアリングの場面において、原理、標準規格、設計と製図技術を応用すること、さらに与えられた概要に適したモデルと製図を使用すること、そして創出したアイデアを意見交換することを学ぶ。工学設計・製図の基礎を身につけた上で、新しい知識・スキル獲得の姿勢を育てながら、自立したエンジニアとなる意識を養い、これまでにない価値の創出を目指していく。	3年次の留学先での科目
	熱伝導工学 (Thermodynamics and Heat Transfer)	このコースの目的は学生達が熱力学の原理を学び、どのようにしてこれらの原理をエンジニアのシステムに適用することが出来るかを学ぶことである。学生達はどのようにして様々な材料に対して熱伝達や熱膨張を算出することが出来るのかを学ぶ。このコースの最後には、学生達は熱力学のシステムの特長や特徴を議論できるようになるだけでなく、エネルギー生産や環境効果の方法を説明できるようになり、熱力学の第1、第2法則を応用し説明出来るようになる。	3年次の留学先での科目
	流体工学 (Fluid Mechanics)	このコースの目的は学生達が流体力学の原理を水力学の状況、場面に適用することが出来るようになることである。学生達は、また流体静力学を工学方法論にどのように応用することが出来るか、パイプラインシステムや開水路流と関連する様々な問題をどのように解決するかを学ぶ。このコースの最後には、学生達は流体の流れの中での粘性の意義を説明できるようになるだけでなく、ポンプやタービンの中でのエネルギー変換のプロセスも説明できるようになる。	3年次の留学先での科目
	数理工学 (Engineering Mathematics)	一般的な数学の基礎を理解し、工学の問題を解決するための適切な工学数学技術を身につける。グラフを分析し、代数の表現や方程式を扱ったり解いたりし、複素数を適用したり、問題を解くために行列を使用したり、工学の問題を解くために微分や積分の数学的技法を適用したり、微分方程式を導いたり解いたりする。	3年次の留学先での科目
	電気基礎 (Electrical Fundamentals)	電気電子の理論を学び、これらの理論が機械工学のシステムにどのように応用されているかを学んでいく。機械系エンジニアに通常求められる直流、交流、安全に関する電気理論の説明、増幅器、整流器、変換器、直流モーター、交流モーターに関する電気電子素子の説明、そして制御システムの説明ができるようになる。電気電子の基礎を身につけた上で、新しい知識・スキル獲得の姿勢を育てながら、自立したエンジニアとなる意識を養い、これまでにない価値の創出を目指していく。	3年次の留学先での科目
	コンピュータ工学基礎 (Engineering Computing)	コンピュータの基礎の理解を深め、エンジニアリング方式でその理解した基礎的な事柄を使用する能力を向上させる。工学数学や解析パッケージを駆使して、エンジニアリングの問題を解決することを学んだり、特有の問題を解くためにアルゴリズムをコード化したり試したり、工夫してより明確的なプログラムを作成することを学ぶ。また、エンジニアリング解を導くため、スプレッドシートやデータベースなどを含むソフトウェアパッケージを使用することを学ぶ。	3年次の留学先での科目

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	プログラミング基礎 (Programming1)	システム設計とプログラミングの基礎概念を紹介する。基本的なプログラミングの構造制御構文を使用し、複雑ではないデータ構造を理解し、そして利用すること、音声を扱うプログラミング演習をすること、論理的描写手法を使用し、それらを実力にあわせてレベルの課題として適用すること、プログラミング言語で描写された課題を実装すること、関数や手続きとしての処理を的確に理解し実装すること、そしてアプリケーション内からファイル入出力を行う共通の方法についての利用方法を学ぶ。	3年次の留学先での科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 機械工学コース	応用数学ⅠA	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、斉次や非斉次の1階と2階の線形微分方程式の一般解と特殊解を求めること、また、理学や工学において頻出する運動方程式や状態方程式を、習得した微分方程式の解法を利用して解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学ⅠB	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、偏微分の計算、偏微分を活用しての極値判定や接平面への応用、変数変換を用いての2重積分の計算、2重積分を活用して2曲面で囲まれる立体の体積等への応用ができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学ⅡA	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、行列の計算、行列・行列式を用いて連立方程式を解くこと、線形変換、固有値を用いた行列の対角化・三角化、行列の三角化を用いて微分方程式を解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学ⅡB	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、ベクトルの内積、外積、勾配、発散、回転を求めること、ベクトル関数とその微分法、ベクトルの導関数を用いて空間内の曲線や曲面などを解析することができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	制御数学	工学の分野に必要とされる数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、複素数・複素空間とその性質、複素数と複素空間、ラプラス変換とそれを用いた微分方程式の解法、フーリエ級数を求めることとフーリエ変換など、とくに制御に関わる分野に必要とされるものを学ぶことを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用物理ⅠA	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、普段の生活においても起こり得る自然現象や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。本科目では1～3年生までの間に学んだ基礎的な物理や数学を基に、物体の運動や運動の法則などの目に見えない物理現象を図や式などの見える形で表現し、工学、産業と結びついたより実際に近い問題を解決するための科学的思考と表現スキルを養う。	
	応用物理ⅠB	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、普段の生活においても起こり得る自然現象や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。本科目では1～3年生までの間に学んだ基礎的な物理や数学を基に、物体に働く力や行う仕事などの目に見えない物理現象を図や式などの見える形で表現し、工学、産業と結びついたより実際に近い問題を解決するための科学的思考と表現スキルを養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 機械工学コース	応用物理ⅡA	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、自然や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。応用物理Ⅱではこれまでに学んだ物理や数学、応用物理Ⅰを基に、より高度な自然現象に対して微分方程式を用いて理解を深めると共に、数値解法や解析といったさまざまな問題に対するアプローチや実際の開発にも用いることが可能な手法を習得し、科学的思考の素養を培う。本科目では波動を中心に音や光を対象に扱う。	
	応用物理ⅡB	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、自然や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。応用物理Ⅱではこれまでに学んだ物理や数学、応用物理Ⅰを基に、より高度な自然現象に対して微分方程式を用いて理解を深めると共に、数値解法や解析といったさまざまな問題に対するアプローチや実際の開発にも用いることが可能な手法を習得し、科学的思考の素養を培う。本科目ではより高度に実現象を運動学と捉えて扱う。	
	応用化学ⅠA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠAでは、これまでに学習したことをもとに、物理化学の基礎を学習する。これにより、量子論の視点で見る化学結合の本質、熱化学の考え方と利用方法、化学反応を定量的に扱う方法、電池・電気分解を定量的に扱う方法などを理解することで、化学工学への応用にもつながる。	
	応用化学ⅠB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠBでは、これまでに学習したことをもとに、無機化学を学習する。これにより、周期表を手がかりとして、元素の性質・無機化合物を系統的に理解することができ、さらに金属材料や非金属材料の特徴や応用を説明できる。また、生体物質として重要なはたらきをする有機金属錯体についても取り上げる。	
	応用化学ⅡA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅡAでは、有機化学の基礎について学習する。有機化合物は、構成する元素の数が少ないが、その種類は非常に多い。本科目では、有機化学の基礎として、炭化水素を中心に、有機化合物の分類、命名法、性質、諸反応を理解し、有機合成の予測ができるようになる。	
	応用化学ⅡB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅡBでは、ⅡAに引き続き有機化学の基礎について学習する。本科目では、酸素を含む有機化合物の分類、命名法、性質、諸反応を理解し、有機合成の予測ができるようになる。さらに、生命活動に重要な役割を果たす炭水化物、アミノ酸、タンパク質、脂質についても学習する。	
	応用生物Ⅰ	最近の生物学領域における知識の蓄積や技術の発展は目覚しく、生命の中で起こる現象を分子レベルで解明する生化学は、医療分野での応用技術の開発も含めた生命科学として発展している。本科目では生命科学の理解に必要な基礎知識として、細胞や生体を構成する主要成分の構造や物理・化学的特性とそれらの生体における機能や役割を学ぶ。また、本科目で学んだ内容が実社会（特に地域社会）でどのように関わっているのか、実例を通して考える。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	機 械 工 学 コ ー ス	材料力学Ⅰ	材料力学は各種構造物や機器の強度設計上必要となる工学の基礎学問であるため、必要不可欠となっている。特に昨今では従来の加工法だけではなくさまざまな意匠を加えることが可能なラピッドプロトタイプングが普及し、より複雑な形状や条件に対する強度の検討が必要となっており、常に学び続けることが必要な科目である。本科目では、設計者が適切な材料の選択や適切な形状や寸法を決定するのに必要な基礎能力の習得を目的とする。	
		材料力学Ⅱ	材料力学は各種構造物や機器の強度設計上必要となる工学の基礎学問であるため、新たな加工法や新しい材料の特性に応じ、常に学び続けることが必要な科目である。本科目では材料力学Ⅰに続き、より機械要素の適切な選定や構造物の適切な形状や寸法を決定するのに必要な基礎能力の習得に加え、より複雑な形状や連続体に対するアプローチや実際の破壊事例を通じて、さまざまな状況や構造の設計に必要な基礎能力の習得を目的とする。	
		機械製図	日本工業規格（JIS）に定める「機械製図」の規格を理解し、図面を誤りなく読み、製図をするための知識と技法を修得する。製図演習では機械要素部品、機械製品を題材にして、機械要素設計で学ぶスキルと関連付けながら学習するとともに、CADを併用してコンピュータ支援による設計製図の基礎を学ぶ。また演習テーマのなかで機械製品の提案に取り組み、顧客要求に基づく新たな価値創出について考え、自ら問題発見と解決ができる力を養う。	共同
		機械要素設計	機械製品や、旋盤などの工作機械が機械要素から成り立っていることを理解し、機械や器具、あるいは装置などを合理的に、かつ経済的に設計できる基礎能力を修得する。特に機械要素の設計計算過程を主として、物体に働く力と運動、応力とひずみ、JIS規格等の関連を理解し、機械要素における寸法決定の過程を学習する。これらの機械設計で行われている計算手法を修得して、新たな価値創出を図る上で必要となる設計の基礎力を養う。	
		熱力学	エネルギーや冷暖房等、我々の生活に深く関わる熱を有効に活用するため、熱力学の基礎を学び、エネルギー保存則や自然現象の方向性といった熱力学の法則を理解することで、自然・社会・産業と結びつけた科学的思考を身につける。理想気体の状態式を用いてガスの圧力や体積、温度などの値を求める。また、理想サイクルである可逆(カルノーや冷凍)サイクルとそれらの効率や動作係数について学ぶ。さらに、エントロピーの概念について学ぶ。	
		熱工学	文明の発達に伴う人類とエネルギーの関わりについて学ぶ。また、熱力学の知識をさらに発展させ、各種熱機関における熱エネルギーを機械的仕事に変換する仕組みについて理解を深め、常に学び続ける姿勢を身につける。さらに化石燃料の枯渇化や地球温暖化、エネルギーや公害問題などの環境問題、再生可能エネルギーやコージェネレーションなどの新エネルギーシステムの知識を深め、自然・社会・産業と結びつけた科学的思考を身につけるとともに、技術者が担う社会的使命感を養う。	
		流体力学	流体機械は社会のあらゆるところで使用され流体機械の発展は社会の大きな課題を解決する力を秘めている。流体機械の原理と構造を学び、問題解決に必要な知識を習得する。流体機械として、家庭電気製品では、エアコン、冷蔵庫等のポンプがあり、自動車では、燃料ポンプや油圧ポンプ等がある。また、産業機械では、水力、火力、原子力発電所のポンプやビルの空調システムの送風機、建設機械の油圧装置システム、航空機のエンジンシステム等がある。また、航空機や船舶の運動原理や運動抵抗についても理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専 門 科 目	機 械 工 学 コ ー ス	機械工作	インベーターにふさわしい卓越した技術力を習得するため、作品製作を通して工作機械の安全利用および機械工作法と測定法の重要性を学ぶ。機械は複数の部品を組み合わせており、個々の部品を正確かつ精密につくることが重要となる。そのためには製作部品のもととなる図面や加工手順を考慮する必要がある。本科目では、工作機械の使用手法や加工に関する既知の知識をベースに2種類の作品製作を通して作業の効率化など、製作上の課題点を自ら発見し、解決しながら加工技術をより深く学習する。	共同
		計測工学	ロボットを含む自動制御システムには、状態を検知・監視するためのセンサが使われている。状態というさまざまな物理量を、どのようにして電気的な信号に換えて取り出すのか、いくつかのセンサを例にその原理としくみを学ぶ。また講義内容と連動して、センサを組み込んだ簡易な計測システムをつくり、実際に計測を試みて、より理解を深める。センサの概要を理解し、その利用法を体得することにより、技術活動に不可欠な計測ニーズに積極的に対応し、問題発見と解決ができる素養を身につける。	
		材料工学	機械技術者にとって、企業で開発設計・生産技術部門で仕事をする場合、機械材料の特徴を十分に生かし、すぐれた諸機械を作るためには、その材料の本質を理解し、正しく選定する知識が求められる。ここでは、機械材料の基礎材料である金属、セラミック、高分子、先端材料、材料試験の基本的事項について学習する。さらに応用例や省エネルギー・環境保全の問題等から機械材料への理解を深める。	
		電子回路基礎	電子回路はエレクトロニクスの技術者にとって、非常に重要な学問である。本科目では、最初にダイオードやトランジスタの基本動作を主体としたアナログ電子回路の基礎について学習する。次にバイポーラトランジスタを用いた基本増幅回路を理解することにより、アナログ電子回路の考え方や設計法を身につける。さらにFETやオペアンプの回路についてもその動作原理と回路を具体的に学習する。また、デジタル電子回路の基礎となる論理回路についても学習する。	
		制御工学	制御工学は人類の生活にとって必須の要素となっている。制御工学は機械システムのみならず、入力によりダイナミックに出力が変化する対象にはすべからず応用が可能であり、その考え方は金融などにも取り入れられ、幅広く利用されている。見えないところに使われている技術であるが、その応用は社会に大きな価値を創出しているといえる。本科目では伝達関数やブロック線図について学び理解を深める。さらに、過渡応答法、周波数応答法、PID制御法などを学び、制御系の解析や設計についても理解を深める。	
		コンピュータアーキテクチャ	コンピュータはハードウェアとソフトウェアが一体となり情報処理を行う。コンピュータアーキテクチャとは、どの処理をハードウェアで実現し、どの処理をソフトウェアで実行するかといった分担を定義するものである。本科目では、コンピュータが情報処理をどのように行うかを理解するために、コンピュータの基本構成と動作原理を習得する。また、過去から現在の最先端のコンピュータシステムの歴史もふれて、コンピュータシステム技術者として常に最先端技術を取り入れる重要性についても学ぶ。	共同
		プログラミングA	プログラムを作る作業をプログラミングと言い、現代のあらゆる分野のエンジニアにとって必要とされる重要な能力の1つである。本科目では変数、制御文、配列、関数などプログラミングの基礎概念と文法を演習を通して学習する。また、実践力を身につけるために、プログラム開発ツールの利用法等もプログラミング演習を通して学ぶ。このような演習を通して、プログラミング開発環境が提供している標準ライブラリを適切に利用し、基本的な制御構造を適切に組み合わせた基本的なプログラムを作成できる能力を身につける。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 機械工学コース 情報フロンティアコース	プログラミングB	工学の領域において、計算機は多種多様な問題を解決するために必須の道具となっている。機械工学の分野では解析・計測評価において有効であり、電気電子工学の分野では制御などで重要な役割を果たしている。あらゆる分野の技術者は、プログラミングを体系的に学び、計算機を各自の工学の分野で応用する力が必要である。本科目では、これまでに学習したプログラミングの知識と実装能力を基礎に、基本的なデータ構造とアルゴリズムを実装する力、自らが考え設計したプログラムの仕様を実現できる能力を身につけることを目標とする。	
	コンピュータ工学基礎 (Engineering Computing)	コンピュータの基礎の理解を深め、エンジニアリング方式でその理解した基礎的な事柄を使用する能力を向上させる。工学数学や解析パッケージを駆使して、エンジニアリングの問題を解決することを学んだり、特有の問題を解くためにアルゴリズムをコード化したり試したり、工夫してより明確的なプログラムを作成することを学ぶ。また、エンジニアリング解を導くため、スプレッドシートやデータベースなどを含むソフトウェアパッケージを使用することを学ぶ。	3年次の留学先での科目
	プログラミング基礎 (Programming1)	システム設計とプログラミングの基礎概念を紹介する。基本的なプログラミングの構造制御構文を使用し、複雑ではないデータ構造を理解し、そして利用すること、音声を扱うプログラミング演習をすること、論理的描写手法を使用し、それらを実力にふさわしいレベルの課題として適用すること、プログラミング言語で描写された課題を実装すること、関数や手続きとしての処理を的確に理解し実装すること、そしてアプリケーション内からファイル入出力を行う共通の方法についての利用方法を学ぶ。	3年次の留学先での科目
	プログラミング (Programming 2)	事前に提供されているコンポーネントを使用して、イベント駆動型のGUI（グラフィカルユーザインタフェース）アプリケーションを構築する。オブジェクト指向分析、設計、プログラミングに関する理論と核心を学び、手続き型プログラミング・モデルとの違いを議論する。このようなアプリケーション開発にとっての正しい設計と実装の原則を学ぶ。学生はIDEを活用してインタラクティブな、イベント駆動型のGUIアプリケーションを既存のコンポーネントを用いて開発する。そして、学んださまざまな技術・知識、言語に非依存なプラクティスについて発表を行う。	3年次の留学先での科目
	Webデザイン (Web1 - Technology and Development)	生産性、エンターテインメント、コミュニケーションに利用する幅広いWebベースのツールを学生に熟知させる。Webを使ったやり取りに関する社会的、学術的、経済的、文化的な問題について自発的に考えるように促し、Webアプリケーションに必要な機能の開発のために利用可能な技術を紹介する。ソフトウェア開発自身よりユーザーの問題に焦点を当てたプログラミング実習を行う。簡単なWebコンテンツを作成し、インターネットツールの安全かつ効果的な使い方、情報の信頼性、経済的影響、ソーシャルメディアの功罪についても学習する。	3年次の留学先での科目
	ネットワーク概論 (Introduction to Networks)	ネットワークの基礎概念とテクノロジーを紹介する。基本的な理論と簡単なネットワーク構成に必要とされる技術を扱う。データネットワークでの通信のレイヤー構造を説明し設計し計画する際のネットワークの通信規約モデルを使うこと、サブネットマスクとアドレスを適用すること、ルーターとスイッチを用いて容易なイーサネットネットワークを構築すること、装置を繋ぐための配線とネットワーク設計、基本的なルーターやスイッチの設定と検証を行うこと、トランスポート、ネットワーク層プロトコル等の特徴と分析手法を学ぶ。	3年次の留学先での科目
	ビジネスコンピューティング (Business Computing)	本科目では、学生達がビジネスで要求されることに応じるために情報工学について理解し、議論し、評価し、応用できるよう能力を身に付けることを目標とする。ビジネスで要求されることに応じるための情報システムのいくつかの部分について説明し評価すること、ビジネスで要求されることに応じるための通信技術について話し合い評価すること、コンピュータの活用方法に関する問題点を議論し、その問題を最小限にする方策を提案すること、ビジネスで要求されることに応じるための情報を得るための効果的なソフトウェアの機能を使うことを学ぶ。	3年次の留学先での科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	システム分析基礎 (Introduction to Systems Analysis)	ITおよび関連産業におけるビジネスプロセスと情報管理の基礎を学ぶ。システム分析とリレーショナル・データベースのトピックではニュージーランドのITの産業を前提に、関連するビジネスプロセスとビジネス分析を学習対象とする。また、データ構造視点からの情報システム、ソフトウェア・アーキテクチャおよびユーザー関数も対象に含まれる。そして、この学習では伝統的かつ現実的方法論を使用する。学生は情報システム設計、文書作成、情報システムの開発を学ぶ。そして、基本的なオブジェクト指向モデリングを理解し応用できるようになる。	3年次の留学先での科目
	マーケティング基礎 (Introduction to Marketing)	本科目では、現代の組織に関係する基礎的なマーケティングの概念を理解し、その実践的知識（役に立つ知識）を身につけることを目標とする。マーケティング活動に影響を与えているマーケティングの環境的要素を認識し、分析すること、対象となる市場のセグメント化、ターゲット選定、ポジショニングの概念を説明し適応すること、ビジネス界で使われているマーケティングミックスの方法を評価し魅力あるものにする、販売計画過程の要素を説明する、消費者行動に影響を与える要素を理解し、その理解したことを伝えることを学ぶ。	3年次の留学先での科目
	マネジメント (Management)	経営と組織に影響を与える要因について理解し適切に応用できるようにする。学生はマネジメントに関する様々な事を考え理解し、事例を通じて評価する。具体的には、組織の目的、組織内の問題解決と意思決定のプロセス、管理業務におけるマネジメント理論の影響と物の見方、組織文化の外部へのインパクト、経営の意思決定による社会的責任と倫理、持続可能な発展の定義、特定の状況における適切な組織構造、状況に応じたリーダーシップと動機付けの技術と効果的な委任プロセス、組織状況に応じて管理を行うためのアプローチの適用などである。	3年次の留学先での科目
	数理工学 (Engineering Mathematics)	一般的な数学の基礎を理解し、工学の問題を解決するための適切な工学数学技術を身につける。グラフを分析し、代数の表現や方程式を扱ったり解いたりし、複素数を適用したり、問題を解くために行列を使用したり、工学の問題を解くために微分や積分の数学的技法を適用したり、微分方程式を導いたり解いたりする。	3年次の留学先での科目
情報 フロン ティア コース  専 門 科 目	応用数学 I A	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、斉次や非斉次の1階と2階の線形微分方程式の一般解と特殊解を求めること、また、理学や工学において頻出する運動方程式や状態方程式を、習得した微分方程式の解法を利用して解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学 I B	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、偏微分の計算、偏微分を活用しての極値判定や接平面への応用、変数変換を用いての2重積分の計算、2重積分を活用して2曲面で囲まれる立体の体積等への応用ができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学 II A	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、行列の計算、行列・行列式を用いて連立方程式を解くこと、線形変換、固有値を用いた行列の対角化・三角化、行列の三角化を用いて微分方程式を解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	応用数学ⅡB	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、ベクトルの内積、外積、勾配、発散、回転を求めること、ベクトル関数とその微分法、ベクトルの導関数を用いて空間内の曲線や曲面などを解析することができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	制御数学	工学の分野に必要とされる数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、複素数・複素空間とその性質、複素数と複素空間、ラプラス変換とそれを用いた微分方程式の解法、フーリエ級数を求めることとフーリエ変換など、とくに制御に関わる分野に必要とされるものを学ぶことを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用物理ⅠA	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、普段の生活においても起こり得る自然現象や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。本科目では1～3年生までの間に学んだ基礎的な物理や数学を基に、物体の運動や運動の法則などの目に見えない物理現象を図や式などの見える形で表現し、工学、産業と結びついたより実際に近い問題を解決するための科学的思考と表現スキルを養う。	
	応用物理ⅠB	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、普段の生活においても起こり得る自然現象や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。本科目では1～3年生までの間に学んだ基礎的な物理や数学を基に、物体に働く力や行う仕事などの目に見えない物理現象を図や式などの見える形で表現し、工学、産業と結びついたより実際に近い問題を解決するための科学的思考と表現スキルを養う。	
	応用物理ⅡA	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、自然や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。応用物理Ⅱではこれまでに学んだ物理や数学、応用物理Ⅰを基に、より高度な自然現象に対して微分方程式を用いて理解を深めると共に、数値解法や解析といったさまざまな問題に対するアプローチや実際の開発にも用いることが可能な手法を習得し、科学的思考の素養を培う。本科目では波動を中心に音や光を対象に扱う。	
	応用物理ⅡB	応用物理学とは、物理学の中でもより工学に近い現象や問題を対象とする学問である。そのため、自然や産業、経済分野とも関わりが深く、それに伴う科学的思考が必要となる。応用物理Ⅱではこれまでに学んだ物理や数学、応用物理Ⅰを基に、より高度な自然現象に対して微分方程式を用いて理解を深めると共に、数値解法や解析といったさまざまな問題に対するアプローチや実際の開発にも用いることが可能な手法を習得し、科学的思考の素養を培う。本科目ではより高度に実現象を運動学と捉えて扱う。	
	応用化学ⅠA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠAでは、これまでに学習したことをもとに、物理化学の基礎を学習する。これにより、量子論の視点で見る化学結合の本質、熱化学の考え方と利用方法、化学反応を定量的に扱う方法、電池・電気分解を定量的に扱う方法などを理解することで、化学工学への応用にもつながる。	

情報フロンティアコース  
専門科目

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
	応用化学ⅠB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠBでは、これまでに学習したことをもとに、無機化学を学習する。これにより、周期表を手がかりとして、元素の性質・無機化合物を系統的に理解することができ、さらに金属材料や非金属材料の特徴や応用を説明できる。また、生体物質として重要なはたらきをする有機金属錯体についても取り上げる。		
専門科目	情報フロンティアコース	応用生物Ⅰ	最近の生物学領域における知識の蓄積や技術の発展は目覚しく、生命の中で起こる現象を分子レベルで解明する生化学は、医療分野での応用技術の開発も含めた生命科学として発展している。本科目では生命科学の理解に必要な基礎知識として、細胞や生体を構成する主要成分の構造や物理・化学的特性とそれらの生体における機能や役割を学ぶ。また、本科目で学んだ内容が実社会（特に地域社会）でどのように関わっているのか、事例を通して考える。	
		情報数学Ⅰ	情報量とは情報を量でとらえたものであり、高い信頼性と効率性を伴って情報の伝達や処理を行う技術に理論的基礎を与える。本科目ではまず最初に情報量とその性質について学び、さらに情報量と深い関係にあるエントロピーなどの基礎概念を学習する。そのうえで、シャノンが提案した通信系のモデルや情報源といった基本的概念および信頼性や効率性を高めるための符号化法について学ぶ。これらの学習を通じて、グローバルイノベーターにふさわしい情報学的見地からの数理的基礎を体得する。	
		情報数学ⅡA	情報量とは情報を量でとらえたものであり、高い信頼性と効率性を伴って情報の伝達や処理を行う技術に理論的基礎を与える。本科目ではまず最初に情報量とその性質について学び、さらに情報量と深い関係にあるエントロピーなどの基礎概念を学習する。そのうえで、シャノンが提案した通信系のモデルや情報源といった基本的概念および信頼性や効率性を高めるための符号化法について学ぶ。	
		情報数学ⅡB	数学や物理学で現れる重要な問題の中には連続性の関数でモデル化されるものがある。それらをコンピュータに解かせるために必要になるのが数値処理の分野である。本科目では数値計算のためのアルゴリズムや数値モデルの解を数値的に得る方法について学習する。これらの学習を通じて、同じ問題をより速く、あるいはより正確に解くための方法も学び理解する。本科目を通じてグローバルイノベーターとして不可欠な数値的解析能力を体得する。	
		プログラミング演習A	プログラムを作る作業をプログラミングと言い、情報技術者に要求される最も重要な能力の1つである。本科目では変数、制御文、配列、関数などの概念や記述といったプログラミングの基礎を学習する。理解を深めるために、プログラミング言語の文法の他にプログラム開発ツールの利用法や環境整備、デバッグ作業などを統合してプログラミングの演習を行う。このような演習を通してプログラミング開発環境が提供している標準ライブラリを適切に利用し、基本的な制御構造を適切に組み合わせた基本的なプログラムを作成できる能力を身につける。	
		プログラミング演習B	GUIアプリケーションやWEBアプリケーションなどの実社会でも身近であり、また実際の構成に近い複数のプログラムから成り立っているソフトウェアシステムや、ITの最新トレンドを意識したプログラムの開発演習を行う。この演習を通して実用的なプログラムに必要な不可欠なファイル入出力、ネットワーク、例外処理や、標準コンポーネントとしてのクラスライブラリの使い方、オブジェクト指向プログラミングの基礎知識等を学び、実装力を身につける。また、実用的または革新的なソフトウェアとは何かを考え設計する力も演習を通して身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コンピュータシステムA	コンピュータはソフトウェアとハードウェアの両方がそろって初めて動作する。情報技術者がコンピュータの能力を有効に活用するためにはソフトウェアの知識に加えて、コンピュータハードウェアの構成や基本的な動作原理を理解していなければならない。本科目では、コンピュータの基本的な構成と主要な構成要素であるCPU、メモリ、入出力装置等の機能と役割を学習すると共に、コンピュータに情報はどのようにしてデータとして蓄えられ、蓄えられたデータはどのようにコンピュータ内で表現されており、どのように処理されるのかを学ぶ。	
	コンピュータシステムB	ハードウェア資源を有効活用するソフトウェアの開発にはコンピュータアーキテクチャの知識が必要である。コンピュータアーキテクチャとは、どの処理をハードウェアで実現し、どの処理をソフトウェアで実行するかといった分担を定義するものである。本科目では、コンピュータアーキテクチャの基本構造、CPU、主記憶装置やデータバスといった主要な構成要素のしくみと役割について学ぶ。これにより、コンピュータアーキテクチャーの基礎を理解すると共にマシン語命令がどのように実行されるのかを理解する知識も身につける。	
	ネットワークシステム演習	今や情報技術者としてネットワークの知識は必須となっている。本科目では、現在のインターネット技術を支えるプロトコル群であるTCP/IPプロトコルを中心に仕組みやその働きについてOSI参照モデルとともに学習する。また、ネットワークを構築するためのネットワーク機器の役割や実際の設定方法、ルーティングやスイッチングの基礎を学習する。これらの知識を基に簡易な通信プログラムの作成、中小規模のネットワーク環境を対象としたネットワーク構成の設計、ITネットワークサービスの構築等の実習を通してネットワーク技術の理解を深める。	
	ソフトウェア工学	ソフトウェア開発者は技術的・時間的・人的・その他の様々な制約がある中で要求されている機能と品質を備えたソフトウェアを作る必要がある。本科目では、大規模で複雑なソフトウェアシステムを開発する際に直面する問題について考えると共に、効率的で信頼性の高いソフトウェア製品を実現するソフトウェア開発の手法やツールの役割について学習する。具体的にはオブジェクト指向開発の基礎概念を学び、UMLといったモデリング言語を用いた設計手法、ウォータフォールやアジャイルといった開発プロセスモデル等について学習する。	
情報 フロン ティア コース	ソフトウェア工学演習	これまで学習したソフトウェアの開発プロセスについて演習を通して理解を深める。プログラミング言語を使ったシステム開発の実習体験を通して、高い品質のソフトウェアを効率良く開発する手法と、その中でも重要なオブジェクト指向プログラミングの有用性をソフトウェア工学の視点から学び、実践できる応用力を身につける。またプロジェクト型の実習を通してチーム活動に必要なリーダーシップ、コラボレーション能力、チームとしての役割分担、そして、常に進化・発展するソフトウェア開発手法等を常に学ぶ続ける必要性と心構えを学ぶ。	
専門 科目	データベース	今日、情報システムが扱うデータの量は膨大であり、データ量は日々増大している。このような背景からデータ処理の中心的役割を担うデータベースは益々重要なものとなってきている。本科目では、正しいデータモデリングを設計し、適切なデータ処理が行える技術の修得を主な学習目標としている。そのためにリレーショナルデータベースを中心にデータベースの概論とSQL言語を学ぶ。加えてトランザクション管理、障害回復機能、性能設計など、リレーショナルデータベース・マネジメントシステムの基本機能についても学習し理解を深める。	
	データ構造とアルゴリズム	与えられた問題を解くための手順をアルゴリズムといい、データの保持方式をデータ構造という。効率の良いソフトウェアを開発するためには、優れたアルゴリズムとそれに適したデータ構造を用いる必要がある。既存の知識を活用することでこれらを達成できる場合が多い。本科目では、基本的な問題に対する典型的アルゴリズムと典型的データ構造についてその原理・性能に関する基礎知識を獲得することを目的とし、複雑な現代社会を分析しながら本質を理解する思考を涵養する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	オペレーティングシステム	<p>コンピュータを動作させるときの最も基本的なソフトウェアであり、さまざまなアプリケーションやソフトウェアシステムの共通プラットフォームであるオペレーティングシステムについて学ぶ。ハードウェアのリソース管理、ファイルシステム、プロセス・スレッド管理、システムコール、仮想記憶方式といったオペレーティングシステムの基本機能、構成するコンポーネントについて理解し、オペレーティングシステムの基本概念についての知識を身につける。またCUIを対象とした操作実習を通じて学んできた知識の理解を深め実践力を身につける。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
----------	---------	--------	----

今日、文字・音・画像・動画などのメディア情報が大量にコンピュータで処理され実社会で活用されている。本科目では、メディア情報

#### メディア情報

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 応用化学コース	コンピュータ工学基礎 (Engineering Computing)	コンピュータの基礎の理解を深め、エンジニアリング方式でその理解した基礎的な事柄を使用する能力を向上させる。工学数学や解析パッケージを駆使して、エンジニアリングの問題を解決することを学んだり、特有の問題を解くためにアルゴリズムをコード化したり試したり、工夫してより明確なプログラムを作成することを学ぶ。また、エンジニアリング解を導くため、スプレッドシートやデータベースなどを含むソフトウェアパッケージを使用することを学ぶ。	3年次の留学先での科目
	プログラミング基礎 (Programming1)	システム設計とプログラミングの基礎概念を紹介する。基本的なプログラミングの構造制御構文を使用し、複雑ではないデータ構造を理解し、そして利用すること、音声を扱うプログラミング演習をすること、論理的描写手法を使用し、それらを実力にあわせてレベルの課題として適用すること、プログラミング言語で描写された課題を実装すること、関数や手続きとしての処理を的確に理解し実装すること、そしてアプリケーション内からファイル入出力を行う共通の方法についての利用方法を学ぶ。	3年次の留学先での科目
	プログラミング (Programming 2)	事前に提供されているコンポーネントを使用して、イベント駆動型のGUI (グラフィカルユーザインタフェース) アプリケーションを構築する。オブジェクト指向分析、設計、プログラミングに関する理論と核心を学び 手続き型プログラミング・モデルとの違いを議論する。この様なアプリケーション開発にとっての正しい設計と実装の原則を学ぶ。学生はIDEを活用してインタラクティブな、イベント駆動型のGUIアプリケーションを既存のコンポーネントを用いて開発する。そして、学んださまざまな技術・知識、言語に非依存なプラクティスについて発表を行う。	3年次の留学先での科目
	Webデザイン (Web1 - Technology and Development)	生産性、エンターテインメント、コミュニケーションに利用する幅広いWebベースのツールを学生に熟知させる。Webを使ったやり取りに関する社会的、学術的、経済的、文化的な問題について自発的に考えるように促し、Webアプリケーションに必要な機能の開発のために利用可能な技術を紹介する。ソフトウェア開発自身よりユーザーの問題に焦点を当てたプログラミング実習を行う。簡単なWebコンテンツを作成し、インターネットツールの安全かつ効果的な使い方、情報の信頼性、経済的影響、ソーシャルメディアの功罪についても学習する。	3年次の留学先での科目
	ネットワーク概論 (Introduction to Networks)	ネットワークの基礎概念とテクノロジーを紹介する。基本的な理論と簡単なネットワーク構成に必要なとされる技術を扱う。データネットワークでの通信のレイヤー構造を説明し、設計し計画する際のネットワークの通信規約モデルを使うこと、サブネットマスクとアドレスを適用すること、ルーターとスイッチを用いて容易なイーサネットネットワークを構築すること、装置を繋ぐための配線とネットワーク設計、基本的なルーターやスイッチの設定と検証を行うこと、トランスポート、ネットワーク層プロトコル等の特徴と分析手法を学ぶ。	3年次の留学先での科目
	応用数学 I A	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、斉次や非斉次の1階と2階の線形微分方程式の一般解と特殊解を求めること、また、理学や工学において頻出する運動方程式や状態方程式を、習得した微分方程式の解法を利用して解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	
	応用数学 I B	工学の分野に必要とされる解析系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、偏微分の計算、偏微分を活用しての極値判定や接平面への応用、変数変換を用いての2重積分の計算、2重積分を活用して2曲面で囲まれる立体の体積等への応用ができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用化学コース	応用数学ⅡA	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、行列の計算、行列・行列式を用いて連立方程式を解くこと、線形変換、固有値を用いた行列の対角化・三角化、行列の三角化を用いて微分方程式を解くことができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。
		応用数学ⅡB	工学の分野に必要とされる空間構造系の数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、ベクトルの内積、外積、勾配、発散、回転を求めること、ベクトル関数とその微分法、ベクトルの導関数を用いて空間内の曲線や曲面などを解析することができるようになることを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。
		制御数学	工学の分野に必要とされる数学を学び、その内容を習得すること、具体的には、複素数・複素空間とその性質、複素数と複素空間、ラプラス変換とそれを用いた微分方程式の解法、フーリエ級数を求めることとフーリエ変換など、とくに制御に関わる分野に必要とされるものを学ぶことを目的とする。さらには、これらの内容を用いて他の工学系の専門科目の理解をより深めるとともに、得られた知識を科学や工学において主体的に活用する姿勢を育成することを目指す。
		応用化学ⅠA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠAでは、これまでに学習したことをもとに、物理化学の基礎を学習する。これにより、量子論の視点で見る化学結合の本質、熱化学の考え方と利用方法、化学反応を定量的に扱う方法、電池・電気分解を定量的に扱う方法などを理解することで、化学工学への応用にもつながる。
		応用化学ⅠB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅠBでは、これまでに学習したことをもとに、無機化学を学習する。これにより、周期表を手がかりとして、元素の性質・無機化合物を系統的に理解することができ、さらに金属材料や非金属材料の特徴や応用を説明できる。また、生体物質として重要なはたらきをする有機金属錯体についても取り上げる。
		応用化学ⅡA	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅡAでは、有機化学の基礎について学習する。有機化合物は、構成する元素の数が少ないが、その種類は非常に多い。本科目では、有機化学の基礎として、炭化水素を中心に、有機化合物の分類、命名法、性質、諸反応を理解し、有機合成の予測ができるようになる。
		応用化学ⅡB	日進月歩の生命・環境の分野を学習する上で、重要な教科が化学である。応用化学Ⅰ・Ⅱの学習を通して、物質や生命現象の化学的な見方とそれらを分析する力を身につけることを目標とする。応用化学ⅡBでは、ⅡAに引き続き有機化学の基礎について学習する。本科目では、酸素を含む有機化合物の分類、命名法、性質、諸反応を理解し、有機合成の予測ができるようになる。さらに、生命活動に重要な役割を果たす炭水化物、アミノ酸、タンパク質、脂質についても学習する。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 応用化学コース	応用生物Ⅰ	最近の生物学領域における知識の蓄積や技術の発展は目覚しく、生命の中で起こる現象を分子レベルで解明する生化学は、医療分野での応用技術の開発も含めた生命科学として発展している。本科目では生命科学の理解に必要な基礎知識として、細胞や生体を構成する主要成分の構造や物理・化学的特性とそれらの生体における機能や役割を学ぶ。また、本科目で学んだ内容が実社会（特に地域社会）でどのように関わっているのか、実例を通して考える。	
	応用生物Ⅱ	基礎生化学で学んだ細胞内で機能する生体分子（核酸とタンパク質）に加えて、糖質と脂質の構造と性質について学ぶ。さらにそれぞれの生体分子がどのように代謝されてエネルギーが産み出されているのか、その概要をとらえ、生命の仕組みを理解する。また、植物がどのようにして光合成により光エネルギーを生命維持に必要な化学エネルギーに変換するのか、またこの化学エネルギーを利用してどのようにグルコースを合成するのか理解する。	
	化学と安全	化学における教育、研究では実験が主要な役割を果たし、応用化学における教育カリキュラムでも実験の重要度が高くなっている。化学実験では危険性の伴う物質や機器を取り扱うことが多く、扱い方のミスから重症を負い、生命に危険が及ぶこともある。これらのミスは知識不足から起こることが多く、化学実験を行う際には取り扱う物質、機器について、危険防止のための最低限の知識を習得しておくことが必要である。本科目では化学実験を安全に行うために必要な知識を習得する。	
	応用化学実験・演習A	化学と安全で学習した内容をもとに、実験に適した服装・保護具を正しく着用し、実験用具を正しく用いて、安全に実験を行うことができる。また、実験指示書に記載されている内容を理解し、主体的に実験を実施する事ができる。加えて実験方法、ならびに実験中に観察された現象の論理的考察を記述した報告書を作成し、期限内に提出できる。これらの活動を通じ、授業科目において学習した内容を実験により検証・報告する経験を積むことにより、総合的な実験遂行能力を習得する。	※実験 演習 30時間 実験 30時間
	応用化学実験・演習B	化学と安全で学習した内容をもとに、実験に適した服装・安全具を正しく着用し、実験用具を正しく用いて、安全に実験を行うことができる。また、実験指示書に記載されている内容を理解し、主体的に実験を実施する事ができる。加えて実験方法、ならびに実験中に観察された現象の論理的考察を記述した報告書を作成し、期限内に提出できる。これらの活動を通じ、授業科目において学習した内容を実験により検証・報告する経験を積むことにより、総合的な実験遂行能力を習得する。	※実験 演習 30時間 実験 30時間
	物質の状態と反応	物質を生成する化学工学において、化学反応や物質の状態を制御することが重要である。本科目では熱力学的観点から物質の状態、化学平衡および反応速度を理解する。相図、凝固・融解・昇華、蒸気圧、混合物、沸点上昇と凝固点降下、エントロピー、エンタルピー、ギブズエネルギーおよびアレニウス式等を統合的に理解し、これらを記述することができるのと同時に、その理解に基づき応用的な問題に対する解答を導けることを目標とする。	
	化学工学	化学工学は、幅広い視野に立って、持続可能な社会のための物質とエネルギーの生産システム・物質循環システムを構築するということを目的とする学問である。本科目では、これまで学習した化学や生物の内容をもとに、化学工学の基礎を学習する。物質やエネルギーの収支や化学平衡と反応速度、移動現象、化学装置・プロセス設計方法などの計算方法を理解することで、環境や材料、バイオ分野における問題解決の手法を身につける。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 応用化学コース	材料工学	工業製品は、高性能・高機能化が追求されるのと同時に、環境に対するさまざまな配慮が求められている。工業製品の根幹を支える材料の物理的・化学的性質は、材料の内部構造と密接に結びついているので、新たな工業製品を生み出すには材料の本質を理解する必要がある。そのため、本科目では、金属やプラスチック、セラミックスなどの材料の基本特性や、結晶の幾何学、材料評価試験法などを学習する。	
	エネルギー電気化学	電気化学は、電子のやり取りを伴う化学現象を扱う学問である。応用範囲は電池、電気分解による物質合成、化学センサ、表面処理（めっき等）と多岐にわたる。これら応用範囲も含めた電気化学を理解するためには、電気分解の進み方などの電気化学系を正しく理解した上で、標準電極電位、ネルンストの式などを習得する必要がある。本科目では、まず電気化学の基礎となる考え方、概念、式を学習した後、電池、電気分解による物質合成、めっきなどの応用技術を学習する。	
	電気電子材料	電気機器では、磁性材料、導電体材料、絶縁材料が重要な構成要素である。電力用ケーブルには、各種導電体材料、高分子系絶縁体材料が組み合わされ利用されている。また、電気制御分野ではパワーエレクトロニクスが大きな部分を占め、コンピュータ制御は常識になっている。そこでは、半導体材料を中心に各種電子デバイスが大量に利用されている。本科目では、化学で学習した原子の構造や原子の結合の理論を用いて、各種電気電子材料および磁性材料の種類や特性を理解する。	
	物性工学	電子素子の動作原理を理解するために、誘電体、磁性体、半導体の基礎物性を学修する。誘電体では圧電性や焦電性の基礎物性と応用、磁性体では硬質および軟質強磁性体の基礎物性と応用、半導体では量子物理に従い結晶中の電子の挙動を学修する。特に、水素原子についてのシュレーディンガー波動方程式の解の物理的意味、バンド理論を用いた固体の電気伝導、各種半導体の構造と電気伝導機構を学修する。また、無機・有機材料に対する理解を深めるために量子化学に従い化学反応と電子軌道の関係を学修する。	
	分析化学	化学産業や環境工学において、物質を定性的、定量的に正確に同定することは、非常に重要である。化学的な現象や物理的な現象を利用して、これらのことを探求する方法を学ぶ。本科目では、酸塩基滴定、沈殿形成反応と溶解度積の計算、キレート滴定、酸化還元滴定について学習する。それにより、現在さまざまな場面で活躍する分析機器の原理を理解することができる。	
	環境化学	環境化学は、地球環境中における物質とエネルギーの循環、ならびに挙動、およびそれらに連携して引き起こされる化学反応を解明し、環境と調和のとれた社会の構築を目指す科学である。本科目では、地球の各圏における物質とエネルギー循環ならびに挙動、それらに関連した科学反応の基礎を学習する。そして、地球構造と地球環境の関係、地球のエネルギー収支、環境中の炭素や窒素、そして水の循環、酸性雨の問題、エネルギー問題について理解し、説明することができる。	
	高分子化学	高分子は人類の現代生活を支える必需品として、産業の基幹となる材料として、さらに化学・繊維から医療や電子産業、航空宇宙分野まで、豊かな社会と先端技術を実現する機能材料である。21世紀に入って、高分子が活躍する分野はますます拡大し、人間社会における重要性も増している。本科目では、これまで学習した有機化学をもとにして、高分子の物性、合成法などを学び、機能材料としての応用面について理解できることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	応用化学コース	コンピュータアーキテクチャ	共同
		プログラミングA	共同
		プログラミングB	

1・2年次

1st and 2nd Years

修得最低単位数 38単位  
Minimum Credit Requirement : 38 credits

修得最低単位数 38単位  
Minimum Credit Requirement : 38 credits

		1年次 1st Year		2年次 2nd Year	
		前学期 1st Semester	後学期 2nd Semester	前学期 1st Semester	後学期 2nd Semester
特別活動 Special Activities		特別活動 ESDI (地域プロジェクト) Special Activities ESD I (Education for Sustainable Development)		特別活動 ESDII (地域プロジェクト) Special Activities ESD II (Education for Sustainable Development)	
教養科目 General Education Courses	人文社会 Humanities	国語表現IA Japanese Language Expression IA (1) 英語表現IA English Expression IA (1) 文学I Japanese Literature I (1) 世界文学I World Literature I (1)	国語表現IB Japanese Language Expression IB (1) 英語表現IB English Expression IB (1)	国語表現IIA Japanese Language Expression IIA (1) 英語表現IIA English Expression IIA (1)	国語表現IIB Japanese Language Expression IIB (1) 英語表現IIB English Expression IIB (1) 文学II Japanese Literature II (1) 世界文学II World Literature II (1)
	保健体育・他 Health and Physical Education	保健体育IA Health and Physical Education IA (1)	保健体育IB Health and Physical Education IB (1) ビジュアルアーツI Visual Arts I (1) パフォーマンスアーツI Performing Arts I (1)	保健体育IIA Health and Physical Education IIA (1) ビジュアルアーツII Visual Arts II (1) パフォーマンスアーツII Performing Arts II (1)	保健体育IIB Health and Physical Education IIB (1)
	第二言語 Second Language	リーディング・ライティングIA English Reading and Writing IA (1) 日本語IA Japanese IA (5) リスニング・スピーキングIA English Listening and Speaking IA (2) ブリッジングリッシュ Bridge English (2)	リーディング・ライティングIB English Reading and Writing IB (1) 日本語IB Japanese IB (2) リスニング・スピーキングIB English Listening and Speaking IB (1)	リーディング・ライティングIIA English Reading and Writing IIA (1) 日本語II Japanese II (2) リスニング・スピーキングIIA English Listening and Speaking IIA (1) 海外英語研修 Overseas English Program (4)	リーディング・ライティングIIB English Reading and Writing IIB (1) 日本語コミュニケーション Japanese Communication (3) リスニング・スピーキングIIB English Listening and Speaking IIB (2)
	自然科学 Natural Science	解析基礎A PreCalculus A (2) 基礎数学A Fundamental Mathematics A (2) 物理IA Physics IA (1) 化学IA Chemistry IA (1) 生物IA Biology IA (1)	解析基礎B PreCalculus B (2) 基礎数学B Fundamental Mathematics B (2) 物理IB Physics IB (2) 化学IB Chemistry IB (2) 生物IB Biology IB (1)	微分・積分A Calculus A (2) 代数・幾何学A Algebra and Geometry A (2) 物理IIA Physics IIA (2) 化学IIA Chemistry IIA (2) 生物IIA Biology IIA (1)	微分・積分B Calculus B (2) 代数・幾何学B Algebra and Geometry B (2) 物理IIB Physics IIB (2) 化学IIB Chemistry IIB (2) 生物IIB Biology IIB (1)
専門科目 Specialized Courses	共創科目 Co-creation	エンジニアリングデザインIA Engineering Design IA (2) エンジニアリングコンテキストIA Engineering Context IA (1)	エンジニアリングデザインIB Engineering Design IB (2) エンジニアリングコンテキストIB Engineering Context IB (1)	エンジニアリングデザインIIA Engineering Design IIA (2) エンジニアリングコンテキストIIA Engineering Context IIA (1)	エンジニアリングデザインIIB Engineering Design IIB (2) エンジニアリングコンテキストIIB Engineering Context IIB (1)
	IT IT Literacy	コンピュータスキルズIA Computer Skills IA (1)	コンピュータスキルズIB Computer Skills IB (1)	コンピュータスキルズIIA Computer Skills IIA (1)	コンピュータスキルズIIB Computer Skills IIB (1)

English STEM教育 English STEM Education Courses

※赤字の科目は海外からの入学者や日本語の修得が不十分な帰国生、留学生対象の科目です。人文社会科目では、主に英語表現や文化歴史の科目を英語で学び、第二言語では、日本語の修得をめざします。

The courses in red are for international students and Japanese returnees whose English is stronger than their Japanese. For such students, language arts and humanities courses are offered in English, and Japanese as a foreign language is offered in place of English language courses.

必修科目(単位)  
Required Courses (credit)

選択科目(単位)  
Elective Courses (credit)

English STEM教育科目  
English STEM Education Courses

選択必修科目(単位)  
Compulsory Elective Courses (credit)

オタゴポリテクニク科目(単位)  
Otago Polytechnic Courses (credit)

# 3年次

3rd Year

修得最低単位数 32単位

Minimum Credit Requirement : 32 credits

ニュージーランド留学 Study in New Zealand	<b>3年次 3rd Year</b>
	科目名 Course Name

企業インターンシップ／企業プロジェクト Internship at Company / Project with Company
---

教養科目 General Education Courses	人文社会 Humanities	留学直前集中講義 Intensive course before studying abroad
		グローバルスタディーズ Global Studies (2)
		生活と文化 Global Life and Culture (4)
第二言語 Second Language		ファンクショナルイングリッシュ Functional English (3)
		テクニカルイングリッシュ Engineering Communication (4)

共創科目 Co-creation		エンジニアリングデザインⅢ Engineering Design III (8)
		工学基礎実技 Engineering Practice (3)

専門領域 Specialized Field	数理工学 Engineering Mathematics (4)
	プログラミング基礎 Programming 1 (4)
	コンピュータ工学基礎 Engineering Computing (4)
	電気回路I Electrical Principles (4)
	電子工学 Electronic Principles (4)
	電力工学 Elements of Power Engineering (4)
	ネットワーク概論 Introduction to Network (4)
	工業力学 Engineering Mechanics (4)
	機械設計製図法 Engineering Design & Drawing (4)
	熱伝導工学 Thermodynamics and Heat Transfer (4)
	流体工学 Fluid Mechanics (4)
	材料科学 Material Science (4)
	電気基礎 Electrical Fundamentals (4)
	プログラミング Programming 2 (4)
	Webデザイン Web1 - Technology & Development (4)
	ビジネスコンピューティング Business Computing (4)
	システム分析基礎 Introduction to Systems and Analysis (4)
マーケティング基礎 Introduction to Marketing (4)	
マネジメント Management (4)	

専門科目  
Specialized Courses

ニュージーランド留学 Study in New Zealand
---------------------------------



ニュージーランド国立オタゴポリテクニク Otago Polytechnic in New Zealand

### 【グローバルスタディーズ Global Studies】

1年間のニュージーランド留学を充実したものにするため、留学に必要な事前準備を行います。円滑にホームステイを送るために必要な英語力や異文化理解、他者への尊敬と思いやりの気持ちを養います。現地の地理的、文化的な様子やキャンパスでのアクティビティの状況を自ら調査し、現地での生活をより快適に、また活発にするために活用します。現地で受講する科目の予習も行います。

In order for students to fully benefit from their academic year in New Zealand, we provide preparatory training in advance. This includes gaining a sufficient level of English for a smooth homestay experience and learning to respect and be compassionate to others. Students individually study the local geography, culture, and activities of their future campus area. This information is valuable for living a comfortable life there. They also prepare for the courses they will take.

### 【ファンクショナルイングリッシュ Functional English】

ニュージーランドでの生活や現地授業において、順調に過ごすために必要なスキルを身につけます。英語独特の話し方を学び、日々の生活の中で、各自が効果的にコミュニケーションを図れるようにしていきます。異文化環境の中で順応しながら、慣れ親しんだ状況、またそうでない状況においても、他者を理解し自分の意見や考えを表現できるようにしていきます。チームで協働し、コミュニケーション力、交渉力、考えを発展させる力を身に付け、多文化チームプロジェクトにおいても協力し合うことを学びます。

Students will learn the necessary skills to live a smooth life in New Zealand. They will learn the characteristics of spoken English and how to effectively communicate in their everyday life. The ability to adapt to a foreign environment and communicate their thoughts and feelings in familiar/unfamiliar circumstances will improve their skills in teamwork, communication, negotiation, cognitive thinking, and cooperating in a multi-cultural team project.

### 【エンジニアリングデザインⅢ Engineering Design III】

技術的、工学的知識を総合的に理解します。自分たちが選んだ分野で、教員や学生たちと協働を重ねながら設計概要をまとめ、それに沿った製作活動、システム作成を行います。製作目的や製作過程の説明文書を作成するとともに、プロトタイプ、コンピューターモデル、コンピューターシステム制作を行います。さまざまなプレゼンテーション技術を用い、プロジェクトの成果を学生、教員または企業の方々に英語で発表を行います。

Students will gain an integrated knowledge of technology and engineering. Through repeated discussions with instructors and team members they choose and define a project area and prepare a design. This is followed by the production process and system creation. Students prepare reports on the purpose and manufacturing process of the project while building actual prototypes, computer models, and/or computer systems. The outcomes of these projects are presented to other students, teachers, and corporations in various formats using English.

### 【工学基礎実技 Engineering Practice】

CAD、3Dモデリングなどを用いて数学や物理の知識を実際に応用していくことを学びます。Students learn to apply their knowledge in mathematics and physics through practice with CAD and 3D modeling.

### 【専門領域 Specialized Field】

選択必修科目から2科目、選択科目から1科目を履修します。

Students choose two Compulsory Elective Courses and one Elective Course.

# 4・5年次

4th and 5th Years

修得最低単位数 32単位  
Minimum Credit Requirement : 32 credits

修得最低単位数 27単位  
Minimum Credit Requirement : 27 credits

4年次 4th Year	
前学期 1st Semester	後学期 2nd Semester

5年次 5th Year	
前学期 1st Semester	後学期 2nd Semester

特別活動 Special Activities	特別活動 Special Activities	人間と自然 I Humanity and Nature I	特別活動 Special Activities	人間と自然 II Humanity and Nature II
インターンシップ Internship	インターンシップ I Internship I (1)		インターンシップ II Internship II (1)	アントレプレナーシップ Entrepreneurship (1)

教養科目 General Education Courses	人文社会 Humanities	アカデミックライティング Academic Writing (1)	社会科学 Social Science (2)	人文科学 Humanities (2)	心理学 Psychology (2)
	保健体育・他 Health and Physical Education	保健体育ⅢA Health and Physical Education IIIA (1)	保健体育ⅢB Health and Physical Education IIIB (1)		
	第二言語 Second Language	総合英語IA Comprehensive English IA (1)	総合英語IB Comprehensive English IB (1)	総合英語IIA Comprehensive English IIA (1)	総合英語IIB Comprehensive English IIB (1)
	自然科学 Natural Science	数理統計 Mathematical Statistics (2)			

共創科目 Co-creation	エンジニアリングデザインⅣA Engineering Design IV A (2)	エンジニアリングデザインⅣB Engineering Design IV B (2)	エンジニアリングデザインⅤA Engineering Design V A (2)	エンジニアリングデザインⅤB Engineering Design V B (2)
工学基礎 Basic Engineering	応用数学IA Applied Mathematics IA (2)	応用数学IB Applied Mathematics IB (2)	応用数学IIA Applied Mathematics IIA (2)	応用数学IIB Applied Mathematics IIB (2)
	制御数学 Engineering Mathematics (2)		制御数学 Engineering Mathematics (2)	
	応用物理IA Applied Physics IA (2)	応用物理IB Applied Physics IB (2)	応用物理IIA Applied Physics IIA (2)	応用物理IIB Applied Physics IIB (2)
	応用化学IA Applied Chemistry IA (2)	応用化学IB Applied Chemistry IB (2)	応用化学IIA Applied Chemistry IIA (2)	応用化学IIB Applied Chemistry IIB (2)
	応用生物I Applied Biology I (2)		応用生物II Applied Biology II (2)	
<b>English STEM教育 English STEM Education Courses</b>				

専門領域 Specialized Field	電気回路IA Electric Circuits IIA (2)	電気回路IB Electric Circuits IIB (2)	電子回路 Electronic Circuits (2)	電気電子機器 Electrical Machinery and Electronic Applications (2)
	電気磁気学A Electromagnetics A (2)	電子回路基礎 Basic Electronic Circuits (2)	電気電子材料 Electric and Electronic Materials Engineering (2)	電気電子計測工学 Electrical and Electronic Instrumentation Engineering (2)
	機械製図 Technical Drawing (2)	電気磁気学B Electromagnetics B (2)	材料力学II Mechanics of Materials II (2)	制御工学 Control Engineering (2)
	機械工作 Machining (2)	材料力学I Mechanics of Materials I (2)	計測工学 Measurement Engineering (2)	情報数学II Information Mathematics IIB (2)
	情報数学I Information Mathematics I (2)	コンピュータシステムB Computer System B (2)	情報数学IIA Information Mathematics IIA (2)	データベース Database (2)
	コンピュータシステムA Computer System A (2)	ソフトウェア工学 Software Engineering (2)	ソフトウェア工学演習 Software Engineering Lab (2)	企業会計 Business Accounting (2)
	化学と安全 Fundamental of Laboratory Safety (2)	データ構造とアルゴリズム Data Structures and Algorithms (2)	ビジネス概論 Introduction to Management (2)	応用化学実験・演習B Applied Experiment and Practice in Chemistry B (3)
	物質の状態と反応 Chemistry of Phase and Reaction (2)	化学工学 Chemical Engineering (2)	応用化学実験・演習A Applied Experiment and Practice in Chemistry A (3)	高分子化学 Polymer Chemistry (2)
		分析化学 Analytical Chemistry (2)	プログラミングA Programming A (2)	
		コンピュータアーキテクチャ Computer Architecture (2)		
	プログラミング演習A Programming Lab A (2)	機械要素設計 Design of Machine Element (2)	過渡現象 Transient Phenomena (2)	材料工学 Materials Engineering (2)
	熱力学 Thermodynamics (2)	熱力学 Thermodynamics (2)	電気製図 Drawing Skills in Electrical Engineering (1)	物性工学 Physical Electronics (2)
	流体力学 Fluid Mechanics (2)	流体力学 Fluid Mechanics (2)	熱工学 Thermal Engineering (2)	ネットワークシステム演習 Network Systems Lab (2)
	プログラミング演習B Programming Lab B (2)	プログラミング演習B Programming Lab B (2)	オペレーティングシステム Operating System (2)	メディア情報 Media Informatics (2)
	エネルギー電気化学 Electrochemistry for Energy Conversion and Storage (2)	エネルギー電気化学 Electrochemistry for Energy Conversion and Storage (2)	環境化学 Environmental Chemistry (2)	ビジネス特論 Advanced Topics in Business (2)
				プログラミングB Programming B (2)

# 9.修学について

## 9.1 学年・学期・休業日について

### 学年・学期

学年は4月1日から3月31日までをいい、前学期、後学期に分けられています。  
また、1年間の授業を行う期間は、定期試験の期間を含め、35週にわたることが原則として定められています。

### 授業日・休業日

本年度の授業日・休業日は次のとおりです。

前学期授業日 2019年4月1日から9月8日まで  
後学期授業日 2019年9月25日から2020年3月31日まで

夏期休業日 8月8日から9月8日まで  
冬期休業日 12月26日から1月6日まで  
学年末休業日 3月4日から3月31日まで

なお、上記休業日中に集中講義・補講などを実施することがあります。

### 緊急の変更に関する連絡方法について

台風、地震、大雪その他の理由により緊急に臨時休業あるいは授業開始時刻・終了時刻を変更する場合は、本校のホームページおよびメール配信にて連絡します。

#### 【ホームページ】

<https://www.ict-kanazawa.ac.jp/k.html>  
(QRコード読み込みも可能です)



状況により、ホームページの更新ができない場合もありますので、承知おきください。

#### 【メール配信】

年度ごと登録をお願いしております。登録の時期になりましたら本校より案内しますので、ご希望の方は案内に沿って登録ください。

## 9.2 授業について

### 授業時間

授業は各学級ごとに編成されている授業時間割に従い、1週間を区切りとして行われます。

時限	時間帯
第1限	8：40～10：20
第2限	10：30～12：10
昼 食	
第3限	13：00～14：40
第4限	14：50～16：30
ラーニングセッション	19：30～21：30

### ラーニングセッション

ラーニングセッションの時間は、全員が必修とするアクティブラーニングの時間です。「Library and Work Commons」に集まり、ラーニング・メンターが当日の振り返り、翌日以降の学習準備のほか、寮生同士のチーム学習などを必要に応じてサポートします。確実な学習の定着、能力獲得に向け、有効に利用してください。

### 授業時間割の変更

授業時間割に変更があるときは、その都度伝達します。

### 欠席・欠課の届け

単位を修得するためには、授業に出席することが前提となります。やむを得ない事情がある場合でも、欠課が定められた授業時間数の5分の1を超えた場合は単位が与えられません。

各授業開始時刻より後に入室する場合は遅刻、各授業終了時刻より前に退室する場合は早退とします。

### 出席扱い

下記に該当する欠席、欠課は出席扱いとなりますので、担任に申し出てください。

#### 慶弔による出席扱い

兄弟・姉妹の結婚	1日
父母、兄弟・姉妹の法要	1日
父母の忌引	7日
祖父母、兄弟・姉妹の忌引	3日
祖々父母、伯叔父母、従兄弟・従姉妹の忌引	1日
その他の家族の忌引	1日

#### その他の理由による出席扱い

公用によるもの
天災および交通機関の事故によるもの
国家試験・就職試験の受験によるもの
公認対外活動によるもの
上記以外に校長が認めたもの

## 授業について

### 出席停止および出席停止期間の基準

本校では、学校保健安全法に基づき下記の感染症に罹患した場合は授業に出席できないことになっています（出席停止扱いとなり、欠席にはなりません）。医師の指示に従い療養され、医師より登校の許可が出てから、本校所定の「病欠証明書」（本校事務局にて配付）に医師が記入したもの、または医療機関発行の「診断書」を持参し、学級担任に提出してください。

分類	特徴	該当する感染症	出席停止期間
第1種	発生は稀だが重大な感染症	エボラ出血熱、クリミア、コンゴ熱、痘瘡、南米出血熱、ペスト、マールブルグ熱、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1型）、指定感染症、新感染症、新型インフルエンザなど感染症	治癒するまで。
第2種	飛沫感染し流行拡大の恐れがある感染症	インフルエンザ （鳥インフルエンザ（H5N1型）を除く）	発症した後（発熱の翌日を1日目として）5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。
		百日咳	特有の咳が消失するまで、または5日間の適切な抗菌薬療法が終了するまで。
		麻疹	発疹を伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで。
		流行性耳下腺炎	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が発現した後5日間を経過し、かつ、全身状態が良好になるまで。
		風疹	発疹が消失するまで。
		水痘	すべての発疹が痂皮化するまで。
		咽頭結膜熱	主要症状が消退したあと2日を経過するまで。
		結核	病状により学校医その他医師において感染の恐れがないと認めるまで（目安として、異なった日の喀痰塗末検査の結果が連続して3回陰性となるまで）。
第3種	飛沫感染が主体ではないが流行性拡大の恐れがある感染症	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、急性流行性角結膜炎	病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで。
		その他の感染症 ノロウイルス・ロタウイルス感染症、マイコプラズマ感染症 他	校長が学校医の意見を聞き期間を決定する。本校では発症後5日を原則とするが、症状により延長する場合もある。

## 9.3 試験について

授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するための資料として試験が行われます。試験の種類には定期試験（学期末試験）、再試験、追試験、単位追認試験、その他の試験があります。

正当な理由なく試験を欠席した場合、または懲戒処分のため試験を欠席した場合、当該科目の試験の成績を0点とします。

なお、試験中不正行為をした者は、当該試験期間に行われるすべての科目の試験の成績が0点となります。不正行為により試験の成績を0点とした場合は、追試験、再試験の対象にはなりません。

### 定期試験

定期試験は、各学期末に行われます。

2019年度の定期試験日程は、次のとおりです。

前学期末試験	8月1日から8月3日まで
後学期末試験	1月29日から1月31日まで

### 再試験

再試験は、定期試験を実施した科目の評点が不合格であった者について実施することがあります。

### 追試験

追試験は、法定伝染病の罹患や部活動による対外試合など、やむを得ない事由によって定期試験を受けることのできなかつた者に対して実施することがあります。

### 単位追認試験

単位追認試験は、進級が認められた者で、当該学年までに取得しているべき単位を取得できなかった科目について実施することがあります。

### その他の試験

その他の試験は、中間テストや小テスト、成績不振者を対象とした補習テストなど、科目担当者が必要と認めた場合に実施することがあります。

# 9.4 成績について

## 単位

授業課程表には、各授業科目の授業時間数に対応する量を「単位」として表示してあります。原則として、50分の授業を30回行うと1単位として計算します。この様な方法で計算される単位を「履修単位」と呼びます。なお、一部の科目については50分の学習45回で1単位と計算します。その45回のうち30回分の学習は予習・復習など授業時間外で行い、授業は15回行うことを標準とします。このような方法で計算された単位を「学修単位」とよび、一般に大学で用いられています。

## 単位認定と成績評価

各授業科目の成績評価は、試験の成績、平素の学習状況、出席状況を勘案して、学習支援計画書（シラバス）の評価基準に従って行います。

各科目の成績はそれぞれの科目担当教員が評価します。授業時間数の5分の4以上出席している者について、その科目の履修を終了したものと認め、100点を満点とする評点により評価し、評点が60点以上の科目について、その科目の単位を修得したものと認定します。この評点は下表の区分により評定され、指導要録および成績証明書などに記載されます。

再試験又は単位追認により単位を修得した場合の当該科目の評点は60点とします。

## 学業成績の評価

評点	100~90	89~80	79~70	69~60	59~0	0
評定	S (秀)	A (優)	B (良)	C (可)	D (成績不可)	F (出席不良)
評価	4	3	2	1	0	0

## GPA について

GPA (Grade Point Average) とは、個々の科目の成績評価に基づき、全履修科目における1単位当たりの成績評価の平均値を表すものです。これにより、全体的な成績評価として各学期終了時点での成績状況を確認できます。

個々の科目の成績評価が高ければ当然 GPA も高くなりますが、全履修科目を対象としていますので、履修許可を受けた科目は、確実に履修し単位修得に努める必要があります。

また、GPA による成績評価は、今後の修学指導における基礎資料となるばかりでなく、就職指導や大学への進学指導（大学への編入学推薦出願資格）における基礎資料ともなりますので、日々の学習に努力してください。

### 成績評価と GPA の算出方法

評定	評価ポイント
S (秀)	4 ポイント
A (優)	3 ポイント
B (良)	2 ポイント
C (可)	1 ポイント
D (成績不良)	0 ポイント
F (出席不良)	0 ポイント

$$\text{GPA} = \frac{(\text{評価ポイント} \times \text{単位数}) \text{ の総和}}{\text{履修科目の総単位数}}$$

(注) GPA は、計算結果の小数点以下3桁目を四捨五入し、小数点以下2桁までとします。

## 成績通知

成績通知表は学期ごとに保護者あてに郵送します。

また、成績などで懇談の必要のある場合は、保護者にご連絡することがあります。

# 9.5 ポートフォリオについて

The screenshot shows the manaba interface for 'リーディング・ライティング I A'. It features a navigation menu with 'マイページ', 'コース', 'メモ一覧', and 'English'. The course title is 'リーディング・ライティング I A' with a 'コース設定' button. The current user is '担当教員 2018 前期'. The main section is '小テスト管理' with a '表示モード' dropdown set to '教員' and '学生'. There are buttons for 'ドリル用問題管理', '小テスト/ドリル出題', and 'インポート'. A message states: '提出済みの回答の確認や、採点・成績の登録は管理メニューから行ってください。'. Below is a table of quizzes:

No.	タイトル	前提条件	期間	公開/非公開	提出	管理
1	自動採点 <HW: 速読> W3: Lesson 5 / 6	-	受付終了 2018-04-20 12:00~ 2018-04-26 12:00	公開中	10名	管理
2	自動採点 <HW: 速読> W4: Lesson 7 / 8	-	受付終了 2018-04-27 12:00~ 2018-05-03 12:00	公開中	6名	管理
3	自動採点 <HW: 速読> W5: Lesson 9 / 10	-	受付終了 2018-05-11 12:00~ 2018-05-17 12:00	公開中	10名	管理
4	自動採点 <HW: 速読> W1: Lesson 1 / 2	-	受付終了 2018-04-13 10:00~ 2018-04-19 12:00	公開中	11名	管理
5	自動採点 <HW: 速読> W2: Lesson 3 / 4	-	受付終了 2018-04-13 12:00~ 2018-04-19 12:00	公開中	11名	管理
6	自動採点 <HW: 速読> W6: Lesson 11 / 12	-	受付終了 2018-05-18 12:00~ 2018-05-24 12:00	公開中	10名	管理
7	自動採点 <HW: 速読> W7: Lesson 13 / 14	-	受付終了 2018-05-25 12:00~ 2018-05-31 12:00	公開中	11名	管理
8	自動採点 <HW: 速読> W8: Lesson 15 / 16	-	受付終了 2018-06-06 12:00~ 2018-06-14 12:00	公開中	10名	管理
9	自動採点 <HW: 速読> W9: Lesson 17 / 18	-	受付終了 2018-06-15 12:00~ 2018-06-21 12:00	公開中	10名	管理

## 学習支援システム manaba について

学生は日々の学習や自己分析に、クラウド型学習支援システム manaba を活用しています。manaba は国内の高等教育機関で導入されているシステムです。学生は科目ごとに設定されているレポート提出や小テストを manaba で教員へ提出しています。また、自己分析などのキャリア形成にも活用され、ポートフォリオとして本校での5年間の歩みを記録しています。スマートフォンからもアクセス可能なので、学生はいつでもどこでも日々の学習状況や自己成長を見直すことができます。

## 9.6 地域活動・プロジェクトについて



「誰一人も取り残さない」を理念に

SDGs 国連全加盟国が 2015 年に合意した世界を変えるための 17 の目標

国際高専では、SDGs の 17 の目標を基に身近な社会課題と地球規模課題をむすびつけた社会実装型教育・研究プロジェクトを推進しています。

- 地方創生活動への参加
- 障がい者スポーツ支援のための機器・装置の開発
- モザンビーク無電化村での小規模電化と生活向上
- 地域における交通安全対策
- アジア諸国の農村部における課題解決
- 外国人住民の生活サポート

# 9.7 進級・卒業について

## 進級の要件

次の条件を満たしている者については、第1学年から第4学年までは、その学年の課程を修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 学則に定める学年の修得最低単位数を修得していること。  
(最低修得単位については、教育課程表、単位認定については6.4成績についてを参照)
- (2) 当該学年における欠席日数が出席すべき日数の5分の1未満であること。

## 進級の特例

進級の要件の第1号のみを満たすことのできなかった者のうち、第1学年から第3学年までは、次の第1号及び第2号、第4学年にあつては、次の各号すべての要件を満たす者に限り、当該学年の修了したものと認定し、次学年に進級できます。

- (1) 別表第1に掲げる当該学年修了に必須となる授業科目の単位が認定されていること。
- (2) 修得単位数が、別表第2に掲げる進級に必須となる累積単位数を満たしていること。
- (3) 第1学年から第3学年までの必修科目の単位をすべて取得していること。

別表第1 当該学年修了に必須となる授業科目

学科	科目	
	1年	2年
国際理工学科	エンジニアリング デザインⅠA及び ⅠB	エンジニアリン グデザインⅡA 及びⅡB

別表第2 進級又は卒業に必須となる累積単位数

学年 学科	1年	2年	3年	4年	5年
国際理工学科	26 (38)	72 (76)	100 (108)	133 (140)	167 (167)

注1) 下段( )は修得最低単位数合計

## 同一学年再履修の制限

同一学年の再履修は、1回を超えてはなりません。

## 卒業の要件

次の条件を満たしている者については、本校の課程を修了し卒業を認定します。

- (1) 学則に定める修得最低単位数を修得していること。  
(最低修得単位については、教育課程表、単位認定については6.4成績についてを参照)
- (2) 卒業までに特別活動に90時間以上参加していること。
- (3) 該当学年における欠席日数が、出席すべき日数の5分の1未満であること。

本校の教育理念と教育目的に沿って設定された授業科目や教育プログラムを履修し、基準となる単位数を取得し、卒業を認められた者には、卒業証書を授与し、準学士(工学)の称号が付与されます。

# 10.クラブ活動について

## クラブ活動の意義と活動のすすめ

正課の授業による人間形成は意義あるものですが、一方クラブ活動は教室では得ることが出来ない大切な一面を有し、大きな教育的効果が期待できます。

クラブ活動は、自主的な集団活動により、心身ともに健全な学生を育成する極めて重要な教育活動です。学級や学年の枠を越え、しかも縦・横の人間関係の体験、部員としてリーダーとしての体験、また指導教員の人間性に触れていくことによって、全人格形成を目指すことができ、一層充実した学生生活にすることができます。さらに一週間に一度、特に積極的な活動を推進する「クラブ活動の日」が定められています。

以上の意義により、本校ではクラブ活動をおおいに奨励し、特に1、2年生においては全員がクラブ活動に参加しなければいけません。

## クラブ活動・プロジェクトに関する行事

### 全国高等専門学校体育大会（全国高等専門学校体育大会、東海・北陸地区代表決定戦、北陸地区高等専門学校体育大会）

高専教育の一環として、学生にひろくスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な学生を育成することを目的に、毎年8月に行われています。全国を8地区のブロックに分け、8地区からの代表が全国大会に出場することになっています。本校は東海・北陸地区のブロックに所属しており、この代表権を得るための北陸地区高等専門学校体育大会が、富山、石川、福井、本校の各高専が参加して、毎年7月に行われています。

### 全国高等学校体育大会（石川県高等学校体育大会）

1、2、3年生の運動部員は高等学校体育大会への参加が可能であり、多くの部が春と秋の大会に出場しています。

### 文化部の発表と吹奏楽部定期演奏会

毎年10月、高専祭の一環として各文化部の発表が行われています。吹奏楽部は定期演奏会を行い、学校内外に日ごろの練習の成果を発表しています。

### 夢考房プロジェクトの高専ロボットコンテスト

高等専門学校の学生たちが同じ課題のロボット製作に取り組み、その成果を競い合う「アイデア対決ロボットコンテスト」に毎年出場し、ユニークな「発想力」と「独創性」を養っています。

### 電子計算機部の高専プログラミングコンテスト

情報処理技術において、優れたアイデアと実現力を競う「高等専門学校プログラミングコンテスト」に毎年出場し、成果をあげています。

## 部活動名、顧問教員および監督コーチ

部活動活性化委員 瀧本明弘

部	顧問名	監督・コーチ
陸上競技	○谷口萌未、金井 亮	
バスケットボール	○津田明洋、中泉俊一	
テニス	○上田清史、宮野 肇、木原 均	丸田豊司
野球	○藤島悟志、瀧本明弘（兼）	
サッカー	○宮野純光、松下臣仁、大崎富雄	
卓球	○兒玉浩一、南出章幸	
バドミントン	○直江伸至、坂井仁美	
水泳	○藤澤 武、竹俣一也	
剣道	○小間徹也、ジャスティン・ハン	
ハンドボール	○瀧本明弘、イアン・スティーブンソン、 袖 美樹子	
吹奏楽	○坂倉忠和	米森信夫
放送・無線	○今澤明男、千徳英一	
電子計算機	○田村景明	
写真	○土地邦生、ロバート・ソング	
美術	○小高有普	
ハンズオン	○伊藤恒平	
ネイチャー&アドベンチャー	○山崎俊太郎、湯辺 豊、 フィリップ・ケザウ、山下和樹	尾張由輝也
ランゲージ&カルチャー	○ポーリン・ベアード、 イアン・スティーブンソン、大原しのぶ	
デザイン&ファブリケーション	○伊勢大成、伊藤 周、カー・ケン・タン	

バレーボール部、ソフトテニス部、柔道部、スキー部、囲碁・将棋部を休部とする。

○印は主任顧問

## プロジェクト

プロジェクト	顧問名
ロボコン	○林 道大、○諸谷徹郎、井上恵介、伊勢大成、 ハヤト・オガワ、梅野清一郎
プロコン	○田村景明、藤澤 武、伊藤 周、ロバート・ソング
デザコン	○金井 亮、坂井仁美
英語プレゼンテーション	○大原しのぶ、イアン・スティーブンソン

## 特別講座

講座	顧問名	講師
華道講座	○宇都宮隆子、黒田譜美、ジャスティン・ハン	南川穂和

# 11.主な学校行事について

## オリエンテーション

本校学生としての生活のあり方や目標を定めるためのオリエンテーション（勉学の方法、教育課程、部活動、学生会などの説明）を行います。これにより意義ある学生生活を期待します。

## 企業見学

企業見学では、実際に県内外の企業・工場などを訪問し、技術の現場を直接自分の目で見、またそこで働く人々の話を聞いて、エンジニアとしての夢を育み、学習への意欲を向上させます。

## 校内体育祭・球技大会

校内体育祭・球技大会は、体力と気力を養うと共に友情を培うことを目的に実施されるイベントです。

## 全国高等専門学校体育大会

全国の高専におけるスポーツの振興と心身の健全な発達を図るとともに、高専相互の親睦を図ることを目的として行われます。毎年8月、全国高等専門学校連合会主催で、全国 57 校を8ブロックに分け、各ブロックの予選での上位入賞者で全国大会が行われます。

本校は富山、石川、福井の各高専とともに北陸地区のブロックに属し、北陸地区高等専門学校体育大会に出場します。

## 吹奏楽部定期演奏会

吹奏楽部は、10月に定期演奏会を開催します。音楽を通じて学校と地域の方々との触れ合いを深め、文化の向上に寄与しています。

## 高専祭

学生行事で一番大きなイベントが、10月に行われる文化の祭典である高専祭です。工業立国日本の将来の担い手として、日夜研鑽を重ねている学習などの成果を、学校外に公開する年1回の行事です。内容は卒業研究紹介、実験・実習、各種展示、文化部活動の紹介、模擬店などを盛大に一般公開します。

## 自然学苑研修

豊かな自然の中で学生同士あるいは学生と教員が寝食を共にし、お互いの信頼関係を深めるとともに、規律ある生活やグループ活動を通し、思いやりと感謝の心を育み、倫理観を養い、チームワークやリーダーシップの大切さを学ぶ。また、生活関連行事などを通じ、日本人としての自覚を深める。

## 海外修学旅行

4年生の後学期に実施される1週間のシンガポール修学旅行では、本校の協定校であるシンガポール・ポリテクニクとの交歓をはじめとする盛りだくさんの日程を通して視野を広め、新時代を担うエンジニアとしてのセンスを養います。

# 12.事務局案内

事務局は学生諸君の学修や生活を支え、安心して快適な学生生活を送っていただくために必要な事項についての業務を取り扱っています。例えば、証明書類が必要なとき、各種の届け出をしたいとき、各種の問合せや相談、さらに悩みごとや困りごとに対する対応など、何でも引き受ける強い味方です。いつでも気軽に訪ねてください。

## 学生証について

学生証は、諸君が国際高等専門学校<sup>（仮称）</sup>の学生であることを証明するものです。常に携帯し、校舎へ入るとき、ＬＣを利用するときや、各種証明書の発行を受けるときにも必要です。本校教職員または他の関係者が必要上請求したときは、いつでも提示しなければなりません。学生証は、絶対に他人に貸与または譲渡してはなりません。

また、学生証にはICチップが内蔵されており、曲げたり、圧力を加えると破損することがあります。大切に取扱いましょう。

### [学生証の交付]

第1学年始めに校長より交付されます。

### [学生証の再交付について]

学生証を、盗難・紛失または汚損した時は、直ちに学級担任を経て事務局に届け出て、学生証再発行願を提出し再交付を受けてください。

なお、汚損した学生証や盗難・紛失の学生証が出てきた場合は直ちに事務局に返却してください。

### [学生証の返却・無効]

学生証の有効期間は第1学年～第5学年までの5年間です。有効期間を経過したとき、卒業・退学・除籍などで本校に籍がなくなったときは、直ちに事務局に返却してください。また、学生証の記入事項を、勝手に訂正または改変したものは無効となります。

学生証を、盗難または紛失すると思いがけない迷惑をこうむることがあります。したがって、その取り扱いには常に注意してください。

# 各種証明書・届出書

## 各種証明書・届出書

種類	どういうとき	書類受取先	提出先
証明書発行願	在学証明書、成績証明書、卒業見込証明書、学生証（再交付）などを要するとき	事務局	事務局
学生証再発行願	学生証を紛失したとき	事務局	クラス担任→学生主事→事務局
自転車通学届	自転車で通学したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
原動機付自転車通学許可申請書	原動機付自転車で通学したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
貸与パソコン修理依頼書	貸与ノートPCが故障した時（1～3年生）	クラス担任	クラス担任→本人→パソコンセンター（8号館3F）
貸与パソコン学外持ち出し申請書	貸与パソコンを学外に持ち出したい時	クラス担任	クラス担任→教務主事→情報教育部会
通学証明書	通学定期の学割を受けたいとき（JR・北鉄など）	事務局	事務局
遅刻・早退届	病気欠席（早退・遅刻）などをしたとき	事務局	授業担当者（クラス担任）
災害報告書 医療等の届け	学校の管理下でけがをした時	事務局	引率者→学生主事→安全委員長→事務局
校外生活願	旅行やその他校外で生活したいとき	事務局	クラス担任→学生主事→事務局
紛失届	紛失したとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
盗難届	盗難にあった時	クラス担任	クラス担任→学生主事
身上変更届	身上が変更になったとき	事務局	クラス担任→事務局
住所氏名変更届	保護者や学生の住所・氏名が変わったとき	事務局	クラス担任→事務局
異装願	けがなどで、異装したいとき	クラス担任	クラス担任→学生主事
病欠証明書	該当する感染症（P.116参照）にかかった時	事務局	クラス担任
留学願	留学しようとするとき	英語教員	英語教員
留学終了届	留学が終了したとき	英語教員	英語教員
留学中止届	留学を中止して帰国したとき	英語教員	英語教員
転科願	転科しようとするとき	クラス担任	クラス担任
休学願	休学しようとするとき	クラス担任	クラス担任
復学願	復学しようとするとき	クラス担任	クラス担任
退学願	退学しようとするとき	クラス担任	クラス担任

### 【手順】「学生証再発行願」の場合

学生本人が事務局へ書類を取りに行き、①クラス担任→②学生主事→③事務局の順で、承認を得てください。

# 奨学制度について

## 奨学制度

奨学制度は、優秀で経済的理由のため修学困難な者に学資を貸与する制度で、独立行政法人日本学生支援機構、地方公共団体、財団法人などがあります。

### 【独立行政法人日本学生支援機構】

自宅通学の場合、貸与金額は 10,000 円または 32,000 円（第 4 学年より 30,000 円または 53,000 円）から選択し、次の者に貸与されます。

#### ●学力

1 年生は中学校最終学年の成績の平均が 3.5 以上の者、2 年生以上は本校での成績が学科の平均水準以上の者。

#### ●家計

家計支持者の年収・所得金額から、規程で定められた特別控除額を差し引いた金額が、機構で定めた収入基準額以下である者。

●校長が推薦し、日本学生支援機構が採否を決定します。

●家計急変により修学困難な学生に対する緊急採用制度もあります。

### 【石川県】

月額 30,000 円（第 4 学年より 44,000 円）が次の者に貸与されます。

●保護者が石川県内に現に（第 4 年次より 現に引き続き 3 年以上）居住している者。

●勉学意欲があり、かつ学費の支弁が困難な者。

●独立行政法人日本学生支援機構の奨学金貸与を受けていない者。

●校長が推薦し、石川県が採否を決定します。

奨学制度は、本人が直接手続きするところが多いです。学校の証明を必要とする時は、事務局へ申し出てください。

詳細は事務局へお尋ねください。

# リーダーシップアワード奨学制度について

ICTは「誰一人取り残さない」世界の実現に向けてイノベーションにチャレンジする学生を支援します。



SDG s (Sustainable Development Goals) は、「誰一人取り残さない」という理念のもとに、国際全加盟国が合意した、世界を変えるための17の目標のことで、ICTでは併設校KIT金沢工業大学と連携して、このSDG s達成に貢献するため、身近な社会課題と地球規模課題を結びつけた社会実装型の教育研究プロジェクトを推進します。この教育研究プロジェクトにおいて、卓越したリーダーシップを発揮する学生を支援するのがICTリーダーシップアワード奨学制度です。

ICTではグローバルイノベーターの養成を目指し、4種の「ICTリーダーシップアワード奨学生制度」を設け、多様な活動においてリーダーシップを発揮し、得る人材を支援します。

<p>① ICTリーダーシップアワード Golden Eagle 奨学金</p> <p>概要: 持続可能な社会の理解を深めるとともに社会的課題を発見し、その課題に主体的に取り組み、リーダーシップを発揮し得る人材の育成を図ります。</p> <p>定員: 3名</p> <p>対象: 1年次～2年次までの2年間の取組</p> <p>評価基準: 2年間の成績、SDG s スタートアッププログラム参加、積極的なリーダーシップ、自己成長の学内外への発信</p> <p>給付金額: 140万円</p>	<p>② CWIE 海外コーオプ教育奨学金</p> <p>概要: CWIE (産学連携教育) に基づく海外企業でのインターンシップや国際会議への参加など海外コーオプ教育を対象とします。</p> <p>定員: 4名</p> <p>対象: 4年次、5年次</p> <p>評価基準: 前年度までの成績、CWIEの理解、海外企業での課題と就業体験への取組</p> <p>給付金額: 30万円</p>
<p>③ ICTリーダーシップアワード Gold 奨学金</p> <p>概要: 学内外での多様な活動において、積極的なリーダーシップを発揮し、他の模範となった学生に対し、支給します。</p> <p>定員: 10名</p> <p>対象: 各学年</p> <p>評価基準: 受講全科目の成績、学内外の多様な活動、積極的なリーダーシップ、自己成長の学内外への発信</p> <p>給付金額: 30万円</p>	<p>④ ICTリーダーシップアワード Silver 奨学金</p> <p>概要: 学内外での多様な活動において、積極的なリーダーシップを発揮し、他の模範となった学生に対し支給します。</p> <p>定員: 10名</p> <p>対象: 各学年</p> <p>評価基準: 受講全科目の成績、学内外の多様な活動、積極的なリーダーシップ、自己成長の学内外への発信</p> <p>給付金額: 25万円</p>

※2020年度入学生より定員が変わります。

# 学生の災害（ケガ）等について

## 独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度

独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度は、学校の管理下における学生の災害に対して必要な給付を行うことを目的とした制度で、多くの幼、小、中、高、高専が加入しています。本校でも、学生全員が加入することになっています。

### 【医療費の支給】

学校の管理下でケガをした場合の医療費は、各種の健康保険が70%をカバーし、残りの30%が自己負担となります。独立行政法人日本スポーツ振興センターは、この自己負担分を給付します。

すなわち、健康保険と独立行政法人日本スポーツ振興センター災害共済給付制度により、かかった医療費の全額をカバーできます。

### 【学校の管理下の範囲】

授業、部活動、休憩時間、登校・下校

### 【掛金】

2019年度共済掛金額 1人当り年額1,955円

### 【手続き】

ケガをした場合は、できるだけ早く学校（事務局）へ届け出て給付申請の手続きをとってください。なお、給付を受けるにあたってはいくつかの制限があります。詳細は事務局へお尋ねください。

# 13.学校生活について

## こころの相談（カウンセリングセンター）

### 白山麓キャンパスでのカウンセリングについて

国際高専白山麓キャンパスには「カウンセリングセンター高専分室」があり、2019年度は、以下の日程でカウンセラーがキャンパスに来ています。カウンセリングを受けたい場合は、KIT Innovation Hub 1階の保健室（clinic）隣にある、Counseling Roomにお越しください。

日時：授業期間中の毎週水曜日 13:30～17:00  
場所：Counseling Room  
（KIT Innovation Hub 1階・clinic 隣）  
※学校行事等により予定が変更になる場合があります。

### 相談フォームからのご相談について

相談に行く前に、カウンセラーと一度話してみたいときや、利用の方法がわからないときは、相談フォームからカウンセラーにご連絡ください（ただし、継続したフォーム上でのカウンセリングはできません）。また、KIT カウンセリングセンター（扇が丘キャンパス）の休館中は、フォームでの返信もできませんのでご注意ください。

カウンセリングセンターの長期休館期間（R1年度）  
2019年8月7日（水）～8月17日（土）  
2019年12月26日（木）～2020年1月6日（月）

# KIT カウンセリングセンター（扇が丘キャンパス）

本校では、みなさんが有意義な学生生活を送れるようにカウンセリングセンターを設け、学生生活をサポートしています。みなさんが日常生活を送るうえで、いろいろな悩み、不安、困ったことが生じたとき、専門のカウンセラーの先生が相談に応じてくれます。

「こんなことを相談してもいいのだろうか」とためらわず、気軽に相談してください。相談内容については、秘密が守られています。

受付と相談は、36号館（下図参照）で行っています。必要に応じて本校校舎内での相談も可能です。

## カウンセラーと話すまでの方法

カウンセリングセンター：36号館  
受付で希望の時間に予約する

予約カードを受け取る

予約の時間にカウンセラーを訪ねる  
(やむを得ず行けないときは、事前に連絡する)

カウンセリングを受ける  
(続ける場合はカウンセラーと次回の予約をする)

予約の時間に再びカウンセラーを訪ねる



## ■カウンセリング予約受付時間

月曜日～金曜日…12:00～17:00

※原則予約制です。

## ■カウンセリングを受けられる時間

月曜日～金曜日…13:00～19:00

(木曜日……………13:00～17:00)

土曜日…………… 8:30～13:00

※休祭日はお休みします。土曜日はあらかじめ休館日が決まっています。

※学園行事などにより、開館日および時間に変更になる場合があります。

※長期休業中のカウンセリング受付についてはお問い合わせください。

## ■カウンセリングについてのお問い合わせ

国際高専事務局 電話 076 - 248 - 1080

# キャンパス・ハラスメントについて

教育や研究、業務における教職員や学生の不適切な発言・行動で、精神面を含めて、された側の勉学や研究に支障を生じたり、その環境を悪化させることを、「キャンパス・ハラスメント」と言います。性差別や性的嫌悪感が元になるいわゆるセクシャル・ハラスメント、教育・研究に関連して生じるアカデミック・ハラスメントと呼ばれるものもこれに含まれます。単位の認定や成績評価、あるいは研究指導、就職の斡旋などにおいて、地位を利用するなどして相手に不利益や逆に不当な利益を与える対価型と、勉学や研究開発を悪化させる発言や行動をする環境型とがあります。

## 【対価型】

例えば…

- 個人的な欲求から、学生の利益または不利益を感じさせるような状況で性的なことを要求する。
- 学生に、本来の範囲を超えて勉学や研究を強要したり、不必要に相手を拘束する。
- 指導に従わない学生に暴言や暴力的な行為、意図的な無視をする。
- ことさらに威圧的、権威的、威嚇的な言動（電話やメールを含む）を行う。

## 【環境型】

例えば…

- 学生の気持ちに反し、プライベートについての質問や発言をする。
- 学生の個人的能力や身体的機能、性的指向などへ配慮を欠いた発言をする。
- 特定の学生を傷つける発言をしたり、故意に噂を流す。
- 性の商品化を助長するような絵や写真を見せたりする。
- 教室や研究室で不必要に学生の身体に触る。
- 性的または下品な冗談を言ったり、性的な服従を迫る。

## これって、キャンパスハラスメント？

### ケース① 授業中に先生が、いかがわしい冗談をいった。

周囲に合わせて笑っていたとしても、内心で嫌悪している場合は、キャンパス・ハラスメントに当たります。また、「部活でメンバーが必要以上に身体に触ってくる」などの、学生同士の間で発生するケースも含まれます。

### ケース② 「男は家庭を背負う立場。しっかり勉強しろ」と言われた。

学問研究や、教育の立場においての誤った観点による性差別発言や行動である、「アカデミック・ハラスメント」の典型といわれるケースです。これは男性・女性どちらからでも、また同性間であっても対象になります。

### ケース③ 先生の指示に従わなかったら以後、助言してくれない。

指導に従わない学生に対しての意図的な無視や暴言もハラスメントにあたります。学生にことさら威圧的、権威的な言動をとったり、暴力的な行為、相手の人格もしくは身体を傷つける行為に至るケースも含まれます。

### ケース④ 私生活のことをしつこく尋ねられた。

相手の意に反し、もしくは同意なしにプライバシーについての質問や発言をする。一見、気づきにくい例かもしれませんが、これもハラスメントになります。特定の相手を誹謗・中傷したり、風評を流すことも含んでいます。

## **ひとりで悩まないこと。それが解決の近道です。**

もしあなたが、学生生活を送るうえで、誰かの言動を「ハラスメントだ」と感じたら、その気持ちを言葉と態度ではっきり伝えてください。そして「ノー」と言えなくても、決してひとりで悩みを抱え込まないでください。国際高専には専属のカウンセラーがいます。あなたの悩みを親身に聞き、解決するための方法を一緒に考えていきます。

## **あなたが安心して学べる環境をつくるために。**

自分ひとりで相談するのは不安。そんな時は親しい友人と一っしょに相談しても、第三者や代理人でも大丈夫です。相談員はあなたのプライバシーをしっかりと守り、相談員以外への情報提供が必要な場合は、必ずあなたの承諾を得たうえでそれを行います。相談だけで解決しない場合は、必要な調停や措置をとり、安心して学べる環境を取り戻します。

# 個人情報保護について

情報通信技術の著しい発展は、社会一般に急速なインターネットの普及をもたらし、新たな技術や知の創造に大きく貢献しています。社会は、情報を基盤とした高度情報化が進み、大量の情報の流通と瞬時の処理が当然の事象となっています。

今般の高度情報化社会において、情報の重要性がことさらの高まりを見せるなか、特に、在学生をはじめとしてその保護者や卒業生、受験生、教職員などにかかわる個人情報を適正に取り扱うことは、本学および本学が設置する金沢工業大学および国際高等専門学校（以下「本学園」という。）にとって極めて重要と認識しており、それら個人情報の適切な利用と保護は当然の社会的責務と受け止めております。

ついては、高度情報通信社会における個人情報保護の重要性に鑑み、以下の方針に基づき個人情報の保護に努めることを宣言します。

1. 本学園は、個人情報の取扱いにおいて、個人情報の保護に関する法律その他関係法令を遵守します。  
また、「個人情報の保護に関する規則」「情報セキュリティ・ポリシー」を策定し、これを、本学園すべての教職員及び関係者に周知徹底して遵守し、継続的な改善に努めます。
2. 本学園は、個人情報を適法かつ公正な手段によって取得します。
3. 本学園は、個人情報の取得に際し明示した利用目的に沿って、適切に個人情報を取り扱います。
4. 本学園は、個人情報を第三者との間で共同利用し、又は個人情報の取扱いを第三者に委託する場合には、当該第三者につき厳正な調査を行ったうえ、秘密保持のために適正な監督を行います。
5. 本学園は、法令等に定めるものを除き、事前に本人の同意なく個人情報を第三者に提供しません。
6. 本学園は、個人情報を安全かつ正確に管理するため、個人情報への不正アクセス、コンピュータウイルス等に対する適正な情報セキュリティ対策を講じ、個人情報の紛失、破壊、漏えい、改ざんなどを防止します。
7. 本学園は、本人から自己の個人情報についての開示、訂正、利用停止、削除等の要求があった場合には、速やかに対応し適正な措置を講じます。

## 【個人情報の取り扱いに関する問い合わせ先】

国際高専事務局

電話 076 - 248 - 1080

# 2019年度資格試験スケジュール

年	月	資格	試験日	学内受付期間	備考
2019年度	4月	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第1回)	27日(土) (予定)	4月上旬	自己開発センターで受付
	5月	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第2回)	25日(土) (予定)	5月上旬	自己開発センターで受付
		工事担任者 ●DD1~3種/AI1~3種/総合種 (第1回)	26日(日)	1月下旬 ~ 2月上旬	自己開発センターで受付
		工業英語能力検定 ●準2級~4級 (第1回)	26日(日) (予定)	4月中旬	自己開発センターで受付
	6月	2級施工管理技術検定 ●管工事(学科のみ) (第1回)	2日(日)	3月上旬	★ 事前に願書予約を行い各自で出願する
		★ 第二種電気工事士 ●筆記試験 (上期)	2日(日) 技能試験 7月21日(日)	3月中旬	自己開発センターで受付
		映像音響処理技術者資格認定	2日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		実用英語技能検定 ●2級~3級 (第1回)	2日(日) 二次 7月7日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		日本語検定 ●2級~3級 (第1回)	8日(土)	4月中旬	自己開発センターで受付
		日商簿記検定 ●1級~3級 (第1回)	9日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第1回)	9日(日)	4月上旬	自己開発センターで受付
		特殊無線技士 ●陸上/航空/海上 (第1回)	11日(火) ~ 13日(木) (予定)	4月中旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
		カラーコーディネーター検定 ●2級~3級 (第1回)	16日(日)	4月上旬	自己開発センターで受付
		CAD利用技術者 ●2級 (第1回)	16日(日) (予定)	4月下旬	自己開発センターで受付
		日本漢字能力検定 ●2級~3級 (第1回)	16日(日) (予定)	4月中旬	自己開発センターで受付
		秘書技能検定 ●準1級~3級 (第1回)	16日(日)	4月中旬	自己開発センターで受付
		情報技術検定 ●1級~3級 (第1回)	21日(金) (予定)	4月中旬	高専事務局で受付
		実用数学技能検定 ●準1級~3級 (第1回)	22日(土) (予定)	4月中旬	自己開発センターで受付
		Javaプログラミング能力試験 ●2級~3級 (第1回)	22日(土) (予定)	5月上旬	自己開発センターで受付
		デジタル技術検定 ●2級~4級 (第1回)	23日(日)	4月下旬	自己開発センターで受付
		ドイツ語技能検定 ●2級~4級 (第1回)	23日(日) (予定)	4月上旬 ~ 5月中旬	KITブックセンターで願書配布
		中国語検定 ●準1級~準4級 (第1回)	23日(日) (予定)	4月中旬 ~ 5月中旬	KITブックセンターで願書配布
		MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第3回)	29日(土) (予定)	6月上旬	自己開発センターで受付
		7月	消防設備士 ●甲種/乙種 (第1回)	7日(日)	4月下旬 ~ 5月上旬
	電気通信主任技術者 ●伝送交換/線路 (第1回)		7日(日) (予定)	4月下旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
	陸上無線技術士 ●1級~2級 (第1回)		9日(火) ~ 12日(金) (予定)	5月中旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
	CG-ARTS検定 ●エキスパート/ベーシック (第1回)		14日(日)	4月下旬	自己開発センターで受付
	★ 第二種電気工事士 ●技能試験 (上期)		21日(日)	3月中旬	自己開発センターで受付
	知的財産管理技能検定 ●2級~3級 (第1回)		21日(日)	4月下旬	自己開発センターで受付
	3次元CAD利用技術者 ●1~2級 (第1回)		21日(日) (予定)	5月下旬	自己開発センターで受付
	8月	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第4回)	3日(土) (予定)	7月上旬	自己開発センターで受付
		★ 第三種電気主任技術者	31日(土)	5月下旬	自己開発センターで受付
	9月	品質管理検定(QC検定) ●2級~4級 (第1回)	1日(日)	6月上旬	自己開発センターで受付
		MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第5回)	20日(金) (予定)	8月上旬 ~ 下旬	自己開発センターで受付
	10月	第一種電気工事士 ●筆記試験	6日(日) 技能 12月8日(日)	6月中旬	自己開発センターで受付
		★ 第二種電気工事士 ●筆記試験 (下期)	6日(日) 技能 12月8日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		実用英語技能検定 ●2級~3級 (第2回)	6日(日) 二次 11月10日(日)	7月中旬 ~ 下旬	自己開発センターで受付
		公害防止管理者 ●主任管理者/騒音・振動/水質他	6日(日) (予定)	7月上旬	自己開発センターで受付
		技術士補 ●技術士一次試験	13日(日)	6月中旬	★ 事前に願書予約を行い各自で出願する
		★ 宅地建物取引士	20日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		情報処理技術者 ●基本情報他 (第1回)	20日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付
		特殊無線技士 ●陸上/航空/海上 (第2回)	22日(火) ~ 24日(木) (予定)	8月上旬 ~ 中旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ
日本漢字能力検定 ●2級~3級 (第2回)		26日(土) (予定)	7月中旬 ~ 下旬	自己開発センターで受付	
MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第6回)		26日(土) (予定)	10月上旬	自己開発センターで受付	
ポイラー技士 ●2級	27日(日) (予定)	8月上旬 ~ 下旬	自己開発センターで受付		

資格取得について／本校には資格取得に有利という大きなメリットがあります。情報処理技術者、電気工事士などさまざまな資格を持っていると、実社会に出たときに非常にプラスになります。本校ではこれらの資格の中で、第2種電気主任技術者、第2級陸上無線技術士、工事担任者、第2種電気工事士の認定校となっているため、本校の授業の中で、認定基準に規定する科目の単位取得により、申請でこれらの資格の取得ならびに試験科目の免除ができます。(平成29年度入学生まで)

なお、本校では多くの学生が資格取得できるように、自己開発センターが講習会を開いているものもあります。

(※実施にあたり日程を一部変更する場合があります)

年	月	資格	試験日	学内受付期間	備考
2019年度	11月	消防設備士 ●甲種/乙種 (第2回)	4日(祝)	8月上旬～下旬	自己開発センターで受付
		日本語検定 ●2級～3級 (第2回)	9日(土)	7月中旬～下旬	自己開発センターで受付
		CAD利用技術者 ●2級 (第2回)	9日(土) (予定)	10月上旬	自己開発センターで受付
		2級施工管理技術検定 ●電気工事/建築 (第2回)	10日(日)	6月下旬～7月上旬	★事前に願書予約を行い各自で出願する
		秘書技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	10日(日)	9月下旬	自己開発センターで受付
		工業英語能力検定 ●準2級～4級 (第2回)	10日(日) (予定)	10月上旬	自己開発センターで受付
		MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第7回)	16日(土) (予定)	10月下旬	自己開発センターで受付
		実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	16日(土) (予定)	9月下旬～10月上旬	自己開発センターで受付
		2級施工管理技術検定 ●管工事 (第2回)	17日(日)	7月上旬	★事前に願書予約を行い各自で出願する
		★機械設計技術者 ●3級	17日(日)	7月中旬～下旬	自己開発センターで受付
		日商簿記検定 ●1級～3級 (第2回)	17日(日)	9月下旬～10月上旬	自己開発センターで受付
	知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第2回)	17日(日) (予定)	9月下旬	自己開発センターで受付	
	工事担任者 ●DD1～3種/AI1～3種/総合種 (第2回)	24日(日)	7月中旬～下旬	自己開発センターで受付	
	CG-ARTS検定 ●エキスパート/ベーシック (第2回)	24日(日)	9月下旬～10月上旬	自己開発センターで受付	
	中国語検定 ●1級～準4級 (第2回)	24日(日) (予定)	9月中旬～10月上旬	KITブックセンターで願書配布	
	デジタル技術検定 ●1級～4級 (第2回)	24日(日) (予定)	9月下旬～10月上旬	自己開発センターで受付	
	★危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第2回)	30日(土)	9月下旬～10月上旬	自己開発センターで受付	
	12月	カラーコーディネーター検定 ●1級～3級 (第2回)	1日(日)	9月下旬～10月上旬	自己開発センターで受付
		ドイツ語技能検定 ●1級～4級 (第2回)	1日(日) (予定)	9月上旬～10月中旬	KITブックセンターで願書配布
		第一種電気工事士 ●技能試験	8日(日)	6月中旬	自己開発センターで受付
★第二種電気工事士 ●技能試験 (下期)		8日(日)	7月中旬	自己開発センターで受付	
3次元CAD利用技術者 ●1～2級 (第2回)		8日(日) (予定)	10月中旬	自己開発センターで受付	
MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第8回)		14日(土) (予定)	11月下旬	自己開発センターで受付	
1月	陸上無線技術士 ●1級～2級 (第2回)	14日(火)～17日(金) (予定)	11月上旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ	
	情報技術検定 ●1級～3級 (第2回)	17日(金) (予定)	9月下旬	高専事務局で受付	
	Javaプログラミング能力試験 ●2級～3級 (第2回)	25日(土) (予定)	11月下旬～12月上旬	自己開発センターで受付	
	工業英語能力検定 ●2級～4級 (第3回)	25日(土) (予定)	12月上旬	自己開発センターで受付	
	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第9回)	25日(土) (予定)	1月上旬	自己開発センターで受付	
	実用英語技能検定 ●2級～3級 (第3回)	26日(日) 二次 3月1日(日)	11月下旬～12月上旬	自己開発センターで受付	
	電気通信主任技術者 ●伝送交換/線路 (第2回)	26日(日) (予定)	10月中旬～下旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ	
2月	特殊無線技士 ●陸上/航空/海上 (第3回)	7日(金)～9日(日) (予定)	12月上旬	自己開発センターで配布 願書配布のみ	
	危険物取扱者 ●甲種/乙種 (第3回)	9日(日)	12月上旬	自己開発センターで受付	
	秘書技能検定 ●2級～3級 (第3回)	9日(日)	12月上旬	自己開発センターで受付	
	実用数学技能検定 ●準1級～3級 (第2回)	15日(土) (予定)	12月上旬	自己開発センターで受付	
	MOS(Microsoft Office Specialist) ●EXCEL/WORD他 (第10回)	15日(土) (予定)	1月下旬	自己開発センターで受付	
	日本漢字能力検定 ●2級～3級 (第3回)	16日(日) (予定)	11月下旬	自己開発センターで受付	
	日商簿記検定 ●2級～3級 (第3回)	23日(日)	1月中旬	自己開発センターで受付	
3月	消防設備士 ●甲種/乙種 (第3回)	1日(日)	12月上旬	自己開発センターで受付	
	知的財産管理技能検定 ●2級～3級 (第3回)	1日(日) (予定)	12月上旬	自己開発センターで受付	
	品質管理検定(QC検定) ●2級～4級 (第2回)	15日(日)	11月下旬～12月上旬	自己開発センターで受付	
	中国語検定 ●準1級～準4級 (第3回)	22日(日) (予定)	1月中旬～2月中旬	KITブックセンターで願書配布	
4月	情報処理技術者 ●基本情報他 (第2回)	19日(日) (予定)	1月中旬	自己開発センターで受付	

※TOEICは平成25年4月分より、インターネット又は、コンビニエンスストアでの個人申込に変わりました。

★マークの付いた資格試験は講習会を開催予定

学内願書受付期間は、事務手続きに日程を要するため、主催者側の締め切り日より早くなっています。試験日程や受付期間をよく確認し申し込みをしてください。

ティーチング  
スタッフ 2019

# 校長



校長・教授

ルイス・バークスデール

Lewis Barksdale

## ■略歴および専門分野

アメリカンスクール イン ジャパン（東京都）出身  
米国フロリダ州エカード大学比較文化科卒。ハワイ大学大学院修士課程（英語教授法）修了。テキサス大学大学院博士課程（外国語教育）満期退学。名古屋金城学院短大、高等部、中等部で英語教員を務め、その後ハワイ大学で英語学を担当。金沢工業大学教授を経て平成26年、金沢工業高等専門学校校長就任。専門は外国語教育。第2言語習得における学習者ストラテジーの研究に従事。

## ■横顔

理知的で物静かであるが非常に鋭い観察力を持つ先生である。長年に亘って金沢工業大学の英語教育を牽引してきた。人生の4分の3を日本で過ごしているため、日本のことは日本人以上に深く理解し愛している。

## ■趣味

ワイン、読書（歴史・科学・小説）、クラシック音楽。

## ■近況

年齢を重ねていくことの楽しみの一つは、発達させるのに時間が掛かる新しい嗜好を身につけていけることである。自分でも驚いたことに、最近私はヨーロッパ19世紀のオペラに興味を持ち、有名な作品を聞き始めた。同時期の日本の伝統芸能に人形浄瑠璃と歌舞伎があるが、これらも奥深いものである。これからもこのような芸術作品を探求していきたい。

# 副校長



副校長

国際交流主事・教授

向井 守

Mamoru Mukai

## ■略歴および専門分野

野田中学校（石川県）出身  
大阪学院大学外国語学部英語学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程（第二言語としての英語教授法）修了。昭和59年本校講師就任。助教授を経て、平成9年教授。平成24年金沢工業高等専門学校副校長就任。専門は外国語としての英語教授法（TEFL）と第二言語修得（SLA）。現在教材開発の研究に従事。

## ■横顔

いつも明るく笑顔を絶やさない。学生にも優しく、親身になって話してくれる。本校の英語教育と国際交流の草分け的存在であり、海外の協定校にとっては“顔”的存在である。英語のスピードは、母国語の日本語よりも速いという定評がある。

## ■趣味

映画、旅行、スポーツ鑑賞

## ■近況

英語を学問としてではなく、伝達手段のための言語として修得できるような雰囲気を持つ授業づくりを目指している。



副校長・進路指導主事  
教授・工学博士

高橋 文雄

Takeo Takahashi

## ■担当科目

（金沢）物理化学Ⅲ

## ■略歴および専門分野

中瀬中学校（東京都）出身  
防衛大学校応用物理学科卒。防衛大学校理工学研究科（物理工学）修了。大阪大学研究生。防衛大学校教授。防衛研究所総括主任研究官。陸上自衛隊研究本部主任研究開発官を経て、平成23年本校教授就任。平成26年本校副校長就任。専門は燃焼工学。「乱流予混合火炎の挙動と構造に関する研究」で学位取得。

## ■横顔

私のモットーは「未来予測は、技術予測から」。1952年に2003年4月7日生まれを想定して放映された鉄腕アトム。そして、今のロボット技術といえば、推して知るべし。高専生が、豊かな創造性を発揮して「ものづくり」に挑戦し、未来に活躍できるエンジニアをめざして力を磨けるよう手助けしたい。

## ■趣味

ドライブ

## ■近況

歴史と伝統の地、金沢での勤務も8年が経ちました。

# 教授



機械工学科学科長  
教授・博士(工学)

## 伊藤 恒平

Kouhei Ito

### ■担当科目

(金沢) ロボット工学、航空工学、制御工学、創造設計Ⅳ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

的場中学校(北海道)出身  
防衛大学校航空宇宙工学教室卒。防衛大学校理工学研究科(航空宇宙)修了。筑波大学大学院博士後期課程(コンピューターサイエンス)修了。陸上自衛隊野整備中隊、川崎重工会社研修員、防衛庁技術研究本部第3研究所光波誘導研究室を経て、平成18年本校助教授就任。平成21年教授。専門は制御工学、システム工学。

### ■横顔

「身は奴隷の境涯にあつて鉄鎖につながれていてもその心は自由である。いかなる暴君と言えどもその志を奪うことはできない」。志を持ち、学生が志を持つよう学生教育に専心努力していきたい。

### ■趣味

マイクロマウス(ロボット)製作、ロボコン参加

### ■近況

全日本マイクロマウス競技とそれに伴い行われる地区大会に出場するのが毎年の楽しみ。



国際理工学科副学科長  
教授・博士(理学)

## 伊藤 周

Meguru Ito

### ■担当科目

(白山麓) コンピュータスキルズⅠA、エンジニアリングコンテクストⅠB、物理ⅠA・ⅠB、ⅡA、ⅡB

(金沢) 電気電子工学演習

### ■略歴および専門分野

北辰中学校(石川県)出身  
慶應義塾大学理工学部物理学科卒。東京大学大学院理学系研究科理学部博士後期課程(天文学)修了。国立天文台ハワイ観測所研究員、ビクトリア大学(カナダ)研究員を経て、平成24年10月本校講師就任。平成27年10月准教授。2019年教授。専門は光学、天文学。「近赤外シルエットエンベロープの統計的研究およびレーザーガイド星システムにおける光ファイバー伝送の特性」で学位取得。現在は水中におけるレーザーアプリケーションの開発と工学教育に関する研究に従事。

### ■横顔

天文望遠鏡用装置の開発を大学院で志したところ、なぜか海外にある研究所、大学を渡り歩くことに。海外にいた経験も踏まえて学生にものづくりの楽しさを伝えたいと考えている。

### ■趣味

読書、ゲーム、写真

### ■近況

最近あまり写真を撮っていないことに気づき、一念発起しようとしているところ。白山の風景は季節ごとに異なる美しさを見せてくれますが、冬の雪景色が一番好きです。



教授

## 今澤 明男

Akio Imazawa

### ■担当科目

(金沢) データ分析、卒業研究、ソフトウェア工学Ⅰ、ビジネス概論、企業会計Ⅱ

### ■略歴および専門分野

開進第三中学校(東京都)出身  
慶應義塾大学工学部管理工学科卒。慶應義塾大学大学院工学研究科博士課程(管理工学)単位取得。金沢工業大学講師を経て、平成11年本校教授就任。専門は経営工学・管理工学・行動計量学。信頼リテラシーの研究、計量感覚育成の研究に従事。

### ■横顔

チョコレートパフェなど甘い物が大好き、ただしお酒も人一倍いける。

### ■趣味

美術鑑賞、映画鑑賞

### ■近況

未確認肥満物体(Unidentified Fat Object)となつて久しい。ダイエットに着手。一時、成功したかに見えたが…。



教授・哲学博士 Ph.D.(歴史学)

## 上田 清史

Kiyoshi Ueda

### ■担当科目

(白山麓) 歴史文化ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、歴史文化(英語)ⅡA・ⅡB

### ■略歴および専門分野

第三中学校(東京都国立市)出身  
米国・ミズーリー州立大学歴史学部卒業。カナダ・トロント大学東アジア学部修士課程修了。カナダ・トロント大学歴史学部博士課程修了。カナダ・トロント大学歴史学部助手。東京大学社会科学研究所客員研究員。法政大学法学部兼任講師。イスラエル・イェルサレムヘブライ大学東アジア学部客員教授。上智大学国際教養学部非常勤講師を経て、平成29年9月本校教授就任。専門は近現代日本史。

### ■横顔

幼い頃から国内外の色々な所で生活し、学び、研究し、人生のほぼ半分を国外で過ごしてきました。テニス選手として五大陸・四十数カ国を訪れています。

### ■趣味

「歴史」への理解を深める事。

### ■近況

金沢特有の「強い風・横降りの雪・冬の雷」をまれに見る自然現象と感嘆し、日々過ごしています。学生には歴史の授業を通して色々な観点・見方があることを「発見」してもらい、自由な発想で考えてほしいと願っています。



一般教科主任・教授

## 宇都宮 隆子

Takako Utsunomiya

### ■担当科目

(金沢)総合英語Ⅳ、英語表現技法

### ■略歴および専門分野

城南中学校(石川県)出身  
フェリス学院大学文学部英文学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。金城学園遊学館高等学校非常勤講師、NCN米田大学機構北陸地区スクーリング講師、金沢工業大学講師を経て、平成23年本校准教授就任。平成28年教授。専門は英語教授法(TESOL)。

### ■横顔

学生の皆さんを笑顔にする授業、必死な顔にさせる授業、どちらも私の理想とするところですが、なかなかもって難しいものであります。

### ■趣味

旅行、美術館めぐり、デパ地下散歩

### ■近況

小学生の頃、夏休み毎日通ったラジオ体操。あの頃は、音楽に合わせてただ体を動かしているだけでしたが、今になると、その1つひとつがなぜそのような体の動きをしなくてはいけないのかが、体が硬くなってきただけによくわかります。「イタタ…」と言わずにすむよう、規則的な運動をしなくてはと思っています。



教授

## 大崎 富雄

Tomio Osaki

### ■担当科目

(金沢)歴史Ⅱ、文化・思想A・B

### ■略歴および専門分野

軽舞中学校(北海道)出身  
皇学館大学文学部国文学科卒。皇学館大学大学院修士課程(国文学)修了。平成元年本校講師就任。平成9年助教授を経て、平成23年教授。専門は近代文学、主に近代文芸評論の研究に従事。

### ■横顔

特技は中国拳法(螳螂拳、八極拳)。最近、あまり練習できないのが悩み。帰宅後はなるべく練習するようにしているようだ。

### ■趣味

読書

### ■近況

近代文学作家の思考態度の分析を中心に研究している。



学生主事(白山麓)・教授

## 大原 しのぶ

Shinobu Ohara

### ■担当科目

(白山麓)リーディング・ライティングⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、ブリッジングリッシュ

### ■略歴および専門分野

長吉六反中学校(大阪府)出身  
園田学園女子大学文学部英米文学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。大阪市立高等学校および中学校非常勤講師。米田公立高等学校で日本語教師助手を経て、平成8年9月本校講師就任。平成13年助教授を経て、平成21年教授。専門は英語教授法(TESOL)。

### ■横顔

阪神タイガースの大ファンで、毎年優勝を祈願しているらしい。アメリカ大陸を1人で自動車で横断するというたくましい一面も持っている。

### ■趣味

旅行、スポーツ鑑賞

### ■近況

ラーメンが大好きです。美味しいラーメン屋さんの情報を教えてください。最近、若者の話に追いついていけなくなりました。せめてラーメン屋さんや野球の話(特に阪神タイガース)で盛り上がりたと思っています。



進路指導副主事  
教授・博士(工学)

## 金井 亮

Ryo Kanai

### ■担当科目

(金沢)エンジニアリングマネジメント、機械工学実験Ⅰ、材料力学Ⅰ・Ⅱ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

東中学校(群馬県前橋市)出身  
金沢大学工学部人間・機械工学科卒。金沢大学大学院博士前期課程(機械科学)修了。金沢大学大学院博士後期課程(システム創成科学)単位取得。金沢大学非常勤講師、金沢大学工学部助手を経て、平成19年本校講師就任。平成22年准教授。2019年教授。専門は計算力学、材料力学、最適化設計。「生物の多様性に学ぶ最適化手法の開発研究」で学位取得。

### ■横顔

どれほど学んでも充分なことではなく、ただただ勉強不足なことを日々実感。それ以上に教育は難しく、如何に工学の面白さを伝え、わかりやすい授業を行うか、試行錯誤中の自称若手の先生。

### ■趣味

旅行、温泉、茶道、料理

### ■近況

やたらと忙しいです。家族と過ごす時間をとりながら、今年も学会とか行きたいけどどうなるんでしょうね。



教授・博士(情報科学)

## 木原 均

Hitoshi Kihara

### ■担当科目

(白山麓)解析基礎A・B、基礎数学A・B、微分積分A・B

### ■略歴および専門分野

水巻南中学校(福岡県)出身  
広島大学学校教育学部中学校教員養成課程卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士前期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学研究員、研究生を経て、平成20年8月本校講師就任。平成24年准教授。2019年教授。専門は数理論理学。博士論文「Substructural Logics an algebraic study」で学位取得。

### ■横顔

学生たちの素朴な疑問や問いかけを大切にしており、常に笑顔を忘れないように心がけている。中学時代は勉強嫌いだったが、今では教える立場となり、学生には自信を持ってもらいたいと考えている。

### ■趣味

読書、ジョギング

### ■近況

金沢は山や海が近く、また文化や歴史が深いので、毎日とても楽しく過ごしています。



教授

## イアン・スティーブソン

Ian Stevenson

### ■担当科目

(白山麓) リスニング・スピーキング I A・I B・II A・II B、ブリッジイングリッシュ、世界文学 II

### ■略歴および専門分野

ニューハンプシャー大学人文学部卒。デンバー大学大学院修士課程(国際政治学)修了。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。マギール大学ビジネススクール日本校(MBA)修了。韓国サムスン外国語学校英語講師、玉川学園グローバル教育センター英語講師を経て、平成21年本校講師就任。平成24年准教授を経て、平成26年教授。専門は英語教授法(TESOL)。

### ■横顔

修士号を3つ(国際政治学、TESOL、ビジネス)取得した勉強家である。さまざまなレベルでの英語教育の分野の経験を活かし、本校での学生指導に意欲を燃やしている。

### ■趣味

読書、ランニング

### ■近況

私は、2009年から国際高専で英語を教えています。その間、多くの事を学びました。これからもさらにさまざまな事を学ぶことを期待しています。



教授・工学博士

## 千徳 英一

Sentoku Eiichi

### ■担当科目

(金沢) 機械工学実験 I・II、機械材料、振動工学、経営科学概論、創造設計 III

### ■略歴および専門分野

鳥越中学校(石川県)出身  
金沢工業大学機械工学科卒。同大学大学院博士課程(機械工学)修了。金沢工業高等専門学校教授、副教育改革主事を経て、2001年金沢工業大学教授、基礎実技教育課程主任を経て、平成29年4月本校教授就任。  
専門:セラミックス、切削加工学、工学設計、粉体粉末冶金協会参事1988年~現在  
論文・著書:サーメット工具のすくい面摩耗機構に関する研究(学位論文)、プロジェクトデザイン入門、I・II、実践、共立出版。

### ■横顔

本学機械工学科6期生で恩師に「努力、持続、感謝」の工作魂を学び、現在も忠実に守っている。教育で最も重要なことは、学生との信頼関係であると考え、日々の学生とのコミュニケーションを大切にしている。

### ■趣味

アマチュア無線(JR9RPD)全市全郡(市792, 郡380)、と交信でき喜んでいます。また、写真を撮るために旅を楽しんでいます。

### ■近況

現象を深く観察し、ある仮説を立てる。これが実験で確認できたとき大きな感動を覚える。学生と共に学び、考える「教学半」の精神で毎日を過ごしている。



学生主事(金沢)・教授

## 瀧本 明弘

Akihiro Takimoto

### ■担当科目

(金沢) 保健体育 III・IV

### ■略歴および専門分野

額中学校(石川県)出身  
日本体育大学体育学部体育学科卒。金沢工業大学助教授を経て、平成18年本校教授就任。専門は体育方法学、個人運動学、球技。著書に『パスの達人』。論文に「本学学生の体力に関する縦断的研究」など。

### ■横顔

スポーツマンらしく、明るく親しみやすい先生。学生をやさしく導くように教育される。しかし、目標を決めたときのきびしさや、粘り強さには定評があり、金沢工大のハンドボール部を毎年北信越のNo. 1に育てあげた。得意の運動分野も広い。

### ■趣味

服飾研究、カラオケ、健康整体

### ■近況

北信越学生ハンドボール連盟副会長。石川県ハンドボール協会常任理事。えふえむ・エヌ・ワンで毎月2回生放送に出演。



教授・博士(工学)

## 竹俣 一也

Kazuya Takemata

### ■担当科目

(金沢) 工学特論 I、技術者倫理、卒業研究

### ■略歴および専門分野

片山津中学校(石川県)出身。  
金沢工業大学情報処理工学科卒。金沢工業大学大学院工学研究科博士課程(情報工学)修了。  
金沢工業大学助手、本校講師、助教授、金沢工業大学准教授を経て平成25年本校教授就任。専門はリモートセンシング、教育工学。「航空機搭載型POLDER 陸域画像データを用いた地表面反射特性の解明に関する研究」で学位取得。現在は環境情報処理や感性情報処理の分野で研究に従事。シニア教育士(工学・技術)。

### ■横顔

変化に富んだ四季を楽しむ喜びを最近やっと分かってきました。あと何年この贅沢な思いを楽しめるのだろうか、もっと早くからこれについて気づくべきであったと反省しています。現在、金沢の七十二候を楽しむことができる生活について模索しています。

### ■趣味

愛犬と散歩すること

### ■近況

開発したモバイル型4次元シアターシステムSORaと共に、学校・病院・高齢者施設などを訪問し、地域における科学技術理解増進活動を推進しています。



学生副主事(金沢)

教授・博士(工学)

## 谷口 萌未

Moemi Taniguchi

### ■担当科目

(金沢) マーケティング I、企業会計 I、情報処理 III、情報処理 III(OP)、卒業研究

### ■略歴および専門分野

中国出身。長岡技術科学大学情報・制御工学専攻博士後期課程修了。北陸先端科学技術大学院大学助手を経て、平成7年日本電気(株)入社。海外新規事業の企画、立上げ、ベンチャー投資などを担当、マーケティングとグローバルビジネス開拓の経験を積み、平成24年金沢工業大学准教授を経て、平成26年4月本校准教授就任。平成27年10月教授。専門はマーケティング、グローバルビジネス企画・マネジメント、経営学。

### ■横顔

変化が好きです。何事も楽しく前向きに臨みたい。工学で学位を取得後、企業で新規ビジネス開拓に従事。長く海外ビジネスに携わっていたため、しっかりビジネスマインドになりました。

### ■趣味

旅行、ショッピング、料理、ホームパーティー、飲コミュニケーション、落語、卓球、屋外活動

### ■近況

忙しい毎日ですが、自分の時間もしっかり作りたい。効率を上げるために知識を活用することを常に意識するよう学生に、そして自分に要求しています。



教授・博士（工学）

## 田村 景明

Keimei Tamura

### ■担当科目

（金沢）ネットワーク基礎Ⅱ、創造設計Ⅲ、システム開発演習Ⅱ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

根上中学校（石川県）出身  
金沢工業大学情報処理工学科卒。金沢工業大学大学院修士課程（情報工学）修了。平成14年金沢工業大学大学院博士課程（情報工学）単位取得。昭和61年本校助手就任。講師、助教授を経て、平成16年教授。専門は計算機工学。「完全直線位相 IIR フィルタならびにフィルタバンクの設計法とその画像符号化への応用に関する研究」で学位取得。現在デジタル信号処理と画像処理に関する研究に従事。

### ■横顔

人柄は温厚で親しみやすく誰もが気軽に話しかけたいなる雰囲気をもっている。

### ■趣味

映画鑑賞、ものづくり

### ■近況

コンピュータを誰もが楽しく使えるようにと、日夜頑張っている。



電気電子工学科学科長  
教授・学術博士

## 土地 邦生

Kunio Tochi

### ■担当科目

（金沢）工学英語Ⅰ、材料工学、卒業研究、電子工学、創造実験Ⅲ

### ■略歴および専門分野

野々市中学校（石川県）出身  
金沢工業大学電子工学科卒。金沢工業大学大学院修士課程（電気電子工学）修了。金沢大学大学院博士課程（物質科学専攻）修了。ファインセラミックスや高周波回路の開発業務を経て、平成16年本校講師就任。平成18年助教授を経て、平成22年教授。専門は光物性および材料物性。「複合ペロブスカイト型化合物の誘電特性に関する研究」で学位取得。現在、地元企業との医療用観察器具の共同開発、教育用電気自動車の製作、半導体エネルギー帯構造の解析に従事。

### ■横顔

基礎学力、特に数学力の向上のために学生と一緒に勉強しています。皆さんの参加を待っています。また、コンピュータにも強くなりたいたいと思い、いろいろな本を読んでいます。

### ■趣味

特にありません

### ■近況

材料物性の電気特性の測定やコンピュータによる分析に取り組んでいます。よい成果を出して、学会発表や論文を投稿したいのですが、他の仕事が忙しいせい、能力不足のせい、なかなか進みません。



教授・工学博士

## 直江 伸至

Nobuyuki Naoe

### ■担当科目

（金沢）送配電工学、回路シミュレーション、電気システム設計Ⅱ、創造実験Ⅳ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

浅野川中学校（石川県）出身  
金沢工業大学電気工学科卒。金沢工業大学大学院博士課程（電気電子工学）修了。平成4年本校講師就任。平成9年助教授を経て、平成16年教授。専門は電力工学、電気機器。「ブラシレス励磁機なし同期発電機に関する研究」で学位取得。現在、再生可能エネルギーに利用する発電システム、地中におけるインピーダンストモグラフィの研究開発に従事。

### ■横顔

気さくな人柄である。

### ■趣味

釣り、作陶、陶器鑑賞



教授

## 中泉 俊一

Shunichi Nakaizumi

### ■担当科目

（金沢）微分積分Ⅱ

### ■略歴および専門分野

鶴来中学校（石川県）出身  
富山大学文学部理学学科数学専攻卒。松任農業高等学校教諭、松任高等学校教諭、金沢辰巳丘高等学校教諭、金沢錦丘高等学校教諭、松任高等学校教頭、金沢向陽高等学校教頭、小松瀬領特別支援学校校長を経て、平成24年本校教授就任。専門は数値解析、数学教育。

### ■横顔

これがよいことだと思つと、一人になろうとも自らやってみせて、結果を示すタイプ。仕事以外では、地域活動に参加しているいろいろな方との交流を深めています。

### ■趣味

美術館巡り、旅行、観劇

### ■近況

最近、数学の研究を離れ、中断したパステル画を始めて下手な絵を描いて楽しんでいます。



研究プロジェクト副主事  
教授・博士（工学）

## 林 道大

Michihiro Hayashi

### ■担当科目

（金沢）応用プログラミング、創造設計Ⅳ、機械設計Ⅰ、機械設計演習

### ■略歴および専門分野

紫錦台中学校（石川県）出身  
金沢大学工学部機械システム工学科卒。金沢大学大学院博士後期課程（システム創成科学）修了。地元の機械メーカーにてFA・物流関連機器の開発設計などを経て、平成23年本校准教授就任。平成26年本校教授就任。専門は機械設計工学、ロボット工学。「発見的的手法によるマニピュレータの動的効果を考慮した軌道生成」で学位取得。

### ■横顔

普通のサラリーマン生活が長かったので「先生」と呼ばれることに慣れていません。呼んでも返事が無かったら、もう一度大きな声で呼んでください。

### ■趣味

モータースポーツ、工作

### ■近況

健康維持のため、少しだけダイエット中です。ただし、おいしいものは体に良いらしいので、誘われれば断れないかもしれません。



グローバル情報学科学科長  
教授

## 藤澤 武

Takeshi Fujisawa

### ■担当科目

(金沢) データベース、創造設計Ⅳ、卒業研究、ビジネスシステム、ネットワークシステムⅡ a

### ■略歴および専門分野

奈古中学校(富山県)出身  
富山大学工学部電子工学科卒。イントラネットやインターネット関連の業務に従事。ネットベンチャー企業の執行役員や役員、独自の動画テクノロジーを用いた動画配信サービスをメインとしたWEBサービスの構築業務を経て、平成23年本校准教授就任。平成26年教授。

### ■横顔

慎重な割には好奇心が強く色々と手を出してみたい。そのせいか仕事では火中の栗を拾うことが多い。

### ■趣味

音楽鑑賞

### ■近況

これからは仕事もプライベートも無理せず、そして体にいい事を始めたい。と、赴任当初から言い続けている。



教務副主事・教授  
博士(工学)

## 藤島 悟志

Satoshi Fujishima

### ■担当科目

(金沢) コンピュータⅢ・Ⅳ、電気システム設計Ⅰ、データ通信ネットワーク、卒業研究

### ■略歴および専門分野

板津中学校(石川県)出身  
豊橋技術科学大学知識情報工学課程卒。豊橋技術科学大学大学院博士後期課程(機能材料工学専攻)修了。関西学院大学博士研究員、豊橋技術科学大学助教を経て、平成21年本校准教授就任。2019年教授。専門は知識情報工学。「化学構造のTFS表現による薬物構造データマイニングに関する研究」で学位取得。現在、データマイニング、知識発見、BMI/BCIに関する研究に従事。

### ■横顔

老後の生活を見据えて、必要な知識を習得中。

### ■趣味

旅行、野球、読書

### ■近況

ライフワークバランスの重要性を認識し、実践していきたい。



教授 Ph.D

## ポーリン・ベアード

Pauline Baird

### ■担当科目

(白山麓) リスニング・スピーキングⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ブリッジングリッシュ、世界文学Ⅰ

### ■略歴および専門分野

[スコットランド] アンドルー大学文学部英文学科卒業。[米国] セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了(英語を外国語とする学習者への英語教授)。[米国] ボーリング・グリーン州立大学大学院博士課程(英語修辞法)修了。金沢工業大学講師。[パラオ共和国] パラオミッションアカデミー副校長。[米国] グラム大学英語教育学部講師を経て、平成29年10月本校教授就任。専門は英語修辞法。

### ■横顔

カリブ、アメリカ、パラオ、グアムなど様々な国々で長年、教鞭をとってきた教育熱心な先生です。学ぶことが大好きで幾つかの学位(英語教授法(博士、修士)、英語(学士))を取得しています。学生達を奮い立たせ、学生達から学ぶことを喜びとしています。

### ■趣味

犬との散歩、友達や家族とおしゃべり、料理

### ■近況

お互いの文化を学び合う素敵な時間を過ごしましょう。



国際理工学科学科長・教授

## 松下 臣仁

Omihito Matsushita

### ■担当科目

(金沢) 情報ビジネス英語Ⅱ  
(白山麓) エンジニアリングデザインⅠA・ⅡA、エンジニアリングコンテキストⅠA、コンピュータスキルズⅡB

### ■略歴および専門分野

岩出中学校(和歌山県)出身  
関西外国語大学外国語学部英米語学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。イリノイ工科大学大学院修士課程(デザイン方法論)修了。平成15年本校講師就任。平成21年准教授。平成28年教授。専門は英語教授法(TESOL)、デザイン方法論。

### ■横顔

いつも穏やかでありながら頼りがいがあります。長いアメリカでの生活から役に立つ英語の使い方を教えてください。また留学中は留学生アシスタントとして働いていた経験から世界中に友達があります。世界各地の話題が授業の中で紹介されるでしょう。

### ■趣味

サッカー(インターハイ出場)、映画鑑賞

### ■近況

授業を通じて国際高専生のスクールライフを豊かにし、共に語り合う機会を持っていきたいと思っています。



教授・博士(工学)

## 南出 章幸

Akiyuki Minamide

### ■担当科目

(金沢) 電子回路Ⅰ・Ⅱ、設計製図、電気磁気学Ⅱ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

額中学校(石川県)出身

金沢工業大学電子工学科卒。金沢工業大学大学院博士課程(電気電子工学)修了。平成5年本校助手就任。講師、助教授を経て、平成21年教授。専門は計測工学。「簡易型光音響顕微鏡システムの開発とその物質工学への応用」で学位取得。現在、高分子フィルムセンサーと熱波顕微鏡システムの開発に関する研究、感動創出システムおよびそのコンテンツの開発に関する研究に従事。シニア教育士。

### ■横顔

企業とのコラボに向けて奮闘中。

### ■趣味

ドライブ、映画鑑賞

### ■近況

サイエンスコミュニケーションプロジェクトとして、小・中学校への出前授業および高齢者施設への慰問活動を積極的に行っています。現在、小学生向けの新しいプログラミング教材を開発中。



教務主事・教授

## 宮野 純光

Yoshimitsu Miyano

### ■担当科目

(金沢) 社会科学Ⅰ

### ■略歴および専門分野

紫錦台中学校(石川県)出身

高野山大学文学部人文学科卒。大正大学文学研究科修士課程(史学)修了。大正大学文学研究科博士後期課程(史学)単位取得。大正大学総合佛教研究所研究生。平成17年本校講師就任。平成21年准教授。平成29年教授。専門は日本中世史および日本仏教史。著書に『宝仙寺の金石文』がある。

### ■横顔

一見堅そうにみえますが、話すと意外に気さくで面倒見が良い。遠慮なく話しかけてみてください。実はお坊さんという一面も。

### ■趣味

読書、ウォーキング、メガネ収集

### ■近況

最近では能登の寺院調査に出かけており、調査結果をもとにシンポジウムも開催しました。郷里金沢で、国際高専のみなさんと一緒に学んでいきたいと思っています。



研究プロジェクト主事  
創造技術教育研究所長・教授

## 山崎 俊太郎

Shuntaro Yamazaki

### ■担当科目

(白山麓) エンジニアリングコンテキストⅠ B・ⅡA・ⅡB、エンジニアリングデザインⅡ A・ⅡB

### ■略歴および専門分野

豊玉第二中学校(東京都)出身

筑波大学基礎工学類卒業。同大学院理工学研究科物理学専攻修了。NEC中央研究所 研究統括マネージャー。NECスマートエネルギー事業本部 副事業本部長。金沢工業大学客員研究員/金沢工業高等専門学校客員教授を経て、平成30年1月本校教授就任。専門はスマートエネルギー、蓄電システム、モバイルネットワーク、光通信など。

### ■横顔

前職では研究開発、国際標準化、国内営業、海外企業買収など様々な経験をしてきました。こうした経験を教育現場で活かせればと思い転職しました。金沢工大地方創生研究所を兼務、高専生の活動フィールド拡大にも貢献します。アウトドアライフが好きなので、白山麓キャンパス勤務の依頼は喜んでお引き受けした次第です。

### ■趣味

サイクリング、ゴルフ、登山、スキー など

### ■近況

今年度からEngineering ContextでSDGsの授業を行うため、金工大と連携して内容を詰めています。自身としても2030SDGs公認ファシリテータの資格を取得し、準備を進めています。

# 准教授



教務副主事  
准教授・博士（情報科学）

井上 恵介

Keisuke Inoue

## ■担当科目

（白山麓）コンピュータスキルズⅠB・ⅡA・ⅡB  
（金沢）アルゴリズムとデータ構造、システム開発演習Ⅰ、コンピュータシステムⅡ

## ■略歴および専門分野

佐鳴台中学校（静岡県）出身  
東京工業大学工学部情報工学科卒。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報システム学専攻博士前期課程（情報システム学）修了。北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科情報システム学専攻博士後期課程（情報システム学）修了。日本学術振興会特別研究員（DC2、PD）、北陸先端科学技術大学院大学高信頼組み込みシステム教育研究センター研究員を経て、平成24年3月本校講師就任。平成29年准教授。専門はシステムLSIの高位合成。

「Constraint-Based Approaches and Optimizations to Variability-Tolerant Datapath Synthesis」で学位取得。

## ■横顔

北陸のどんよりとした天候が好きです。

## ■趣味

読書

## ■近況

健康でありたいと思っています。



創造技術教育研究副所長  
准教授

オガワ・ハヤト

Hayato Ogawa

## ■担当科目

（金沢）工業英語Ⅰ・Ⅱ、創造実験Ⅲ  
（白山麓）エンジニアリングデザインⅠA・ⅠB、エンジニアリングコンテキストⅠB・ⅡA・ⅡB

## ■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部卒。ウィスコンシン州立大学大学院修士課程（工学）修了。EM Aオートメーテッドデザイン社勤務を経て、平成20年10月本校助教就任。平成24年講師。平成29年准教授。専門は電気工学。

## ■横顔

両親は日本人であるが、生まれも育ちもアメリカ合衆国であり、国籍は日本とアメリカの両方を持っている。全ての教育をアメリカで受けてきたので、考え方や行動は全くアメリカ人の様であるが、時折見せる日本的な礼儀作法や心づかいが周囲に好感をあたえている。

## ■趣味

スポーツ、料理、旅行

## ■近況

金沢の街は実に日本的で、食べ物も美味しいのでとても気に入っています。英語で学生達と工学の学習を深めていきたいと思っています。



学生副主事（白山麓）  
准教授

湯辺 豊

Yutaka Katabe

## ■担当科目

（白山麓）国語表現ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB、文学Ⅰ・Ⅱ

## ■略歴および専門分野

羽咋中学校（石川県）出身  
金沢大学文学部文学科卒業。兵庫教育大学大学院教科領域教育修士課程修了。加賀聖城高校教諭。富来高校教諭。津幡高校教諭。金沢桜丘高校教諭。鶴来高校教諭。林業に従事（5年間）を経て、平成29年9月本校准教授就任。専門は中世仏教説話。

## ■横顔

山好きが高じて、10年ほど前に白山麓へ一家転住しました。サルやカモシカが時々訪れる小さな家で暮らしています。

## ■趣味

焚火など

## ■近況

庭に植えてから5年くらい、全く枝の伸びなかった無花果が、急に枝葉を伸ばして美味しい実をたくさんつけました。植物は根が伸びると急成長するみたいです。人も同じで、内面が充実してくると、ある日突然変貌するのでしょうか。若いときには、すぐに結果は出なくても焦らず根を伸ばしてください。



准教授・博士（芸術）

小高 有普

Arihiro Kodaka

## ■担当科目

（金沢）デザインメソッドⅢ、創造設計Ⅲ・Ⅳ  
（白山麓）エンジニアリングコンテキストⅠA、エンジニアリングデザインⅡA・ⅡB、コンピュータスキルズⅠA、ビジュアルアーツⅠ・Ⅱ

## ■略歴および専門分野

森本中学校（石川県）出身  
金沢美術工芸大学美術工芸学部産業美術学科工業デザイン卒。企業内デザイナー、デザイン事務所勤務後、デザイン事務所設立。金沢工業大学非常勤講師、本校非常勤講師、金沢美術工芸大学非常勤講師を経て、平成24年本校准教授就任。専門は産業機械、住宅設備、公共設備などの工業デザイン。金沢美術工芸大学大学院博士後期課程（プロダクトデザイン）修了。『工業系高専における『創造性』喚起のためのデザイン教育導入の研究』で学位取得。

## ■横顔

美しい形と素材には目がない。「モノ」から伝わるメッセージ、「コト」から始まるアクション…、日々生活の中で感じる何かを大事にしています。

## ■趣味

釣り、野球、車

## ■近況

オンとオフはできるだけ切り離そうと努力している。オフで体力を充電するつもりが、消耗し続けている。体調には十分配慮したいです。



准教授

## 児玉 浩一

Koichi Kodama

### ■担当科目

(金沢) 応用物理Ⅰ・Ⅱ、工学特論Ⅰ・Ⅱ、物理化学Ⅱ・Ⅲ、線形代数Ⅱ

### ■略歴および専門分野

弥刀中学校(大阪府)出身

金沢大学理学部化学科卒。金沢大学大学院理学研究科化学専攻修了。平成5～7年、平成25年本校非常勤講師を経て、平成26年准教授就任。専門は理論化学。

### ■横顔

食べることが何よりも大好き。国際高専の周りには、美味しい店もたくさんあるので、楽しみです。

### ■趣味

卓球・カメラ・旅行(ドライブ)など

### ■近況

昨年度も、全国各地へ旅行へ行きました。年末に大河ドラマで話題になった西郷どんの舞台になった鹿児島へ旅行しました。そこで、西郷隆盛ゆかりの地を各所回ってきました。今年も、自分の肥やしにあちこち回りたいと思います。



准教授・博士(工学)

## 小間 徹也

Tetsuya Koma

### ■担当科目

(金沢) 機械製図演習、創造設計Ⅲ、機械設計Ⅱ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

泉中学校(石川県)出身

金沢工業大学機械工学科卒。金沢工業大学大学院博士後期課程(高信頼ものづくり専攻)修了。パナソニック(株)勤務を経て、平成20年本校講師就任。専門はメカトロニクス。「ダンピング機能を備えたULV用増速式リニア型発電サスペンションの開発とその実証研究」で学位取得。

### ■横顔

ねばい(あきらめの悪い)性格でカーブがなかなか投げられない固い人間と本人は思っているが、人の意見に左右されやすい楽天主とも言われる。

### ■趣味

スナップ写真、スキー

### ■近況

昨春に買ったズボンがまたキツくなってしまいました…。あまり食べないようにしないとけません。今年度もよろしくお願いたします!

進路指導副主事・准教授

## 坂倉 忠和

Tadakazu Sakakura

### ■担当科目

(金沢) ネットワークシステム、オペレーションズリサーチ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

津幡中学校(石川県)出身

近畿大学理工学部経営工学科卒。金沢工業大学大学院博士課程(情報工学)単位取得。金沢工業大学助手を経て、平成15年本校講師就任。平成21年准教授。専門は情報工学。現在、ステガノグラフィなどの情報ハイディングに関する研究に従事。

### ■横顔

IT関連の新しい技術がどんどん現れてきています。制限された時間の中でそれらをどうやって勉強しているか頭を悩ませています。

### ■趣味

ドライブ、音楽

### ■近況

いつもコンピュータと闘っています。



准教授・工学博士

## 袖 美樹子

Mikiko Sode

### ■担当科目

(金沢) 情報数学、コンピュータシステムⅠ、卒業研究、電磁気学Ⅰ、情報伝送工学

### ■略歴および専門分野

野々市中学校(石川県)出身

金沢工業大学情報工学科卒。(株)日本電気、(株)NECエレクトロニクス、(株)ルネサスエレクトロニクス勤務。早稲田大学大学院基幹理工学研究科博士後期課程修了。平成26年金沢工業大学准教授を経て平成29年4月本校准教授就任。専門: グラフ理論、数理計画、半導体デバイス設計 論文・著書: 「Power/Ground Networks Optimization Design Methods with Noise Immunity」(学位論文)。

### ■横顔

心のきれいな、真つすぐな人が好きです。自分に自信を持ち信念を曲げず人生を歩んでいける人材を育てたいと考えています。

### ■趣味

街を観察し、街の在り方を見て歩く事。

### ■近況

交通が不便な地方を自動運転等の技術で改革を起し活性化したい。その為に、Bus StopプロジェクトやSmart Cityプロジェクトを主催しています。一緒に活動してくれるメンバーを募集しています。



准教授

## ロバート・ソングー

Robert Songer

### ■担当科目

(金沢) 情報ビジネス英語Ⅱ・Ⅲ、システム開発演習Ⅰ、ソフトウェア工学Ⅱ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部ソフトウェア工学科卒。ランゲージ・インテリジェンス社での技術スペシャリストとしての勤務を経て、平成21年5月本校助教就任。平成24年5月講師。平成29年准教授。専門はソフトウェア工学。

### ■横顔

日本と日本文化に深い興味と敬意を持つ、さわやかなエンジニアである。自らの名前を侶羽渡尊賀と書くほど、日本に憧れをもっている。また学生時代には金沢工業大学に夏期留学のため訪れている。

### ■趣味

文化探求、旅行、写真、ゲーム、先端技術

### ■近況

学生時代に訪問した金沢に、今度は社会人として戻ってこれたことがとても嬉しいです。これからも多くの人のつながりの大切さを学んでいきたいと思ます。



准教授・博士(工学)

## アラール・ホセイン

Alaa Hussien

### ■担当科目

(白山麓)基礎数学A・B、代数・幾何学A・B  
(金沢)計測制御、電気基礎、電子回路基礎

### ■略歴および専門分野

エルミニア大学(エジプト)工学部電気工学科卒。エルミニア大学大学院修士課程修了。金沢大学大学院博士課程修了(電気工学)。ミニア大学(エジプト)電気工学部講師、金沢大学自然科学研究科助教、ウム・アル・クラ大学(サウジアラビア)工学部助教を経て、平成27年4月本校講師就任。平成30年准教授。専門は電気工学。

### ■横顔

専門は電気工学であるが、研究テーマは機械工学に強く関連している。また、教育学に強い興味を示し、学生との効果的コミュニケーションのための技術を学ぶため、訓練コースを受講してきた。

### ■趣味

サッカー、読書

### ■近況

古い日本の伝統文化を残す金沢の街が大好きです。国際高専の学生には、専門の学習、日頃の会話を通して楽しい学校生活を送ってもらいたいと願っています。また、エジプトの文化、人、そして風習などを皆に話し、興味を持ってもらえたら、と思っています。



国際交流副主事・准教授

## 宮野 肇

Hajime Miyano

### ■担当科目

(金沢)英語資格技術、情報ビジネス英語Ⅰ、総合英語Ⅲ、海外英語研修

### ■略歴および専門分野

泉中学校(石川県)出身  
慶應義塾大学総合政策学部卒。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。いすゞ自動車株式会社勤務を経て、平成25年2月本校講師就任。平成28年准教授。

### ■横顔

中学生の時に父親の仕事の関係でアメリカに1年間滞在し、アメリカの公立中学校で学んだ。また、いすゞ自動車勤務時には、世界中の取引先の人々と仕事をした国際派ビジネスマン。そのグローバルな経験を国際高専での教育に活かそうと意気込んでいる。

### ■趣味

登山、キャッチボール、ジム通い

### ■近況

昨年の夏、小学2年生の次男を初めて白山登山に連れていきました。今年も長男と3人で一緒に登りたいと思っています。



研究プロジェクト副主事

准教授・博士(工学)

## 諸谷 徹郎

Tetsuo Moroya

### ■担当科目

(金沢)創造実験Ⅳ、電気回路Ⅱ、システム工学、メカトロニクス、卒業研究

### ■略歴および専門分野

額中学校(石川県)出身  
金沢工業大学電子工学科卒。金沢工業大学大学院博士後期課程(電気電子工学専攻)修了。リソテック(株)勤務を経て、平成19年本校講師就任。平成28年准教授。専門は小形アンテナ。「AMC技術を用いた小形アンテナに関する研究」で学位取得。

### ■横顔

もともと口数は少ない方だが、調子に乗ると必要以上のおしゃべりに変身。たまに脱線する。

### ■趣味

ドライブ(二輪、四輪)

### ■近況

学会発表等で海外に行く機会があり、もっと英語が出来たらこの歳になっても実感させられます。学生に負けないように専門分野は勿論のこと英語にも力を入れたいと思っています。

# 講師



講師

## ハリアンティ・アズマン

Haryanti Adzman

### ■担当科目

(金沢) 創造実験Ⅲ・Ⅳ、デジタル回路、上級英語Ⅰ、回路シミュレーション

### ■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学工学部テレコミュニケーション工学科卒業。モトローラマレーシア、ペティアンドウルフデザイン社勤務を経て平成27年10月本校講師就任。専門は電気電子工学。

### ■横顔

モトローラ研究開発所において、iDEN（携帯電話）およびPCR（2-Wayラジオ）の設計不具合対応をしていました。そこでの4年間で、無線周波数について多くのことを学びました。その後建築デザインの世界に飛び込みましたが、この2つの分野には共通点があったため、仕事に慣れるのに時間はかかりませんでした。今回の教育分野での第一歩も、同様にスムーズにいくことを願っています。

### ■趣味

旅行、外国映画鑑賞、ソーイング

### ■近況

マレーシア人の私は、冬に雨や雪が少ないことを願っています。また教師として、実りある一年にしたいと思っています。



講師

## キース・イコマ

Keith Ikoma

### ■担当科目

(金沢) 英語スキルズⅢ、上級英語Ⅱ、情報・ビジネス英語Ⅰ

### ■略歴および専門分野

トンプソンリバーズ大学卒業。トリニティ・ウエスタン大学修士課程修了（キリスト教学）。専門はカナダ文学。キリスト教学。秋田県立秋田工業高等学校等にてALTとして5年間の勤務を経て、平成30年10月本校講師就任。

### ■横顔

出身はカナダのバンクーバーです。名前からおわかりですが日系カナダ人です。祖父母が日本からカナダに移住したという家族のもとで育ち、幼い頃から日本の文化、食べものに興味をもちました。大好きな日本の食べものは焼いたおもちです。秋田県で5年間英語を教え、今金沢での新たな生活に胸をときめかしています。金沢の歴史、文化、そして食べものも学びたいと思います。

### ■趣味

旅行、読書、外国語

### ■近況

10月に秋田から引っ越して、新天地の石川県を探検したいです。日本では37県に行ったので残りの県にも行きたいです。最近、生涯学習のために日本語や教育についての本を読んでいます。教育は人間関係だと思います。



講師・博士(工学)

## 伊勢 大成

Taisei Ise

### ■担当科目

(金沢) 機械工学演習Ⅰ、数値計算演習(白山麓)エンジニアリングデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

### ■略歴および専門分野

福岡中学校(富山県)出身。石川工業高等専門学校機械工学科卒。金沢大学大学院博士後期課程(システム創成科学専攻)修了。能登の超硬合金メーカーにて品質保証・研究開発業務を経て、平成26年本学講師就任。専門はセンサ工学。学生時代は路面の摩擦係数を測定するタイヤ用センサに関する研究に従事。

### ■横顔

何事にも首を突っ込みたがる性格です。勉強・研究や進路相談、恋愛相談など、何でも気軽に声をかけて下さい。

### ■趣味

ボードゲーム、電子工作、木工工作、マラソン

### ■近況

認知度はイマイチですが、ボードゲーム(ドイツゲーム)はコミュニケーションを楽しめ、絆を深められる素晴らしいツールです。たまにはアナログな遊びもいんですよ。



講師

## 黒田 譜美

Fumi Kuroda

### ■担当科目

(金沢) 国語Ⅲ・Ⅳ

### ■略歴および専門分野

南ヶ丘中学校(岐阜県多治見市)出身。金沢大学文学部文学科卒。金沢大学文学研究科博士前期課程修了。平成27年度本校講師就任。専門は中国文学。主に中国南方の地方劇、語り物の研究に従事。

### ■横顔

学生のときオーケストラでヴァイオリンを弾いていました。音楽は聴くのも演奏するのも好きです。

### ■趣味

読書、音楽鑑賞

### ■近況

教壇に立つにあたって、よき表現者でありたいと思う一方、皆さんの表現を受けとれる、よき聞き手、よき読み手でありたいと思っています。若者言葉についていけないこともあります。皆さんとの交流を通じて新しい知識を得られることを楽しみにしています。



講師

## 坂井 仁美

Hitomi Sakai

### ■担当科目

(金沢)機械製図演習、エンジニアリングマネジメント、機械工学実験Ⅱ、卒業研究

### ■略歴および専門分野

金沢工業大学工学部機械工学科卒。金沢工業大学工学研究科機械工学専攻修了。製品の寿命などを評価する試験機器専門メーカーでの勤務を経て、平成25年本校講師就任。

### ■趣味

料理、ドライブ

### ■近況

運動不足の解消についてのんびり考えています。まずは教室へ向かう階段の上り下りから…頑張ります。



講師

## カー・ケン・タン

Tan Kah Keng

### ■担当科目

(白山麓) コンピュータスキルズⅠA、エンジニアリングデザインⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB

### ■略歴および専門分野

南洋人文アカデミー卒業。ニューサウスウェールズ大学大学院修士課程修了(デザインマネジメント及び教育)。シンガポールポリテクニクインターナショナル、ネルスンマルボロ工科大学、シンガポールファニチャー工業協会を経て平成30年4月本校講師就任。専門はデザインマネジメント及び教育。

### ■横顔

シンガポール、ニュージーランドでデザイン思考の指導にあっていた。また本校学生も参加しているラーニングエクспレスの代表指導者も経験している。

### ■趣味

写真、登山、マウンテンバイク、水泳

### ■近況

白山という有名な山の写真を撮ったり、山歩きなどすることを楽しみにしています。1年中夏のシンガポールと違い、四季のある日本の生活を経験できることをうれしく思っています。



講師

## ジェニー・チュー

Jenny Chio

### ■担当科目

(金沢) 上級英語Ⅰ・Ⅱ、英語総合技能A・B

### ■略歴および専門分野

ブリガムヤング大学(アイダホ州レックスバーク)卒業(英語教育専攻)。サンフランシスコ州立大学大学院修士課程修了(TESOL専攻)。平成27年8月本校講師就任。専門はTESOL(他言語話者のための英語教育法)。

### ■横顔

生まれも育ちもカリフォルニア州サンフランシスコである。両親はアメリカへ移民して来たので、新しい言語を学ぶことの難しさを知っているが、彼女は新しい言語を学ぶことは楽しいと考える。だから彼女は学生達とその楽しさを共有することを望んでいる。彼女はのんきではあるが、勤勉である。学生達はクラスで一生懸命勉強し、たくさん楽しむでしょう。

### ■趣味

読書、音楽鑑賞、ボランティア活動、新しいことに挑戦すること

### ■近況

英語は難しいですが、全力で学生のみなさんが学ぶことの助けをしたいと思います。みなさんと一緒に学ぶ、楽しい時間を過ごすことを楽しみにしています。一緒に全力を尽くしましょう。



講師

## 津田 明洋

Akihiro Tsuda

### ■担当科目

(白山麓)リーディングライティング I A・I B・II A・II B・ブリッジイングリッシュ

### ■略歴および専門分野

名古屋大学教育学部附属中学校(愛知県)出身  
玉川大学文学部比較文化学科卒。セントマイケルズ大学大学院修士課程(第二言語としての英語教授法)修了。平成26年9月本校講師就任。

### ■横顔

アメリカでの学生時代は世界中からの留学生を支援するスチューデントアシスタントとして仕事もしました。そのやさしさと真面目さから、たくさんの留学生から信頼され慕われました。清潔感にあふれた津田先生は様々な点でロールモデルとなることだろう。

### ■趣味

読書、旅行、映画鑑賞、ドライブ、音楽、バスケットボール観戦

### ■近況

留学中はアメリカのバーモント州という極寒の地で暮らし、また雪の多い金沢という新天地での生活を送りました。金沢・石川のいろいろな顔を見てみたいのでぜひ教えてください。



講師

## ジェームス・テイラー

James Taylor

### ■担当科目

(白山麓)リスニング・スピーキング I A・I B・II A・II B、英語表現 I A・I B・II A・II B、エンジニアリングコンテキスト II B

### ■略歴および専門分野

リーズ大学人文学科卒。リーズ大学大学院修士課程(他言語話者に対する英語教授)修了。黄石理工学院および大連ノイソフト情報大学を経て平成28年4月本校講師就任。

### ■横顔

中国の工科系大学で英語を教えた経験もあります。日本の高専で若い未来のエンジニアとともに学んでいきたいと張り切っています。今、日本語の勉強にも力を入れています。イギリスのケント出身である。国際高専で初めてのイギリス人英語教員であり学生は彼のクイズイングリッシュを経験することができるだろう。

### ■趣味

ラグビーリーグ、クリケット、サッカー観戦、バトミントン、読書、料理、旅行

### ■近況

高専という日本の優れた教育機関で英語を教えることに喜びを感じています。英語と理工系科目を融合させた新たな授業を進めたいと思います。



講師

## エドワード・バスケル・Jr.

Edward Basquill Jr.

### ■担当科目

(白山麓)リスニング・スピーキング I A・I B、II A・II B、歴史文学 I A・I B

### ■略歴および専門分野

[米国]ニューヘブンスザンコネチカット州立大学卒業(歴史学)。同州立大学大学院修士課程修了(初等教育)。[米国]セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了(英語教授法)。韓国アパロン英語学校講師。広島県でALTとして英語を教授。中国広州市シアンジアン中学校で世界史教員を経て、平成29年10月本校講師就任。

### ■横顔

特技はウクレレです。背中にウクレレを背負って、颯爽とキャンパスを歩く姿は独特なものがある。授業できっとその腕前を見せてくれるでしょう。いつでも声をかけると、にこやかに返してくれる先生です。もう一つの特技は、お菓子作りやパンを焼くことです。同僚の先生方からも、その味は太鼓判を押されています。

### ■趣味

読書、ファンタジー小説を書くこと、ビデオゲーム、カポエイラ(ブラジルで行われる男性の舞踏)、ベーキング、ロッククライミング

### ■近況

共に学び、楽しい1年にしましょう。



講師

## ハズワン・ハリム

Hazwan Halim

### ■担当科目

(白山麓)物理 II A、エンジニアリングコンテキスト II A

(金沢)創造実験IV、デジタル回路、工学英語 II

### ■略歴および専門分野

[マレーシア]マラ工科大学工学部電気工学科卒業。マラ工科大学大学院修士課程修了(電気工学)。[マレーシア]セギ大学講師を経て、平成29年10月本校講師就任。

### ■横顔

Born and raised in Malaysia, it is a country with only one season; hot and humid throughout the year. I have been teaching in several universities and being able to do it in Japan is like a dream come true. As Japan is one of our country role models, I want to experience it by myself. There is a lot of things I want to learn especially Japanese culture. struggle with English as a second language, now I have Japanese to be learned as my third language. I will do my absolute best for it.

### ■趣味

Traveling and riding motorcycle

### ■近況

Last year was a wonderful year with a lot of new experience. With the new course this year, I am expecting more challenging yet interesting experience.



講師

## ジャスティン・ハン

Justin Han

### ■担当科目

(金沢)工業力学I、工業英語 I、材料力学 I (OP)、メカトロニクスII、機械材料II

### ■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学機械工学科卒。平成24年9月本校助教就任。2019年講師。専門はロボティクス工学。

### ■横顔

一見すると日本人だと思われませんが、実際はニューヨークで生まれ育った中国系アメリカ人です。長い間日本に興味があり、大学で日本について勉強しました。日本で若者を教え、交流できる事にワクワクしています。平成22年のKITサマープログラムで金沢に来て、とても気に入ったので戻って来ました。

### ■趣味

ロボット、アニメ・漫画、新しい物を試すこと

### ■近況

前回の滞在時、日本について人や本などからたくさん学びました。今回もっといろいろなことを知るのを楽しみにしています。



講師

## メイサ・プールシャップ

Maesa Poolshup

### ■担当科目

(白山麓) エンジニアリングコンテキスト I A、コンピュータスキルズII A

### ■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学情報学部卒業。ロチェスター工科大学大学院修士課程修了(インフォメーションテクノロジー)。エビックシステムズ、IBM勤務を経て平成30年4月本校講師就任。専門はインフォメーションテクノロジー。

### ■横顔

生まれはアメリカ合衆国でタイ王国にルーツがあります。情報のスペシャリストとしてIBMなど米国の大企業で仕事をしてきました。タイ、アメリカの文化を吸収しているのでこれからは日本文化を学んでいきたい。

### ■趣味

旅行、ハイキング

### ■近況

企業での経験を国際高専での教育に大いに活かしていくことを楽しみにしています。学生達と共にイノベーションをおこす環境を作っていきたいと思っている。



講師

## ナグワ・ラシド

Nagwa Fekri Rashed

### ■担当科目

(白山麓) 化学I A・I B・II A・II B

### ■略歴および専門分野

ミニア大学理学部卒(エジプト)。ミニア大学大学院修士課程(化学工学)修了。ダージャナ・インターナショナルスクール(サウジアラビア)及びセイハネットワーク株式会社(英会話講師)を経て、平成27年10月本学講師就任。

### ■横顔

文明の発祥地であり、日本と気候、文化も大きく違うエジプトの出身である。日本の文化、人々、教育等エジプトとの違いに強い興味を持ち日本への理解と愛情を深めている。高専生にはぜひともエジプトに興味をもってもらいたいと願っています。様々な場面でエジプトのお話しをしたいと思います。

### ■趣味

読書、旅行、インターネット、屋外スポーツ

### ■近況

日本に住んでいるうちにいつの間にか日本を第二の故郷と感じるようになりました。化学の授業を通して、学生たちの輝かしい未来のためにささやかながらでも貢献したいと思います。



講師

## チュンフェン・リン

Chun Feng Lin

### ■担当科目

(金沢) 英語スキルズIII、上級英語 I・II

### ■略歴および専門分野

[台湾]文化大学経済学部法律学科卒業。[米国]セント・マイケルズ大学大学院修士課程修了(英語教授法)。[台湾・桃園市]中原大学。[台湾・新竹市]国立清華大学。[台湾・台北市]淡江大学での英語講師を経て、平成29年10月本校講師就任。

### ■横顔

出身は台湾です。台湾の大学で英語を教えていましたが、ここ金沢では、ちょっと若い学生と接することになりました。授業運営や教材作りで新たな挑戦と楽しみにきました。台湾はグルメ国であるため、様々なおいしい食べ物を知っています。台湾グルメも紹介したいと思っています。

### ■趣味

水泳、テニス観戦、韓国映画

### ■近況

英語は皆さんが考えているほど難しくはありません。みなさんが英語を受け入れ、英語の映画を観たり、英語の本を読んだり、英語の音楽を聞いたり、英語の環境に身を置こうとすれば大丈夫です。私が学んできたように皆さんにも学んで欲しいと思います。皆さん達と勉強することを楽しみにしています。

# 助教



助教

## デイビス・エバンス

Davis Evans

### ■担当科目

(金沢) 工業英語Ⅱ、機械製図演習(OP)、機械設計演習

(白山麓) 物理ⅠA・ⅠB

### ■略歴および専門分野

カリフォルニア州バカビル出身。ローズハルマン工科大学機械工学科卒。大学では専門分野以外に、ロボティクスや日本語、日本文化についても学ぶ。平成27年7月本校助教就任。専門は機械工学。

### ■横顔

祖母が日本人留学生のホームステイのホストファミリーだったので、幼いころから日本の学生と一緒にいろいろな経験をしました。また、高校生と大学生の間には多くの国々、例えば、イギリス、フランス、韓国、そして日本を訪問しています。家庭教師として、色々な人に教えた経験も多いです。

### ■趣味

旅行、キャンプ、ビデオゲーム

### ■近況

金沢には2014年の夏にKITのサマープログラムで初めて来ました。そして、すぐ翌年2015年の夏にはICTの仲間になりました。



助教

## スティーブン・カレラ

Steven Carrera

### ■担当科目

(白山麓) 微分・積分、解析基礎、代数・幾何学、基礎数学

### ■略歴および専門分野

マイアミ・デードコミュニティカレッジ 数学・準学士取得。フロリダ大学 数学・学士取得。マイアミ・デードコミュニティカレッジ 数学家庭教師(約2年半)。フロリダ大学補足講師(約2年半)。北京师范大学附属高校 数学教師(2年半弱)。高知県大川 小・中学校 英語教師として3年間の勤務を経て、平成30年10月本校助教就任。

### ■横顔

私は、コミュニケーションをとることがとても好きです。アイデアを共有すること、他者から学ぶことも好きです。私は先生という立場を持ちますが、私自身を人生の生徒だと捉えています。なぜなら、私は沢山のことを学ぶのが大好きだからです。

### ■趣味

旅行、写真を撮ること、ドローン、ラケットボール、スクウォッシュ、カウチサーフィン、ジャズミュージック、ヒップホップミュージック、ハイキング、運転、お祭りに参加すること、映画を見ること

### ■近況

自然豊かな美しい白山麓で、妻と昨年産まれた息子との新生活を楽しんでいます。また、数学を教えること、生徒の成長を手助けすることも楽しみのひとつです。生徒一人一人が、将来、課題解決が容易にできるように、沢山学ぶことを願っています。また、私は新しいカリキュラムや環境を、一緒に構築、創造することも楽しんでいます。そして、私は、本校が豊かな教育環境に成長する手助けができれば嬉しいです。



助教

## フィリップ・ケザウ

Philip Cadzow

### ■担当科目

(白山麓) 保健体育ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB  
(金沢) 保健体育Ⅲ

### ■略歴および専門分野

オタゴポリテクニク・アウトドア活動及びスポーツ科ディプロマコース修了。ガーデンズニューワールドチリアー助手。フォックス氷河ガイド等の勤務を経て平成30年4月本校助教就任。専門はアウトドア活動及びスポーツ指導。

### ■横顔

ニュージーランド登山、氷河歩き。ハイキング、リーダーシップ活動、アドベンチャー活動のインストラクターとしての経験をもつ。またほとんどスポーツもこなす完全アウトドア派である。アウトドアの本場であるニュージーランドの様々なアウトドア活動を本校に紹介してくれる。

### ■趣味

スポーツ、登山、スキー

### ■近況

ニュージーランドの少年少女に指導したリーダーシップ活動やアウトドア活動を国際高専の学生諸君に体験し、そのたのしきあるいはそこから学ぶ人間関係や自然の美しさを感じ学んでほしい。



助教

## アン・イソベル・タン

Anne Isobel Tan

### ■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

### ■略歴および専門分野

ロチェスター工科大学卒業。専攻はパッケージング科学で副専攻はマーケティングと日本語。ニュージャージー州のMenasha社においてデザインエンジニアとしてインターンシップを行う。また、ノースカロライナ州のSyngenta社とコネチカット州のBIC社においてパッケージングエンジニアとしてインターンシップを行った。平成30年6月本校助教就任。

### ■横顔

新しい場所で新しい人に出会うこと、異文化を体験することが一番好きなこと。新しいことを学び様々な人とつながりを持つことが好き。

### ■趣味

写真撮影、グラフィックデザイン、外国語、クラブト、読書、冒険

### ■近況

ここ国際高専にいるのはとても楽しい。学生たちが勇気をもって冒険に挑み、世界中の人達とつながりを持っていけるよう尽力をつくしたいと思っている。



助教

## ジェイソン・デ・ツィリー

Jason de Tilly

### ■担当科目

(白山麓) 化学 I A・I B・II A・II B、生物 I A・I B・II A・II B

### ■略歴および専門分野

[カナダ]ライオネルグルクス大学卒業(動物健康学)、[カナダ]モントリオール大学卒業(生物学)。島根県松江市内高校にての外国語指導助手(ALT)を経て、平成29年10月本校助教就任。

### ■横顔

国際高専で実に久し振りに生物を専門とする先生がやってきました。カナダのケベック州モントリオール出身で母国語はフランス語です。もちろん英語もパーフェクトです。金沢の前には島根県のいくつかの高校で英語を指導していました。日本の城下町から城下町へと引越してきました。松江とはまた趣きの違う金沢での生活を楽しましにしてみました。

### ■趣味

音楽鑑賞、テレビ鑑賞、Youtube鑑賞、読書、テニス、ハイキング、サイクリング、ビデオゲーム

### ■近況

国際高専で働けることをとても喜んでます。将来、社会を構成する学生達と出会って教えることを楽しみにしています。有効に時間を使い、この新しい冒険に向かって力を合わせて行きましょう。



助教

## ライアン・ビセンシオ

Ryan Vicencio

### ■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

### ■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学卒業(化学工学、分子病態生化学)。Dover Chemical Corporationにてエンジニアリングのインターンシップを経て、平成30年6月本校助教就任。専門は化学工学、分子病態生化学。

### ■横顔

ラボで実験に取り組むことが大好きですが、それ以上に学生達と一緒に勉強や作業をしてうまく行った時の彼らの目の輝きを見るのが好きです。彼らがここ国際高専で成功するのに必要な知識を見つけ出す手助けが出来れば嬉しいです。そして、学生達が将来達成できたことを見るのを待ち望んでいます。

### ■趣味

サッカー、バレーボール、スノーボード、ピアノ

### ■近況

2016年金沢工大でのKIT-IJSTのプログラムに2ヶ月間参加しました。また金沢に戻って来ることが出来てワクワクしています。私の日本語はまだですが、学生達の英語力くらいに到達出来ればと思っています。



助教

## バルトシュ・ミシュコヴィエツ

Bart Miskowicz

### ■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

### ■略歴および専門分野

ローズハルマン工科大学卒業(コンピュータサイエンス)。副専攻は数学、英語英文学。DDMI(インディアナ州)ディレクトサブライ(ウイスコンシン州)勤務を経て平成30年4月本校助教就任。専門はコンピュータサイエンス。

### ■横顔

コンピュータ理論、人工知能、ソフトウェア開発等コンピュータに関わる学習を行ってきたが、数学や英文学に強い興味を持っている。また、ポーランド語が堪能で、現在日本語を勉強中。

### ■趣味

ファゴット、トランペットなどの楽器演奏。

### ■近況

日本語プログラムで6週間滞在した石川県にまた戻ることができて喜んでます。国際高専の学生と共に生活し、ともに学んでいきたいと思っています。



助教

## フォード・リピチ

Forde Ripich

### ■担当科目

ラーニングメンターとして国際高専学生の日常の学習指導を実施

### ■略歴および専門分野

クリーブランド州立大学を経てローズハルマン工科大学機械工学科卒業。大学では専門の機械工学だけではなく日本大衆文化や東京トラベルコースなどの授業を受けた。平成30年4月本校助教就任。専門は機械工学。

### ■横顔

ものづくりとそのワークステーションに強い興味をもっている。インターンシップではアメリカンタンクアンドファブリケーティングで溶接鋼板クレーンブームの製造ラインやワークステーションの設置に関わった。またローズハルマンベンチャーでは様々な顧客とプロジェクトに関わった。

### ■趣味

機械いじり、旅行、モータースポーツ

### ■近況

国際高専の学生と夢考房でプロジェクトが出来たらと思う。またフォーミュラカーデザイン・組み立てなどの活動がしてみたいと思います。いっしょにプロジェクトをやってみましょう。

# 穴水湾自然学苑



穴水湾自然学苑長・教授

菅原 光彦

Mitsuhiko Sugawara

## ■担当科目

人間と自然（自然学苑研修）

## ■略歴および専門分野

五橋中学校（宮城県）出身  
防衛大学校電気工学科卒（カッター部）海上自衛隊のテストパイロットとして航空機および搭載装備品などの研究、開発、飛行試験に従事。開発した航空機・機器は、試験評価機UP-3C、救難飛行艇US-2、シミュレータ（P-3C、US-1、US-2）、搭載機器（GPS、波高計）等。テストパイロット学校教官、航空機等開発部隊、訓練指導部隊、技術研究本部航空機開発2室主任研究員兼US-2試験隊長、司令部幕僚などを経て、平成23年11月学苑講師就任。平成24年教授。平成26年4月苑長

## ■横顔

モットーは「明るく、前向き！」です。自分の学生時代を思い出しながら、学生の「やる気、元気、負けん気」を引き出せるよう創意工夫して穴水研修を準備しています。

## ■趣味

剣道（4段）。最近は、竹刀をゴルフのドライバーに持ち替えて、ドラコン挑戦中。社交ダンス（3級程度）、陶芸、茶道、釣りなどと広く浅く楽しんでいます。妻・娘に誘われた乗馬はオーバークエイトで入会を断られ、ダイエット中です。

## ■近況

北陸能登の豊かな海の幸、山の幸に幸せを感じている今日この頃、減量は困難な状況です。穴水湾自然学苑は、防大や海軍兵学校のあった江田島の雰囲気があり、毎日気持ち引き締まる思いで勤務しています。苑長室はオープンです。飛行機の話を知りたい方お待ちしております。



教授

渡邊 勲

Isao Watanabe

## ■担当科目

人間と自然（自然学苑研修）

## ■略歴および専門分野

第四中学校（大阪府枚方市）出身  
防衛大学校機械工学科卒。幹部学校指揮幕僚課程、統幕学校一般課程修了。海上自衛隊では哨戒機の戦術航空士として勤務。51空調査研究隊長、自衛艦隊計画主任幕僚、教育航空集団教育幕僚、第9航空隊（沖縄）司令、在日米軍司令部（横田）連絡官、岩国航空基地隊司令を経て、平成24年本学教授就任。平成23年9月に米国防軍長官経由合衆国大統領より「Meritorious Service Medal（勲功勳章）」を受賞。

## ■横顔

これまでの勤務においては、「澁刺たれ」をスローガンにしましたが、今後も若者たちに負けない様、さらに研鑽していきたいと思っています。

## ■趣味

大きな声で歌を歌うこと（合唱）、日曜大工をすること、本を読むこと

## ■近況

七尾の家には大きな薪ストーブがあるので、薪集めのため地元の「薪人の会」というサークルに入り、チェーンソーや斧を使って汗を流しています。「総ての季節は冬のためにある」をスローガンに田舎暮らしを満喫しております。



教授

中部 宏

Hiroshi Nakabe

## ■担当科目

人間と自然（自然学苑研修）

## ■略歴および専門分野

上永谷中学校（神奈川県）出身  
防衛大学校航空工学科卒。海上自衛隊では、固定翼操縦士として勤務。第205教育航空隊教育飛行隊長、教育航空集団司令部幕僚、第61航空隊副長、下総教育航空群司令部幕僚、厚木航空基地隊副長などを経て、平成25年11月、穴水湾自然学苑教授に就任。

## ■横顔

将来を担う若者の教育に携われることを大変光栄に感じております。学生のパワーに負けないよう日々精進し、教育理念の実現に向け全力を尽くす所存です。

## ■趣味

読書（歴史、推理）、映画鑑賞（近隣に映画館がないのが残念）、音楽鑑賞、ゴルフ、釣り、ウォーキング。

## ■近況

数年前に腰痛、五十肩を発症し、年を追うごとに体のあちこちにガタが出てくるのを実感しています。今年は、更にウォーキングに力を入れ、学生のパワーに負けない気力、体力を維持したいと考えています。



教授

米倉 幸増

Kouzou Yonekura

## ■担当科目

人間と自然（自然学苑研修）

## ■略歴および専門分野

河頭中学校（鹿児島県）出身  
防衛大学校応用化学科卒。海上自衛隊では回転翼操縦士及び軍事情報の分析官として勤務。千葉県、神奈川県、徳島県、東京都などの基地で司令部幕僚、情報調整官などを経て、平成26年8月、穴水湾自然学苑教授に就任。

## ■横顔

機械いじりが好きで細かな組み立て作業も苦にならないため、自転車、車、家電製品等が故障したら扱える範囲で分解修理に挑戦しています。学生時代は東京湾でカッターの練習に汗を流しましたが、穴水湾自然学苑で再びカッターに乗ることができて感激しています。大自然の中で将来を担う若者の教育に携わる機会を与えていただいたことに感謝しつつ、全力で取り組んでいきたいと思っています。

## ■趣味

家庭菜園、ジョギング、史跡散策など

## ■近況

大自然の中での生活、豊富な海の幸、山の恵みに感謝しつつ、美味しいものを味わい、近くの史跡巡りや自然に触れるなど、充実した毎日を送っています。